

# 学生便覧・シラバス

2 0 2 4 年 度

京都大学大学院薬学研究科  
(薬科学専攻・医薬創成情報科学専攻)

# 目 次

## I. 学生便覧

ポリシー／はじめに／沿革	2
京都大学大学院薬学研究科規程	12
2024年度薬学研究科学年暦	15
2024年度カレンダー	16
専攻、講座及び分野	17
薬学研究科基礎演習時間表	18
カリキュラムマップ薬科学専攻	19
薬学研究科学修要項（修士課程）薬科学専攻	20
薬学研究科修士課程科目配当表薬科学専攻	21
講義時間表（修士課程）薬科学専攻	22
薬学研究科学修要項・科目配当表（博士後期課程）薬科学専攻	23
薬学研究科学修要項・科目配当表（博士後期課程）医薬創成情報科学専攻	24
大学院共通科目群・大学院横断教育科目群の受講について	25
学生生活	26
連絡方法／学生証／学割証・各種証明書の交付／修学上の願出・届出等／経済生活／健康管理／保険／通学／遺失物・拾得物／受験心得／履修登録／成績の確認・異議申立／成績評価／GPA制度／履修取消制度／大学院共通科目群、大学院横断教育科目群科目／災害等に伴う休講等の措置／建物管理／自習室・ラーニングコモンズ／ハラスメントの防止と対応／薬学研究科・薬学部図書室／薬学研究科廃棄物処理指針／安全管理（薬学部防火心得）／就職／教育職員免許状／薬剤師国家試験／薬剤師（学士（薬学））に関係のある主な資格・業務一覧表	

## 資 料

薬学研究科関係教員	48
歴代学部長・研究科長等	50
薬学部建物内配置図	51
京都大学構内図・薬学部建物配置図	57

## II. シラバス

### 【修士課程】

#### (薬科学・医薬創成情報科学専攻共通)

創薬有機化学概論	59
創薬生命科学概論	61
創薬医療薬科学概論	63

#### (薬科学専攻)

創薬物理化学概論	64
基盤有機化学実験技術	66
基盤物理化学実験技術	68
基盤生物化学実験技術	70
基盤医療薬科学実験技術	72
基盤有機化学特論Ⅱ	74
基盤物理化学特論Ⅰ	75
基盤生物化学特論Ⅱ	76
基盤医療薬科学特論Ⅰ	77
基盤薬品創製化学演習	78
基盤薬品機能統御学演習	80
基盤薬品製剤設計学演習	81
基盤生体分子薬学演習	83
基盤生体情報薬学演習	84
基盤薬品動態医療薬学演習	85
基盤病態機能解析学演習	87
基盤精密有機合成化学演習	89
基盤生体機能化学演習	90
基盤生理活性制御学演習	91
基盤神経機能制御学演習	92
基盤医療薬剤学演習	94
実践創薬科学演習	95
基盤創発医薬科学演習	97
基盤薬科学特別演習	99
基盤薬品創製化学実験	100
基盤薬品機能統御学実験	101
基盤薬品製剤設計学実験	102
基盤生体分子薬学実験	103
基盤生体情報薬学実験	104

基盤薬品動態医療薬学実験	105
基盤病態機能解析学実験	106
基盤精密有機合成化学実験	108
基盤生体機能化学実験	109
基盤生理活性制御学実験	110
基盤神経機能制御学実験	111
基盤医療薬剤学実験	112
実践創薬科学実験	113
基盤創発医薬科学実験	114
基盤薬品創製化学実習	116
基盤薬品機能統御学実習	117
基盤薬品製剤設計学実習	119
基盤生体分子薬学実習	120
基盤生体情報薬学実習	121
基盤薬品動態医療薬学実習	122
基盤病態機能解析学実習	123
基盤精密有機合成化学実習	125
基盤生体機能化学実習	127
基盤医療薬剤学実習	128
実践創薬科学実習	130
基盤創発医薬科学実習	131

### 【博士後期課程】

#### (薬科学専攻)

先端薬科学研究演習Ⅰ	133
先端薬科学研究演習Ⅱ	134
先端薬科学特論	135

#### (医薬創成情報科学専攻)

医薬創成研究プロジェクト特論	137
システム生物学・医薬創成系研究	139
システム生物学・医薬創成系コンテンツ制作	140

# I. 學生便覽

## ○学部・研究科の理念

薬学は医薬品の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学であり、諸基礎科学の統合を基盤とする学際融合学問領域と位置づけられる。本学部・研究科は諸学問領域の統合と演繹を通じて、創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康と社会の発展に貢献することを目標とする。

## ○薬学研究科

### 【教育理念】

創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、薬学の学修・研究を通じて、創薬研究者と先端医療を担う人材を育成することによって、人類の健康と社会の発展に貢献することを理念とする。

### 【人材養成の目的】

生命倫理を基盤に、薬学の基礎となる自然科学の諸学問と薬学固有の学問に関する知識と技術および、研究者、医療人として適正な態度を修得し、独創的な創薬研究を遂行しうる薬学研究者、高度な先端医療を担う人材の育成を目指す。

## 薬科学専攻

### 【理念】

創薬科学の学修・研究を通じて、創薬科学研究の発展を担いうる人材を育成することによって、人類の健康と社会の発展に貢献することを理念とする。

### 【人材養成の目的】

薬学関連の基礎科学を基盤として、創薬科学および関連分野の基礎から応用に関する研究を実践し、創薬科学および関連分野の学問に関する知識と技能、科学的問題の発見・解決能力の涵養を通じて、独創的な創薬科学研究を遂行しうる薬科学研究者、教育者として求められる資質と能力を有する人材の育成を目指す。

## 医薬創成情報科学専攻

### 【理念】

薬科学と情報科学の学修・研究を通じて、医薬創成情報科学研究の発展を担いうる人材を育成することによって、人類の健康と社会の発展に貢献することを理念とする。

### 【人材養成の目的】

生命科学、情報科学、創薬科学の融合を基盤とする医薬創成情報科学および関連分野の基礎から応用に関する研究を実践し、医薬創成情報科学および関連分野の学問に関する知識と技能、科学的問題の発見・解決能力の涵養を通じて、独創的な医薬創成科学研究を遂行しうる薬科学研究者、教育者として求められる資質と能力を有する人材の育成を目指す。

## ディプロマ・ポリシー ○薬科学専攻（修士課程）

薬学研究科は、諸学問領域の統合と演繹を通じて世界に例を見ない創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康の進展と社会の発展に大きく貢献できる人材の育成を目的としています。本研究科では、2年以上在学して研究指導を受け、本研究科の教育目的の下に設定された授業科目を履修して所定単位数以上を修得し、かつ修士論文の審査および試験に合格することを通して、次に掲げる目標を達成した学生に、修士（薬科学）の学位を授与します。

1. 薬科学に関する高度な専門知識と技能を修得し、世界水準の薬科学研究を理解することができる。
2. 薬科学における個々の知識を総合化し、既成の権威や概念に囚われることなく、それぞれの専門領域において創造性の高い研究を行う素地ができている。
3. 科学・技術的な課題について薬科学の知識を基に解決策を提示でき、また、世界が将来直面する可能性のある課題についても、それを把握・予測し、科学的根拠に基づき解決方法を構想できる。
4. 薬科学の意義と重要性を理解し、強い責任感、使命感と高い倫理性をもって、その発展と応用に寄与することを目指した行動ができる。
5. 幅広い視野と教養を身につけ、薬科学に関して異なる文化・分野の人々とも円滑にコミュニケーションできる。
6. 執筆した修士論文が学術上あるいは實際上、薬科学に寄与する研究成果を有している。

## ディプロマ・ポリシー ○薬科学専攻（博士後期課程）

薬学研究科は、諸学問領域の統合と演繹を通じて世界に例を見ない創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康の進展と社会の発展に大きく貢献できる人材の育成を目的としています。本研究科では、原則として3年以上在学して研究指導を受け、本研究科の教育目的の下に設定された授業科目を履修して所定単位数以上を修得し、かつ独創的研究に基づく博士論文の審査および試験に合格することを通して、次に掲げる目標を達成した学生に、博士（薬科学）の学位を授与します。なお、学修・研究について著しい進展が認められる者については、在学期間を短縮して博士後期課程を修了することができます。

1. 高度な基礎科学の理解および薬科学の体系的・先端的知識と技能を備え、それらを柔軟に活用する能力を身につけている。
2. 薬科学に関する深い学識に基づき、独自の発想力を発揮して研究を実施し、新たな知的価値を創出することができる。
3. 科学・技術および広汎な社会的課題について薬科学の知識を総合して複数の解決策を提示でき、また、世界が将来直面する可能性のある課題についても、それを把握・予測し、科学的根拠に基づいて、柔軟かつ的確に対応できる高度な解決力を有している。
4. 薬科学の意義と重要性を理解し、強い責任感、使命感と高い倫理性をもって、その発展と応用に寄与することを目指した行動を通して、人や自然との調和ある共存に貢献できる。
5. 幅広い視野と教養を身につけ、薬科学に関する研究成果を世界に向けて発信・説明できる能力を有している。
6. 執筆した博士論文が学術上あるいは實際上、薬科学に寄与する特に優れた研究成果を有している。

## ディプロマ・ポリシー ○医薬創成情報科学専攻（博士後期課程）

薬学研究科は、諸学問領域の統合と演繹を通じて世界に例を見ない創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康の進展と社会の発展に大きく貢献できる人材の育成を目的としています。本研究科では、原則として3年以上在学して研究指導を受け、本研究科の教育目的の下に設定された授業科目を履修して所定単位数以上を修得し、かつ独創的研究に基づく博士論文の審査および試験に合格することを通して、次に掲げる目標を達成した学生に、博士（薬科学）の学位を授与します。なお、学修・研究について著しい進展が認められる者については、在学期間を短縮して博士後期課程を修了することができます。

1. 高度な基礎科学の理解および医薬創成情報科学の体系的・先端的知識と技能を備え、それらを柔軟に活用する能力を身につけている。
2. 医薬創成情報科学に関する深い学識に基づき、独自の発想力を発揮して研究を実施し、新たな知的価値を創出することができる。
3. 科学・技術および広汎な社会的課題について医薬創成情報科学の知識を総合して複数の解決策を提示でき、また、世界が将来直面する可能性のある課題についても、それを把握・予測し、科学的根拠に基づいて、柔軟かつ的確に対応できる高度な解決力を有している。
4. 医薬創成情報科学の意義と重要性を理解し、強い責任感、使命感と高い倫理性をもって、その発展と応用に寄与することを目指した行動を通して、人や自然との調和ある共存に貢献できる。
5. 幅広い視野と教養を身につけ、医薬創成情報科学に関する研究成果を世界に向けて発信・説明できる能力を有している。
6. 執筆した博士論文が学術上あるいは實際上、医薬創成情報科学に寄与する特に優れた研究成果を有している。

## カリキュラム・ポリシー○薬科学専攻（修士課程）

薬科学専攻修士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、導入教育、研究特論、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講するとともに、修士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、カリキュラムマップを用いてその体系性や構造を明示しています。

これらのカリキュラムを通じて、強い責任感・使命感と高い倫理性、基盤的・先端的な専門知識と技能、専門分野にとらわれない分野横断的な学修、問題発見能力と問題解決能力、独創的な創薬研究を担うための能力を修得します。

教育・学修方法、学修成果の評価については以下のように方針を定めます。

### 1. 教育・学修方法

- (1) 導入教育では、講義にて創薬研究に関連する分野の現状を把握し、研究遂行に必要な基本的知識を身につけます。一部の講義は専攻を横断して開講されます。
- (2) 研究特論では、講義にて創薬分野における専門知識や理論を身につけます。
- (3) 演習では、プレゼンテーション・論理的思考・問題解決能力を身につけます。
- (4) 実験では、研究立案・遂行・問題解決能力を身につけます。
- (5) 実習では、高いコミュニケーション能力、表現能力、他者との協調性を涵養するとともに、学修計画の立案能力や指導法を身につけます。
- (6) 研究指導では、薬科学に関する研究を実施し、専門的知識に基づいた論理的説明能力と研究遂行力を身につけます。

### 2. 学修成果の評価

各科目の評価基準・方法はシラバスに示されています。修士論文では、当該分野における学術的意義・新規性・創造性を有する論文をとりまとめて発表し、3名以上の調査委員により、論文審査と口頭試問によって評価されます。

## カリキュラム・ポリシー○薬科学専攻（博士後期課程）

薬科学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、特論、演習を適切に組み合わせた授業科目を開講するとともに、博士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、カリキュラムマップを用いてその体系性や構造を明示しています。

これらのカリキュラムを通じて、強い責任感・使命感と高い倫理性、基盤的・先端的な専門知識と高度な技能、専門分野にとらわれない分野横断的な学修、研究を企画・遂行できる能力、国際的な水準で議論し必要に応じて協力体制の構築に寄与できる能力、創造性豊かな優れた研究・開発能力を修得します。

教育・学修方法、学修成果の評価については以下のように方針を定めます。

### 1. 教育・学修方法

- (1) 特論では、講義にて創薬分野における最先端の研究内容を履修し、幅広い視点と素養を修得します。
- (2) 演習では、優れたプレゼンテーション能力・リーダーシップ・外国語によるコミュニケーション能力・論理的思考力・問題解決能力を身につけます。
- (3) 研究指導では、薬科学の発展に貢献する専門的で独創的な研究を立案、計画、実践し、学術論文や学会発表を通じて社会に成果を発表し還元します。権威ある学術雑誌に査読付き原著論文を投稿できる段階まで研究を進めることが求められます。

## 2. 学修成果の評価

各科目の評価基準・方法はシラバスに示されています。博士論文では、当該分野における学術的意義・新規性と創造性・研究によってもたらされた知見の科学的検証または証明の妥当性等を有する論文をとりまとめて発表し、3名以上の調査委員により、論文審査と口頭試問によって評価されます。

## カリキュラム・ポリシー○医薬創成情報科学専攻（博士後期課程）

医薬創成情報科学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、講義、研究、医薬創成 IT コンテンツ制作を適切に組み合わせた授業科目を開講するとともに、博士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、カリキュラムマップを用いてその体系性や構造を明示しています。

これらのカリキュラムを通じて、強い責任感・使命感と高い倫理性、基盤的・先端的な専門知識と高度な技能、専門分野にとらわれない分野横断的な学修、研究を企画・遂行できる能力、国際的な水準で議論し必要に応じて協力体制の構築に寄与できる能力、創造性豊かな優れた研究・開発能力を修得します。

教育・学修方法、学修成果の評価については以下のように方針を定めます。

### 1. 教育・学修方法

- (1) 講義では、医薬創成情報科学研究に必要な応用基盤の確立を目指します。
- (2) 研究では、より高度で創造性豊かな研究能力を身につけます。
- (3) 医薬創成 IT コンテンツ制作では、優れたプレゼンテーション能力・リーダーシップ・外国語によるコミュニケーション能力・論理的思考力・問題解決能力を涵養し、より高度で専門的な IT コンテンツを作成します。
- (4) 研究指導では、医薬創成情報科学の発展に貢献する専門的で独創的な研究を立案、計画、実践し、学術論文や学会発表を通じて社会に成果を発表し還元します。権威ある学術雑誌に査読付き原著論文を投稿できる段階まで研究を進めることが求められます。

### 2. 学修成果の評価

各科目の評価基準・方法はシラバスに示されています。博士論文では、当該分野における学術的意義・新規性と創造性・研究によってもたらされた知見の科学的検証または証明の妥当性等を有する論文をとりまとめて発表し、3名以上の調査委員により、論文審査と口頭試問によって評価されます。

## 学位授与基準

### ○修士課程（薬科学専攻）

修士学位論文の審査にあたっては、学位論文が当該分野における学術的意義、新規性、創造性等を有しているかどうか、ならびに学位申請者が研究遂行力、論理的説明能力、関連研究領域における幅広い専門的知識、学術研究における倫理性等を有しているかどうかを基に審査する。

### ○博士後期課程（薬科学専攻・医薬創成情報科学専攻）

博士学位論文の審査にあたっては、学位論文が当該分野における学術的意義、新規性と創造性、研究によってもたらされた知見の科学的検証または証明の妥当性などを有しているかどうか、ならびに学位申請者が、研究企画力および研究遂行力、論理的説明能力、関連研究領域における高度で幅広い専門的知識、学術研究における高い倫理性等を有しているかどうかを基に審査する。

## はじめに

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学研究科は、諸学問領域の統合と演繹を通じて世界に例を見ない創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築して、生命倫理を基盤に独創的な創薬研究を行うことのできる資質と能力を有する研究者の育成と先端的創薬科学・医療薬学研究の遂行を通して社会の発展に貢献することを目標としています。

京都大学薬学研究科は、1953（昭和 28 年）に設置され、1965（昭和 40）年に 2 専攻 13 講座となり 1992（平成 4）年まで運営されていましたが、1993（平成 5）年に 2 講座の新設を含む独立専攻が新たに設置され、さらに 1997（平成 9）年には大学院重点化を行い、3 専攻 8 大講座 3 協力講座からなる体制に再編成され、先端的な薬学研究に取り組むこととなりました。さらに、2003（平成 15）年から 2 つの寄附講座、2006（平成 18）年には 3 分野からなる総合薬学フロンティア教育センター、2007（平成 19）年には新たに 4 番目の専攻および 1 つの寄附講座がそれぞれ設置されました。2009（平成 21）年度までは、創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻、医薬創成情報科学専攻の 4 専攻 12 講座 35 分野（4 協力講座、3 寄附講座、4 プロジェクト型分野（統合薬学フロンティアセンター））から成っていましたが、学部教育制度の変更に伴って修士課程の創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の 3 専攻が薬科学専攻の 1 専攻に改組され、2010（平成 22）年度から医薬創成情報科学専攻との 2 専攻体制になりました。同年、統合薬学教育開発センター（4 分野）、最先端創薬研究センター（2 分野）が新設されました。さらに 2012（平成 24）年度からは博士後期課程も 3 専攻から薬科学専攻の 1 専攻に改組され医薬創成情報科学専攻との 2 専攻体制になると共に六年制学部卒業生を対象とする博士課程薬学専攻が新設されました。2022（令和 4）年度からは、従来の専攻にさらに整備を行い、5 年一貫制博士課程の創発医薬科学専攻が新設され、創発医薬科学専攻・薬科学専攻・薬学専攻の 3 専攻体制となり、2023（令和 5）年度現在では、3 専攻 12 講座 38 分野（11 協力講座、1 産学共同講座、7 プロジェクト型分野（統合薬学教育開発センター、実践創薬研究プロジェクト、特別研究推進室））となりました。

薬科学専攻においては 2 年間の修士課程（博士前期課程）とそれに続く 3 年間の博士後期課程からなっています。修士課程薬科学専攻においては、講義、基礎演習、実験、実習、特別演習を履修し、さらに特定の研究課題について指導教員の指導による研究を行います。講義は概論、実験技術、研究特論に区分されており、それぞれに配当される科目の中から、定められた数以上の科目を選択して履修しなければなりません。基礎演習、実験、実習、特別演習の履修は必修です。

薬学専攻は 2006（平成 18）年度以降に入学した六年制の薬学部・薬科大学を卒業した後さらに広い視野に立って専門的学識を深め、研究の力を養うことを希望する学生が

進学する 4 年間の大学院博士課程です。博士課程薬学専攻においては、講義、演習、実験、実習を履修し、さらに特定の研究課題について指導教員の指導による研究を行います。講義は概論、実験技術、研究特論に区分されており、それぞれに配当される科目の中から、定められた数以上の科目を選択して履修しなければなりません。概論、実験技術、演習、実験、実習の履修は必修です。

創発医薬科学専攻は 2022（令和 4）年度に設立された 5 年一貫制博士課程で、講義、演習、実験及び実習と共に、指導教員の研究指導のもとに、定期的な Qualifying Examination（QE：質評価）を受け、連続した研究期間を活用した自由度の高い長期研究や挑戦的研究を行います。講義等は基盤科目、展開科目、能力開発科目、論文作成科目に区分されており、それぞれに配当される科目の中から、定められた数以上の科目を選択して履修しなければなりません。

修士課程、博士後期課程または一貫制博士課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、研究論文の審査および試験に合格した者には、それぞれ「修士（薬科学）」、「博士（薬科学）」の学位が授与されます。また、博士課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、研究論文の審査および試験に合格した者には、「博士（薬学）」の学位が授与されます。

薬学研究科の出身者は主に大学、企業、国公立研究所、官庁、医療機関などに就職し、その専門ならびに関連領域において研究者、教育者、技術者、薬剤師などとして活躍しています。社会のグローバル化に伴い、リーダーとして活躍するには博士取得が必須となっています。

大学院時代は先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行する能力を鍛え、研究者、教育者などとして飛躍する基盤を築く時期ですから、心身の健康に留意しつつ有意義な大学院生生活を過ごされることを期待しています。

## 薬学部・薬学研究科沿革

年 月 日	記 事
1939. 3.30	医学部に薬品分析化学講座、薬品製造学講座新設
3.31	医学部に薬学科新設
1940. 6.25	有機薬化学講座新設
12.10	無機薬化学講座新設
1941. 4.15	生薬学講座新設
12.27	学位規程の一部改正により本学にて授与の学位中に薬学博士追加
12.28	医学部薬学科第1回卒業式挙行
1949. 5.31	国立学校設置法により新制京都大学設置
1951. 4. 1	薬剤学講座新設
1952. 4. 1	生物薬品化学講座新設
1953. 4. 1	京都大学大学院に薬学研究科（薬学専攻）設置
4. 7	大学院薬学研究科規程制定
1954. 4. 1	医学部内に有機微量元素分析総合研究施設設置
1960. 4. 1	薬学部（薬学科）設置 医学部の薬品分析化学、薬品製造学、有機薬化学、無機薬化学、生薬学、薬剤学、生物薬品化学の各講座を廃止し、薬学部薬品分析学、薬品製造学、有機薬化学、無機薬化学、生薬学、薬剤学、生物薬品化学の各講座を新設 医学博士教授山本俊平医学部長、薬学部長事務取扱に就任 有機微量元素分析総合研究施設内規の一部改正により薬学部内に同施設附置
4.12	薬学部規程制定
5. 1	薬学博士富田真雄教授初代薬学部長に就任
1961. 4. 1	製薬化学科新設、薬用植物化学講座新設
1962. 4. 1	薬品作用学講座、薬品工学講座新設
1963. 4. 1	薬品物理化学講座、衛生化学講座新設
1964. 4. 1	放射性薬品化学講座新設
1965. 4. 1	薬学研究科製薬化学専攻新設
1966. 4. 1	薬品作用学講座を薬理学講座に、生物薬品化学講座を生物化学講座に改める
1973. 4.12	薬学部附属薬用植物園設置
1977. 2.24	薬学博士井上博之教授初代薬学研究科長に就任
1987. 5.21	薬品工学講座を微生物薬品学講座に改める
1993. 4. 1	薬品作用制御システム専攻（独立専攻）新設
1997. 4. 1	薬学部の薬学科、製薬化学科を総合薬学科に改組 薬学研究科の薬学専攻、製薬化学専攻、薬品作用制御システム専攻を創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻に改組
1998. 4. 9	附属薬用植物園を大学院薬学研究科附属に移行
1999. 4. 1	生命科学研究所設置
2002. 4. 1	薬品製剤設計学講座薬品分子構造学分野を同講座ゲノム創薬科学分野に改称 薬品機能統御学講座に構造生物薬学分野を新設
2002.10.31	薬学研究科総合研究棟竣工
2003. 4. 1	寄付講座「創薬神経科学講座」を新設

	薬学研究科附属創薬・医療連携薬学コア部門新設
8. 1	寄附講座「医薬品理論設計学」講座新設
9. 4	21世紀COEプログラム採択に伴い協力講座生命知識システム学分野設置 (設置期間：21世紀COEプログラム実施期間)
2004. 4. 1	国立大学法人京都大学設立
2006. 4. 1	薬学部の総合薬学科を薬科学科、薬学科に改組 薬学研究科附属統合薬学フロンティア教育センター新設
2007. 4. 1	医薬創成情報科学専攻（独立専攻）新設
5. 1	寄附講座「ナノバイオ医薬創成科学講座」を新設
2008.10. 1	寄附講座「システム創薬科学講座」を新設
2009. 4. 1	革新的ナノバイオ創薬研究拠点を新設
2010. 4. 1	最先端創薬研究センター新設 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻（修士課程）を薬科学専攻（修士課程）に改組 統合薬学教育開発センター新設
2012. 4. 1	創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻（博士後期課程）を薬科学専攻（博士後期課程）に改組 薬学専攻（博士課程）新設 寄附講座「医薬産業政策学講座」を新設
2014. 5.31	附属薬用植物園移設
2017. 3.31	医薬系総合研究棟竣工
2018. 4. 1	分子脳科学研究室に関する内規の裁定により、薬学研究科に分子脳科学研究室を設置
11.15	医薬創成情報科学専攻医薬創成情報科学講座に分子代謝学分野を新設
2019. 4. 1	有機触媒化学研究室に関する内規の裁定により、薬学研究科に有機触媒化学研究室を設置
2021. 5. 1	産学共同講座「ナノバイオ医薬創成科学講座」新設
2022. 4. 1	創発医薬科学専攻（5年一貫制博士課程）新設、同専攻に創発医薬科学講座を設置

# 京都大学大学院薬学研究科規程

[昭和 28 年 4 月 7 日達示第 11 号制定]

## 第 1 専攻

第 1 条 本研究科の専攻は、次に掲げるとおりとする。

薬科学専攻

薬学専攻

創発医薬科学専攻

## 第 2 入学

第 2 条 入学手続及び入学者選抜方法は、薬学研究科会議（以下「研究科会議」という。）で定める。

2 京都大学通則（以下「通則」という。）第 36 条の 2 第 1 項ただし書の規定による入学に関する事項は、研究科会議で定める。

第 3 条 入学候補者の決定は、研究科会議で行う。

## 第 3 転学、転科及び転専攻

第 4 条 通則第 40 条第 1 項の規定により本研究科に転学又は転科を志望する者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

2 本研究科学生で、転専攻を志望する者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

## 第 4 授業、研究指導及び学修方法

第 5 条 科目、その単位数、授業時間数及び研究指導に関する事項は、研究科会議で定める。

第 6 条 各学生につき、指導教員を定める。

2 学生は、学修につき、指導教員の指導を受けなければならない。

第 7 条 学生は、履修する科目を定め、所定の期日までに届け出なければならない。

第 8 条 通則第 44 条第 1 項の規定により他の研究科等の科目を履修し、又は他の研究科において研究指導を受けようとする者は、指導教員の承認を得て、所定の期日までに薬学研究科長に願い出なければならない。

第 9 条 通則第 45 条第 1 項、第 2 項又は第 4 項の規定により他の大学の大学院の科目を履修し、又は外国の大学の大学院に留学し、その科目を履修しようとする者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

2 通則第 45 条第 3 項の規定により外国の大学の大学院が行う通信教育における授業科目を我が国において履修しようとする者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

3 通則第 46 条第 1 項の規定により他の大学の大学院若しくは研究所等において研究指導を受け、又は休学することなく外国の大学の大学院若しくは研究所等に留学し、研究指導を受けようとする者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

4 前 3 項の規定による許可の願い出については、前条の規定を準用する。

第 10 条 次の各号に掲げる科目、単位数、研究指導及び在学年数は、研究科会議の議を経て、それぞれ修士課程、博士後期課程、博士課程又は一貫制博士課程の修了に必要な科目、単位数、研究指導又は在学年数として認定することができる。

(1) 転学、転科又は転専攻前に、本学又は他の大学の大学院で履修した科目、単位数、受けた研究指導及び在学年数の一部又は全部

(2) 前 2 条の規定により履修した科目、単位数及び受けた研究指導の一部又は全部

(3) 通則第 46 条の 2 第 1 項の規定により本研究科に入学する前に大学院において履修した科目について修得した単位数（大学院設置基準（昭和 49 年文部省令第 28 号）第 15

条において準用する大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条に定める科目等履修生として修得した単位数を含む。）の一部又は全部

## 第5 試 験

第11条 科目の試験の期日及び方法は、研究科会議で定める。

## 第6 論文の審査、課程修了の認定等

第12条 修士論文及び博士論文の審査及び試験は、京都大学学位規程の定めるところにより研究科会議で行う。

第13条 修士課程、博士後期課程、博士課程及び一貫制博士課程の修了の認定は、研究科会議で行う。

2 通則第55条第2項の規定により修士の学位を授与する場合の修士課程の修了に相当する要件を満たすことの認定は、研究科会議で行う。

第14条 通則第57条の規定により学位を得ようとする者は、博士論文の審査及び試験に合格し、かつ、大学院の博士後期課程、博士課程又は一貫制博士課程を終えた者と同等以上の学識を有することの確認を受けなければならない。

第15条 前条に規定する者に係る学識の確認には、専攻学術に関する試問のほか、外国語2か国語の試問を課する。ただし、外国語の試問については、研究科会議において特別の事情があると認められた場合は、1か国語のみとすることができる。

2 前項の規定による試問は、筆答及び口頭により行う。ただし、研究科会議の議を経て、他の方法によることができる。

3 前条に規定する者に係る博士論文の審査及び試験は、大学院の博士後期課程、博士課程及び一貫制博士課程における論文の審査及び試験と同一の手続による。

第16条 本研究科の博士後期課程に所定の年限在学し、必要な研究指導を受けて退学した者、本研究科の博士課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けて退学した者又は本研究科の一貫制博士課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けて退学した者が、通則第57条の規定により学位の授与を申請したときは、研究科会議の議を経て、前条第1項に規定する学識の確認のための試問を免除することができる。

## 第7 外国学生、委託生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び特別交流学生

第17条 外国学生、委託生、科目等履修生又は聴講生として入学を志望する者には、選考のうえ、研究科会議の議を経て、許可することがある。

第18条 通則第63条第1項、第2項又は第3項の規定により特別聴講学生、特別研究学生又は特別交流学生として入学を志望する者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

## 附 則

この規程は、昭和28年4月1日から施行する。

[中間の改正規程の附則は、省略した。]

## 附 則

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻は、改正後の第1条の規定にかかわらず

ず、平成23年度以前に当該専攻に入学した者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

## 2024年度 薬学研究科学年暦

年 月 日	事 項
2024年 4月 1日(月)	前期始まり
4月 4日(木)	ガイダンス (新入生)
4月 5日(金)	入学式
4月 8日(月)～	前期授業
4月 中旬	定期健康診断
6月18日(火)	創立記念日 (授業休止)
8月 6日(火)～ 9月30日(月)	夏季休業
9月24日(火)	秋季大学院学位授与式
9月30日(月)	前期終わり
10月 1日(火)	後期始まり
10月 1日(火)～	後期授業
10月 5日(土)	秋季入学式
11月20日(水)～ 11月24日(日)	11月祭
12月29日(日)～ 2025年 1月 3日(金)	冬季休業
3月24日(月)	大学院学位授与式
3月31日(月)	後期終わり

# 2024年度カレンダー

2024年      は祝日及び休日

## 4 April

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

## 5 May

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

## 6 June

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

## 7 July

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

## 8 August

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

## 9 September

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

## 10 October

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 11 November

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

## 12 December

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## 2025年

### 1 January

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

### 2 February

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

### 3 March

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

京都大学大学院薬学研究科  
専攻、講座及び分野

専攻	講座	分野	
薬 科 学 （ 修 士 課 程 ）	薬科学 (博士後期課程)	薬品創製化学	薬品合成化学 薬品分子化学
		薬品機能統御学	薬品機能解析学 構造生物薬学
		薬品製剤設計学	製剤機能解析学
		精密有機合成化学	精密有機合成化学
		生体分子薬学	生体分子認識学 ウイルス制御学 病因免疫学
		生体機能薬学	多細胞システム学
		生体情報薬学	生体情報制御学
	薬学 (博士課程)	薬品動態医療薬学	数理治療薬学 臨床薬学教育
		病態機能解析学	病態機能分析学 薬剤設計学 生体機能解析学
		医療薬剤学	医療薬剤学
	創発医薬科学 (2022～) (一貫制博士課程)	創発医薬科学  (実践創薬研究プロジェクト) (実践創薬研究プロジェクト)	生体分子計測学 システム微生物学 神経再編成機構 薬理ゲノミクス・ゲノム創薬科学 創薬有機化学 システムバイオロジー システムケモセラピー(制御分子学) バイオ医薬品化学 創薬プロテオミクス 組織形成動力学 バイオインフォマティクス 生命知識工学 ケミカルバイオロジー がん・幹細胞シグナル学 代謝ゲノム薬学
医薬創成情報科学 (～2021) (博士後期課程)	医薬創成情報科学	薬理ゲノミクス・ゲノム創薬科学 創薬有機化学 システムバイオロジー システムケモセラピー・制御分子学 バイオインフォマティクス 生命知識工学 ケミカルバイオロジー	
統合薬学教育開発センター		医薬品開発教育 創薬科学教育 実践臨床薬学 情報科学教育	
産学共同講座		ナノバイオ医薬創成科学	
特別研究推進室		有機触媒化学	

2024年度 薬学研究科基礎演習時間表

\*は医薬創成情報科学専攻の開講科目

曜日	科目	時間	場所
月	薬品合成化学	9:00～12:00	2 2 講義室
	薬品分子化学	9:00～12:00	講義室C
	生体機能化学	9:00～12:00	化学研究所N-4Fセミナー室
	がん・幹細胞シグナル学	9:00～11:00	医生物学研究所 3号館 3階セミナー室
	数理治療薬学	9:30～12:00	マルチメディア講義室
	病因免疫学	9:30～11:00	医生物学研究所 4号館 203号室
	構造生物薬学	10:00～13:00	2 1 講義室
	病態機能分析学	10:30～12:00	総合研究棟 4階オープンカンファレンス
	代謝ゲノム薬学	10:30～12:00	医学生命科学総合研究棟セミナー室
	バイオ情報スキル* : 統合ゲノミクス	10:30～12:00	宇治総合研究実験棟 3階セミナー室
	生体分子計測学	13:00～17:00	講義室C
創薬プロテオミクス	13:00～17:00	講義室C	
火	リード化合物探索スキル* : 創薬有機化学	15:00～18:00	講義室C
	バイオ医薬品化学	15:00～18:00	講義室C
	標的遺伝子探索スキル* : 薬理ゲノミクス・ゲノム創薬科学	16:30～18:00	総合研究棟 3階オープンカンファレンス
水	神経再編成機構	13:00～14:30	A1 2 2号室
	ウイルス制御学	13:00～15:00	医生物学研究所 2号館 1階セミナー室
	医療薬剤学	16:30～18:00	附属病院薬剤部
	臨床薬学教育	16:30～18:00	附属病院薬剤部
	生体分子認識学	17:00～20:00	マルチメディア講義室
木	生体情報制御学	9:00～12:00	総合研究棟 4階オープンカンファレンス
	生体機能解析学	9:00～12:00	2 1 講義室
	薬剤設計学	9:00～12:00	マルチメディア講義室
金	多細胞システム学	9:00～13:00	2 2 講義室
	精密有機合成化学	10:30～12:00	化学研究所総合研究棟会議室 (CB217)
	ケミカル情報スキル* : 生命知識工学	10:30～12:00	宇治総合研究実験棟 3階 生命知識工学研究領域
	薬品機能解析学	13:00～18:00	2 1 講義室
	システム微生物学	14:00～17:00	2 2 講義室
	リード化合物探索スキル* : システムケモセラピー (制御分子学)	16:30～19:00	2 4 講義室
土	臨床研究スキル* : システムバイオロジー	9:00～14:00	2 1 講義室

# 大学院薬学研究所 (薬科学専攻) カリキュラムマップ

薬科学に関する研究成果を世界に向けて発信できる高い能力を有している

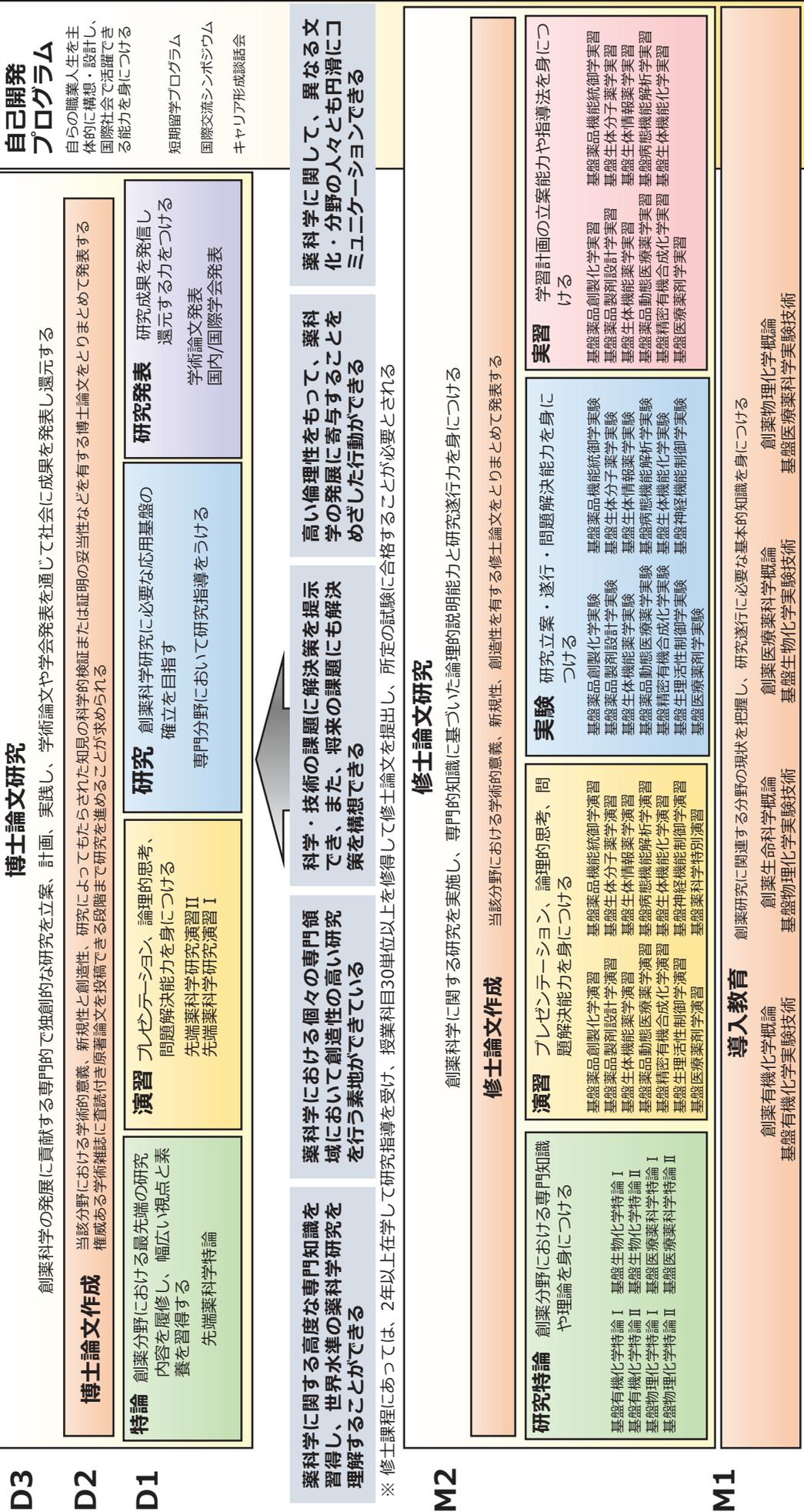
高い倫理性をもって薬科学の発展に寄与する行動を通して、人や自然との調和ある共存に貢献できる

科学・技術・社会的課題に複数の解決策を提示でき、将来の課題にも柔軟かつ的確に対応できる高度な解決力を有している

薬科学の深い学識に基づき、自由な発想力を創造的に展開して新たな知的価値を創出することができる

広い視野と教養、高度な基礎科学、薬科学の体系的・先端的知識と技能を備え、その活用能力を身につけている

※ 博士後期課程にあっては、原則として3年以上在学して研究指導を受け、授業科目6単位以上を修得して独自の研究成果を学術論文に発表し、これらに基づく博士論文を提出して所定の試験に合格することが必要とされる



自然科学、生命科学、医療薬学に関する基本的な知識と技能

# 京都大学大学院薬学研究科学修要項

(薬科学専攻)

(平成 27 年度以降入学者)

## 修士課程

1. 修士（薬科学）の学位を得ようとする者は、修士課程に2年以上在学して研究指導を受け、必修科目16単位、選択科目14単位、計30単位以上（別表1）を学修し、かつ修士論文を提出し、所定の試験を受けなければならない。
2. 研究指導は、学生が専攻する分野を担当する教員が実施するものとする。
3. 講義はすべて選択で、学生は希望する講義を受講することができる。ただし、概論2科目4単位、実験技術1科目2単位、研究特論4科目8単位以上を履修しなければならない。  
なお、学生が指導教員の承認を得て、本研究科の他専攻の講義や、本学の他研究科の講義を受講し、その単位を修得した場合には、3科目6単位以内は修士課程修了に必要な研究特論の単位数のなかに含めて認定することができる。
4. 基礎演習及び実験、実習は研究指導を担当する教員が専門とするものを必修とする。
5. 基礎演習は通年2単位、実験は通年4単位及び実習は通年1単位とする。
6. 特別演習は、必修とし、半期各年1単位、計2単位を修得しなければならない。
7. 成績評価は素点（100点満点）で行い、60点以上を合格とする。ただし、科目によっては、単に合格、不合格とする場合がある。

(別表1)

薬学研究科修士課程修得単位数表

科 目		必修科目	選択科目	計
講義	導入教育	概論 (専攻横断型科目及び 自専攻科目)	4	14
		実験技術	2	
	研究特論	8		
基礎演習		4		4
実験		8		8
実習		2		2
特別演習		2		2
計		16	14	30

## 2024年度 薬学研究科修士課程科目配当表

(薬科学専攻)

区分	ナンバリング コード	科目名	単 位	開講年度				備考		
				2024年度		(2025年度)				
				前	後	前	後			
講義	導入教育	概論 専攻横断型科目	GPHA0051026LJ86	創薬有機化学概論	2	集中		集中		2科目履修
			GPHA0051028LJ86	創薬医療薬科学概論	2	集中		集中		
			GPHA0051027LJ86	創薬生命科学概論	2	集中		集中		
	実験技術	自専攻科目	GPHA0151217LJ86	創薬物理化学概論	2	集中		集中		1科目履修
			GPHA0151205LJ86	基盤有機化学実験技術	2	集中		集中		
			GPHA0151206LJ86	基盤物理化学実験技術	2	集中		集中		
			GPHA0151207LJ86	基盤生物化学実験技術	2	集中		集中		
	研究特論		GPHA0151208LJ86	基盤医療薬科学実験技術	2	集中		集中		4科目履修
			GPHA0161209LJ86	基盤有機化学特論 I	2				2	
			GPHA0161210LJ86	基盤有機化学特論 II	2		2			
			GPHA0161211LJ86	基盤物理化学特論 I	2	2				
			GPHA0161212LJ86	基盤物理化学特論 II	2			2		
			GPHA0161213LJ86	基盤生物化学特論 I	2			2		
			GPHA0161214LJ86	基盤生物化学特論 II	2		2			
GPHA0161215LJ86	基盤医療薬科学特論 I	2		2						
GPHA0161216LJ86	基盤医療薬科学特論 II	2				2				
演習	基礎演習	GPHA0172301SJ86	基盤薬品創製化学演習	2	2		2	研究指導を担当する教員が専門とするものを必修とする		
		GPHA0172302SJ86	基盤薬品機能統御学演習	2	2		2			
		GPHA0172303SJ86	基盤薬品製剤設計学演習	2	2		2			
		GPHA0172304SJ86	基盤生体分子薬学演習	2	2		2			
		GPHA0172306SJ86	基盤生体情報薬学演習	2	2		2			
		GPHA0172307SJ86	基盤薬品動態医療薬学演習	2	2		2			
		GPHA0172308SJ86	基盤病態機能解析学演習	2	2		2			
		GPHA0172309SJ86	基盤精密有機合成化学演習	2	2		2			
		GPHA0172310SJ86	基盤生体機能化学演習	2	2		2			
		GPHA0172311SJ86	基盤生理活性制御学演習	2	2		2			
		GPHA0172312SJ86	基盤神経機能制御学演習	2	2		2			
		GPHA0172313SJ86	基盤医療薬剤学演習	2	2		2			
		GPHA0172315SJ86	実践創薬科学演習	2	2		2			
		GPHA0172316SJ86	基盤創発医薬科学演習	2	2		2			
	特別演習	GPHA0172314SJ86	基盤薬科学特別演習	2		集中		集中	必修	
実験		GPHA0173201EJ86	基盤薬品創製化学実験	4				研究指導を担当する教員が専門とするものを必修とする		
		GPHA0173202EJ86	基盤薬品機能統御学実験	4						
		GPHA0173203EJ86	基盤薬品製剤設計学実験	4						
		GPHA0173204EJ86	基盤生体分子薬学実験	4						
		GPHA0173206EJ86	基盤生体情報薬学実験	4						
		GPHA0173207EJ86	基盤薬品動態医療薬学実験	4						
		GPHA0173208EJ86	基盤病態機能解析学実験	4						
		GPHA0173209EJ86	基盤精密有機合成化学実験	4						
		GPHA0173210EJ86	基盤生体機能化学実験	4						
		GPHA0173211EJ86	基盤生理活性制御学実験	4						
		GPHA0173212EJ86	基盤神経機能制御学実験	4						
		GPHA0173213EJ86	基盤医療薬剤学実験	4						
		GPHA0173214EJ86	実践創薬科学実験	4						
		GPHA0173213PJ86	基盤創発医薬科学実験	4						
実習		GPHA0174201PJ86	基盤薬品創製化学実習	1				所属する講座が開講するものを必修とする		
		GPHA0174202PJ86	基盤薬品機能統御学実習	1						
		GPHA0174203PJ86	基盤薬品製剤設計学実習	1						
		GPHA0174204PJ86	基盤生体分子薬学実習	1						
		GPHA0174206PJ86	基盤生体情報薬学実習	1						
		GPHA0174207PJ86	基盤薬品動態医療薬学実習	1						
		GPHA0174208PJ86	基盤病態機能解析学実習	1						
		GPHA0174209PJ86	基盤精密有機合成化学実習	1						
		GPHA0174210PJ86	基盤生体機能化学実習	1						
		GPHA0174211PJ86	基盤医療薬剤学実習	1						
		GPHA0174212PJ86	実践創薬科学実習	1						
		GPHA0174213PJ86	基盤創発医薬科学実習	1						

※開講年度欄の「集中」は集中講義、数字は毎週平均の授業時数を表す

## 薬学研究科修士課程薬科学専攻講義時間表

2024年度

開講期	曜日	8:45 ~ 10:15	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15
前期	月				
	火	創薬生命科学概論(講堂)			
	水		創薬物理化学概論(講義室C)	創薬医療薬科学概論(講義室C)	
	木	創薬有機化学概論(講義室C)			
	金		基盤物理化学特論 I(講義室C)		
後期	月				
	火	基盤生物化学特論 II(講義室C)			
	水		基盤医療薬科学特論 I(講義室C)		
	木	基盤有機化学特論 II(講義室C)			
	金				

2025年度(予定)

開講期	曜日	8:45 ~ 10:15	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15
前期	月				
	火	創薬生命科学概論(講義室C)			
	水		創薬物理化学概論(講義室C)	創薬医療薬科学概論(講義室C)	
	木	創薬有機化学概論(講義室C)			
	金		基盤物理化学特論 II(講義室C)		
後期	月				
	火	基盤生物化学特論 I(講義室C)			
	水		基盤医療薬科学特論 II(講義室未定)		
	木	基盤有機化学特論 I(講義室C)			
	金				

# 京都大学大学院薬学研究科学修要項

(薬科学専攻)

(平成 27 年度以降入学者)

## 博士後期課程

1. 博士（薬科学）の学位を得ようとする者は、博士後期課程に3年以上在学して研究指導を受け、演習4単位以上及び特論2単位以上を学修し、かつ独創的研究に基づく博士論文を提出し、所定の試験を受けなければならない。  
なお、学修・研究について著しい進展が認められる者は、審査を経て、在学期間を2年に短縮して学位を得ることができる。
2. 演習は通年2単位とし、特論は半期2単位とする。演習は1年毎に、特論は半期毎に独立したものと見なす。
3. 演習は研究指導を担当する教員が専門とするものを必修とする。
4. 研究指導は、学生が専攻する分野を担当する教員が実施するものとする。
5. 成績評価は素点（100点満点）で行い、60点以上を合格とする。ただし、科目によっては、単に合格、不合格とする場合がある。

## 科目配当表（博士後期課程）

演習は通年2単位とし、特論は半期2単位とする。演習は1年毎に、特論は半期毎に独立したものとみなす。在学期間中に6単位（演習4単位、特論2単位）以上を履修する。

先端薬科学研究演習Ⅰ（通年、必修） GPHA0179011SJ86 薬科学専攻教員他

先端薬科学研究演習Ⅱ（通年、必修） GPHA0179012SJ86 薬科学専攻教員他

先端薬科学特論（前期・後期、必修） GPHA0169013LJ86 薬科学専攻教員他

# 京都大学大学院薬学研究科学修要項

(医薬創成情報科学専攻)

(平成 27 年度以降入学者)

## 博士後期課程

1. 博士（薬科学）の学位を得ようとする者は、博士後期課程に3年以上在学して研究指導を受け、講義2単位、研究8単位以上（別表3）を学修し、かつ医薬創成 IT コンテンツ（2単位）を制作したうえで、独創的研究に基づく博士論文を提出し所定の試験を受けなければならない。  
なお、学修・研究について著しい進捗が認められる者は、審査を経て、在学期間を2年に短縮して学位を得ることができる。
2. 研究および医薬創成 IT コンテンツ制作は、研究指導を担当する教員が専門とするものを必修とする。
3. 研究指導ならび IT コンテンツ制作指導は学生が専攻する分野を担当する教員が実施するものとする。
4. 講義は通年2単位、研究は通年4単位、及び医薬創成 IT コンテンツ制作は原則3年間で2単位とする。研究は1年毎に独立したものとみなす。
5. 成績評価は素点（100点満点）で行い、60点以上を合格とする。ただし、科目によっては、単に合格、不合格とする場合がある。

(別表3)

### 修得単位数表（博士後期課程）

(医薬創成情報科学専攻)

科目	必修科目	計
講義	2	2
研究	8	8
医薬創成 IT コンテンツ制作	2	2
計	12	12

(別表4)

### 科目配当表（博士後期課程）

(医薬創成情報科学専攻)

区分	ナンバリングコード	科目名	単位	配当回数			備考	
				1回生	2回生	3回生		
講義	博士先端特論	GPHA0267001LJ86	医薬創成研究プロジェクト特論	2	集中	集中	集中	必修
研究	博士研究	GPHA0277004SJ86	バイオインフォマティクス系研究	8	4	4	4	情報科学系出身者必修
		GPHA0277005SJ86	システム生物学・医薬創成研究	8	4	4	4	生命科学系出身者必修
医薬創成 IT コンテンツ制作	博士 IT コンテンツ制作	GPHA0277006SJ86	バイオインフォマティクス系コンテンツ制作	2	2			情報科学系出身者必修
		GPHA0277007SJ86	システム生物学・医薬創成系コンテンツ制作	2	2			生命科学系出身者必修

## 大学院共通科目群・大学院横断教育科目群の受講について

薬学研究科では大学院共通科目群・大学院横断教育科目群のうち、以下の科目の受講を推奨します。履修希望者はKULASISで履修登録のうえ、修了に必要な単位への読み替えを希望する場合は、履修登録後教務掛に修了要件認定願をご提出ください。様式はKULASISへ掲示いたします。

区 分	科 目 名
大学院共通科目群	研究倫理・研究公正（理工系）
	研究倫理・研究公正（生命系）
	アントレプレナーシップ入門
	学術研究のための情報リテラシー基礎
	データ科学：理論から実用へⅠ
	データ科学：理論から実用へⅡ
	大学院生のための英語プレゼンテーション
大学院横断教育科目群	生理化学概論
	グローバルヘルス通論

薬学研究科

#### ◆連絡方法について◆

学生のみなさんに対する種々の連絡・伝達事項は、基本的に KULASIS による掲示で行います。この掲示により、修学、課外教育、福利厚生等、学生生活に関する重要なことを連絡・伝達しますので、最低1日に1回は必ず掲示を確認するようにしてください。確認しなかった場合には、不利益等を受けることがありますので、各自充分注意してください。

また、KULASIS により授業や試験に関する情報等のお知らせや、学生の呼び出し連絡等も行っています。

電話による問い合わせには、緊急の場合を除き原則として応じませんので、直接教務掛窓口にて尋ねてください。

†窓口取扱時間：(月)～(金) 9:00～17:00

※ただし、授業休止期間は、9:00～12:00 13:00～17:00

#### ◆学生証について◆

学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯してください。なお、薬学部建物内では、防犯のため、配付したネームホルダーに学生証を入れて着用してください。試験時や、諸証明書等の交付時には学生証で身分等を確認するので提示してください。他人に貸与または譲渡してはなりません。

この学生証は附属図書館（中央図書館等）や学術情報メディアセンターの利用証も兼ね、各施設への入退館認証や証明書自動発行機にも利用できます。薬学部で実施される授業の出席登録にも利用します。さらに、4回生で分野に配属されると薬学部建物や薬学図書室への時間外入館が可能になりますが、その時の許可証としても利用します。

学生割引証や通学証明書によって乗車券・通学定期乗車券を購入、使用するときも、交通機関係員の要求があれば提示してください。

##### ① 紛失・盗難・破損等の場合

紛失・盗難・破損等の場合は、教務掛へ再交付申請をしてください。

なお、紛失・盗難の場合は、警察の届出受理番号が必要となります。第三者による悪用を防止するためにも、直ちに警察へ届け出て、届出受理番号を確認しておいてください。

また、紛失・盗難・破損時等の再交付は有料となりますので、予め京大生協で「学生証再発行クーポン券」を購入のうえ、学生証再交付願に貼付し、教務掛に提出してください。

##### ② 磁気ストライプの磁気異常時

教育推進・学生支援部教務企画課で再書き込みを行います。（無料）

ただし、磁気ストライプが破損している場合は有料での再交付となります。

##### ③ 初期不良時等

ICチップの初期不良並びに正常な利用における不具合発生時は、交付日から起算して2か月以内に申し出た場合に限り、無償で再交付します。

##### ④ 有効期限を過ぎて在籍するとき

教務掛にて所定の手続きを取ってください。詳細については掲示等によりお知らせします。

##### ⑤ 英文学生証が必要なとき

英文学生証は、学生の海外渡航に伴い、渡航先国において本学の学生であることを証明するため、希望する学部学生及び大学院学生を対象に発行します。

希望者は、申し込みの際に、貼付する写真（無帽正面上半身、無背景、縦3cm×横2.4cm、3ヵ月以内に撮影したもの、裏面に氏名を記入。）を持参の上、教務掛へ願い出てください。

#### ◆学割証・各種証明書の交付について◆

主な証明書類は、学内15箇所に設置された自動発行機により交付しています。それ以外の証明書については、教務掛窓口にて備え付けの証明書発行願に必要事項を記入して、発行希望日の2日以上前までに申し込んでください。ただし、その他特別な証明書に関しては、時間を要することがありますので、窓口で早めに確認してください。

（化学研究所に配属の学生については、学内便またはメールでの申し込み、学内便での送達も可能とします。）

① 学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の使用

学割証は、学生の修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的としているため、原則として次の目的を持って旅行をする必要がある場合の使用に限られています。

- (1) 休暇、所用による帰省
- (2) 正課の教育活動
- (3) 正課外の教育活動
- (4) 就職または進学のための受験等
- (5) 見学または行事への参加
- (6) 傷病の治療
- (7) 保護者の旅行への随行

・発行方法

学割証は証明書自動発行機により交付しています。（発行日から3ヶ月間有効）

・年間割当枚数

年間割当枚数は1人15枚までとなっています。

各自計画を立てて（全行程を一枚の学割証で購入する等）使用し、やむを得ず割当枚数を超える必要が生じた場合は教務掛に申し出てください。

② 通学証明書について

証明書自動発行機により交付しています。通学証明書には現住所・通学キャンパス等が証明されています。現住所を変更する場合はKULASISから申請してください。申請後は、教務担当での承認を必要とします。変更内容は、承認の翌日（土・日・祝日除く）に証明書自動発行機へ反映されます。通学キャンパスに変更や間違いがあった場合には、速やかに教務掛へ申し出てください。なお、申し出のあった変更は翌稼働日以降に反映されます。

・不正購入の禁止について

区間を偽って購入したり、通学以外の目的（サークル活動・アルバイト通勤など）で購入することは不正購入となります。不正購入はいかなる場合であっても許されません。本学学生の通学定期乗車券の販売が制限される場合がありますので、絶対に不正購入はしないでください。

・実習用定期乗車券の購入について

実習・研究等で、宇治または桂キャンパス、実習薬局への通学定期券を必要とする場合は、窓口まで申し出てください。鉄道会社等交通機関への申請手続きが必要なため、発行までに約2週間程度かかります。

③ 証明書自動発行機について

証明書自動発行機により証明書の交付を受けようとする場合は、学生証の認証とパスワードの入力が必要です。音声ガイダンスと画面の表示に従って画面タッチにより操作してください。パスワードについては、学生証交付時に通知します。パスワードは必ず定期的に変更し、忘れないよう管理してください。忘れた場合には、学術情報メディアセンター（南館1階）で学生証を提示のうえ再交付を受けてください。

○証明書自動発行機により交付できる証明書の種類（\*の証明書は英文での発行も可）

学部学生	在学証明書*、学割証、卒業（見込）証明書*、健康診断証明書、学業成績証明書*、学業成績及び卒業（見込）証明書
修士課程学生	在学証明書*、学割証、修了（見込）証明書*、健康診断証明書、学業成績証明書*、学業成績及び修了（見込）証明書
博士（後期）課程学生 一貫制博士課程学生	在学証明書*、学割証、修了（見込）証明書*、健康診断証明書、学業成績証明書*、学業成績及び修了（見込）証明書
研究生・特別研究学生	在籍証明書*、健康診断証明書
科目等履修生・特別聴講学生	在籍証明書*、学業成績証明書、健康診断証明書

- ※1.卒業見込、修了見込証明書については、最終学年時で一定の条件を満たした場合に可能です。
- 2.在学中の学生は、過去本学に在籍のあった学部等の証明書の発行も可能です。（他学部等の場合は、発行可能な証明書が異なる場合があります。）
- 3.薬学部設置の発行機稼働時間： 平日（月～金）8：30～18：00
- 4.自動発行機は保守等により停止する場合がありますので掲示等に注意してください。
- 5.成績証明書などで厳封が必要な場合や、自動発行された証明書に不備や疑問点等がある場合には、教務掛に申し出てください。

#### ◆ 修学上の願出・届出等について ◆

##### ① 休学する場合

疾病その他の事由により3ヶ月以上休学する場合、既に休学している場合で休学期間を延長する場合は、「休学（延長願）」の提出が必要です。休学を開始しようとする日の2週間前までに教務掛まで提出してください。（様式は教務掛にあります。）また、「休学（延長願）」には指導教員（グループ担任）の承認印が必要です。

「休学願」の提出が遅延すると希望する日から休学ができず、授業料納付が必要になる等で不利益が生じることがありますので注意してください。

なお、疾病による休学の場合には医師による「診断書」の提出が必要です。

##### ② 復学する場合

休学期間の途中に復学しようとする場合には「復学届」の提出が必要です。復学しようとする日の2週間前までに教務掛まで提出してください。（様式は教務掛にあります。）

また、疾病の治癒につき復学しようとする場合は、「京都大学復学診断書」を添えて願出する必要があります。

##### ③ 退学する場合

退学する日の2週間前までに「退学願」を教務掛まで提出してください。（様式は教務掛にあります。）また、「退学願」には指導教員（グループ担任）の承認印が必要です。

「退学願」の提出が遅延すると希望する日から退学ができず、授業料納付が必要になる等で不利益が生じることがありますので注意してください。

##### ④ 海外渡航する場合

勉学・旅行その他の事由により海外に行く場合は、渡航の3週間前までに KULASIS の部局ホーム「海外渡航情報登録」に入力してください。外国人留学生が帰省等で一時帰国する場合も提出してください。

また、留学、学会発表、語学留学、研修等のため海外渡航する場合、原則として「学研災付帯海外旅行保険」（付帯海学）へ加入してください。

なお、観光・帰省以外の海外渡航については、学生の危機管理のため、「アイラック危機管理システム」に渡航者登録を行います。

薬学部・薬学研究科ホームページ > 利用施設・申請 > 各種申請 > 学研災付帯 海外留学保険について

<https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/facility-use/application/travel-insurance/>

##### ⑤ 改姓（名）した場合

改姓（名）をした場合は、住民票記載事項証明書を添えて「改姓・改名届」を教務掛まで提出してください。（様式は教務掛にあります。）

また、改姓をしたがそのまま旧姓を使用したい場合はその旨教務掛に申し出てください。

なお、改姓（名）をした場合は学生証を無料で再発行できます。希望される場合は教務掛へ申し出てください。

##### ⑥ 住所変更をした場合

本人及び保護者等住所に変更がある場合は、速やかに KULASIS 「登録情報」の「連絡先・授

業料関係書類送付先の登録／変更」より申請してください。

⑦ 学内団体を結成する場合

本学学内団体規程に基づきます。詳細は教務掛まで問い合わせてください。

⑧ 学内団体を更新する場合

本学学内団体規程の基づき、毎年5月中旬までに届け出が必要です。詳細は教務掛まで問い合わせてください。

◆**経済生活について**◆

学業成績が優秀で、経済的に困窮している学生には、独立行政法人日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間育英事業の各種奨学金、授業料納付免除（授業料徴収猶予・分納を含む）等の制度が設けられています。詳細については、KULASISによりお知らせします。

◆**健康管理について**◆

1) 定期健康診断

学生の健康管理のため、4月に健康診断が実施されます。

日時等については、掲示等によりお知らせしますので、注意事項を守って必ず受検してください。受検しないと本学学生健康診断規程に定められているように、当該年度に行われる試験を受けることができないばかりでなく、奨学金受給用健康診断書（証明書）の発行など、様々な事柄に支障を来すことになります。

2) 特別健康診断

理科系学生に対する特別健康診断として、毎年秋頃に「大学院学生の化学薬品取扱者に対する健康診断」が実施されます。詳細については、掲示等により通知します。

◆**学生が加入しなければならない保険について**◆

京都大学では、日本人学生については「学生教育研究災害傷害保険（学研災）及び「学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）」への加入を、外国人留学生については「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び生協の「学生賠償責任保険」への加入が原則として必要です。

学研災は学生の教育・研究活動中、課外活動中、通学中の事故により被った傷害に適用される傷害保険制度です。実験・実習、フィールドワーク等の科目の履修にあたってはこれらの加入が必要であり、特に薬局実務実習（薬学科）の実施にあたっては、受入先がこれらの保険の加入を求めていますので、必ず加入してください。

詳細については、教育推進・学生支援部厚生課厚生掛に問い合わせてください。

◆**通学について**◆

1) 学生は、通学その他の目的で自動車により構内に入構することはできません。

ただし、研究科長が特に必要があると認めた学生には、申請に基づき「入構・駐車許可証」を交付します。この申請の手続き等についての詳細は、薬学研究科総務掛に照会してください。

2) 自転車・バイクは、所定の場所に駐輪してください。

◆**遺失物・拾得物について**◆

所持品等を紛失・置き忘れたり、また、拾得した場合は、速やかに届け出てください。拾得物の届け出があれば、教務掛事務室前ロッカーに保管していますので、心当たりのある人は窓口に申し出てください。

※落とし物が非常に多いので、所持品には氏名を書くなど、充分注意してください。

一定の保管期間が過ぎましたら処分しますので、ご了承ください。

◆**受験心得について**◆

試験時における受験心得については、ガイダンス又は掲示等にて説明します。

◆履修登録について◆

授業を履修しようとする場合は、前期・通年科目は4月上旬～中旬に、後期科目は9月下旬～10月中旬に、KULASISで履修登録が必要です。手続き等の詳細は別途掲示します。時間外学習時間の確保という観点から、セメスターごとに履修登録できる科目数の上限がCAP制により定められています。希望する科目を受講することができなくなる場合もありますので、履修登録の際に必ず確認してください。

履修登録作業を行わないと授業に出席しても単位が認定されず、進級・卒業に多大な影響を及ぼします。自己責任において必ず期間内に登録を完了してください。

◆成績の確認・異議申立について◆

前期科目は8月下旬に、後期及び通年科目は2月下旬に、KULASISで成績が確認できます。また、成績確認期間において、当該期の採点結果について、次の場合に限り異議を申し立てることができます。（手続等の詳細は別途掲示します。）

- ①採点の誤記入等、明らかに担当教員の誤りと思われるもの
- ②シラバス等により周知している成績評価の方法等から、明らかに疑義があるもの

◆成績評価について◆

成績表には、各科目とも素点（100点満点評価）または合否を表示します。成績証明書には合格点以上の科目について素点を評語に変換し、表示します。素点から評語への変換は以下の表に基づき、おこないます。

<2020（令和2）年以降入学者の成績評価>

授業科目等の成績評価は以下の3通りとする。

- ① 素点（0点～100点）による評価。すなわち、合格基準に相当する素点を60点とし、100点を満点とする総合評価。60点以上は合格を、59点以下は不合格を意味する。
- ② 6段階評価。A、B、C、D、Fの5種類の評語を基本とし、それに加えてA+の評語を設ける。それぞれの評語の適用基準は下記のとおりである。

素点	評語	適用基準	
96～100	A+	合格基準に達している。	学修の高い効果が認められ、傑出した成績である。／Outstanding
85～95	A		学修の高い効果が認められ、特に優れた成績である。／Excellent
75～84	B		学修の高い効果が認められ、優れた成績である。／Good
65～74	C		学修の効果が認められる。／Fair
60～64	D		最低限の学修の効果が認められる。／Pass
0～59	F	合格基準に達していない。	不合格。／Fail

- ③ 2段階評価。P（合格）、F（不合格）の2種類の評語による。それぞれの評語の適用基準は下記のとおりである。

評価	評語	適用基準
合格	P	合格基準に達している。／Pass
不合格	F	合格基準に達しておらず、不合格。／Fail

◆京都大学学士課程におけるGPA制度の導入について◆

京都大学では、学生の自律的な学修の促進及び学生に対する学修指導等に活用することを目的として、2016（平成28）年度以降に入学した学生を対象としたカリキュラムが適用される学部生を対象にGPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

(1) 成績評価と GP (Grade Point) の対応

成績表は下表に基づき GP に変換します。

評語	A+	A	B	C	D	F
GP	4.3	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

(2) GPA に算入する科目

薬学部においては、成績証明書に 6 段階評価 (A+~F) が付される科目 (他学部・教職科目を除く) を GPA に算入します。

また、同一科目を複数回履修した場合、薬学部においては正規単位のみ GPA に算入します。

ただし、当該科目に正規単位が存在しない場合 (すべて不合格だった場合) は、最初に履修した科目の成績 (不合格: GP=0) を GPA に算入します。

(3) GPA の種別

本学在学中の全期間における学修の成果を示す指標として「累積 GPA」を、当該学期における学修成果を示す指標として「学期 GPA」を算出します。

(GPA は小数点第二位まで表示。小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入する。)

$$\boxed{\text{累積 GPA}} = \frac{\text{(在学全期間において GPA 算入科目のうち履修登録した科目の GP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{在学全期間において GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\boxed{\text{学期 GPA}} = \frac{\text{(当該学期において GPA 算入科目のうち履修登録した科目の GP} \times \text{当該科目の単位数)の総和}}{\text{当該学期において GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

(4) GPA の表示

成績表には、不合格となった科目も含めた全ての履修単位に係る成績、「学期 GPA」及「累積 GPA」を記載します。

成績証明書には、修得した科目の成績のみを記載し、原則として GPA は記載しません。ただし、特に必要がある場合に限り、累積 GPA ならびに在学全期間において GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数を記載した成績証明書を学生の所属学部教務担当窓口において発行します。(証明書自動発行機では発行されません。)

◆京都大学学士課程における履修取消制度の導入について◆

京都大学では、2016 (平成 28) 年度以降学部入学生を対象に GPA 制度を導入することに併せて、学生の申請により学期の途中で科目の履修登録を取り消す「履修取消制度」を 2016 年度より、全ての学部生を対象に導入しています。

(1) 取消手続きについて

原則として、履修取消期間中に、KULASIS において履修取消を申請してください。

(2) 履修取消期間

全学統一で履修取消期間を定めます。詳細な期間については年度ごとにお知らせします。

(3) 履修取消を認めない科目

科目の開講部局の定めにより、履修取消を認めない科目がありますので、各学部の教務担

当窓口にお問い合わせください。薬学部においては、薬学専門実習及び4回生以上配当科目（特別実習を含む）は履修取消を認めません。

(4) 履修取消の特例

病気・事故等により長期間にわたって授業に出席できないなどのやむを得ない事由がある場合に限り、特例として履修取消を認める場合があります。

詳しくは所属学部または科目の開講部局の教務担当窓口にお問い合わせください。

(5) 不受験科目の取扱い

成績判定時点で履修登録されている全ての科目を成績評価の対象とします。

すなわち、受験しなかった試験または提出しなかった課題等に対して最低評価を与え、シラバスに記載された成績評価基準に従って成績評価をおこないます。

※例：シラバスの成績評価方法・観点及び達成度に「小テスト 40 点満点、レポート 20 点満点、期末試験 40 点満点」と記載されている科目において、期末試験を受験しなかった学生の成績は、期末試験 0 点とした上で評価する。

◆大学院共通科目群、大学院横断教育科目群科目の履修について◆

大学院共通科目群および大学院横断教育科目群は、いずれも大学院学生を対象に、専門以外に素養として備えておくべき知識・技能の教授を目的として、2018（平成 30）年度から開講されています。薬学研究科の推奨科目があり、修得した単位の取扱は科目によって異なりますので、詳しくは教務掛窓口にお問い合わせください。

◆災害等に伴う休講等の措置等に関する取扱い◆

本学では、学生の安全確保のため、災害又は不測の事態（以下「災害等」という。）が発生した場合の授業及び定期試験（以下「授業等」という。）の取扱いに関し必要な事項を定めました。

概要は次のとおりです。

1. 気象警報による休講等

京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発表された場合、授業休止又は定期試験の延期（以下「休講等」という。）とします。（そのほかの警報等は対象となりません。）

2. 公共交通機関の運休による休講等

次の①②のいずれかに該当する場合、休講等とします。

①京都市営バスが全面的に運休した場合

②以下のうち、3 機関以上の交通機関が全面的に又は部分的に運休した場合

- ・ JR 西日本（京都線、琵琶湖線、湖西線、奈良線及び嵯峨野線）
- ・ 阪急電鉄（京都河原町駅～梅田駅間）
- ・ 京阪電鉄（出町柳駅～淀屋橋駅又は中之島駅間）
- ・ 近畿日本鉄道（京都駅～大和西大寺駅間）
- ・ 京都市営地下鉄

3. 気象警報及び公共交通機関の運休による休講等

次ページに、事態発生時間に応じた気象警報及び公共交通機関の運休による休講等の措置、その解除の流れ図を掲載します。

#### 4. 地震発生時の取扱い

吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスを含む地域で震度 6 弱以上の地震が発生した場合、当分の間、休講等とします。

#### 5. その他休講措置の取扱い

- ①授業等を実施する部局長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合、当該部局の授業等については、休講等とします。
- ②担当理事が学生の安全確保のため必要があると判断した場合、吉田キャンパス、宇治キャンパス又は桂キャンパスの全部又は一部において、休講等とします。
- ③震度 5 強以下の地震発生やその他の要因によっても危機対策本部が設置され、当該危機対策本部の部長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスの全部又は一部において、当分の間、休講等とします。

#### 6. 周知方法

KULASIS Information、本学 Web サイト等を通じて周知します。

#### 7. 通学が困難な場合の救済措置

2. ～5. の休講等の措置をとらない場合であっても、学生それぞれの居住地又は通学経路にある地域で、次のいずれかに該当する事態が発生したことにより学生が授業等に出席できなかったときは、別紙様式 (<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/cli/canceled/>) にて授業開講部局の教務担当掛に申し出てください。

- ①居住地を含む地域における震度 6 弱以上の地震の発生
- ②居住地を含む地域における避難指示（緊急）又は避難勧告の発令
- ③居住地を含む地域における気象警報等の発表
- ④その他災害等（居住地を含む地域又は通学経路における上述の 3 事由に準ずる災害等）の発生

※人身事故等による運休、遅延の場合、申し出の対象となりません。

#### ◆建物管理について◆

- 1) 薬学部の平日（月曜日～金曜日）の開館・閉館の時間は、次のとおりです。  
なお、特別実習のため分野に配属された学生及び大学院生等については、下記時間外や休日等の入館が出来るようになります。詳細については教務掛に照会してください。
  - ・ 開 館            8 時 00 分
  - ・ 閉 館            18 時 00 分
- 2) 土曜、日曜・祝日、本学創立記念日（6/18）、年末・年始（12/29～1/3）及び夏季一斉休業日（8 月第 3 週の月曜日・火曜日及び水曜日）は閉館しています。  
また、臨時で閉館する場合にはあらかじめお知らせします。
- 3) 薬学部では、1 年を通して省エネを推進しています。教室、ロッカールーム、共用スペースを最後に出る際は、必ず消灯しエアコンを切ってください。
- 4) 講義室、演習室での飲食を禁じます。
- 5) 薬学部構内は全面禁煙です。

#### ◆自習室・ラーニング commons の利用◆

1. 利用資格  
原則として、薬学部、薬学研究科の学生に限ります。
2. 場所  
23 講義室（本館）、ラーニング commons（医薬系総合研究棟）を自習室として使用可能です。
3. 開室時間

- (1) 平日の 8:30~17:00 (ラーニングコモンズは 8:30~18:00) の間、使用可能です。
- (2) 授業や実習での利用時間帯は関係者及び受講生以外は使用できません。
- (3) 停電や工事などで臨時に閉室することがあります。
- (4) ラーニングコモンズ入室の際は学生証が必要です。
- (5) ラーニングコモンズ内は飲食禁止です。

#### ◆ハラスメントの防止と対応について◆

教育・研究・医療を使命とする京都大学では、多くの人間がさまざまな関係を形成しています。そこでの修学・就労は、これに関わるすべての者にとって快適で有意義なものでなければなりません。しかしながら、指導する者と指導される者、指示する者と指示される者という関係は、時として、不適切な権力関係と化し、修学・就労を妨害するだけでなく、被害者の人格を著しく傷つけることがあります。また、性的な欲求や関心に基づく行動が、相手の修学・就労の環境を害し、あるいは、その人格を著しく傷つけることもあります。

京都大学は、このようなハラスメント行為が生じないよう、また、万が一そのような事態が生じた場合には、迅速に事態が改善されるよう、最大限の努力をするものです。京都大学に関わるすべての人が、一個の人間として尊重され、それぞれの立場から教育・研究・医療の活動に打ち込めるようにしたいと考えています。

##### ○ハラスメントを受けた場合

- ・一人で我慢せずに、誰か周囲の信頼できる人に相談しましょう。
- ・ことばと態度で、嫌だ、不快だ、という気持ちをはっきりと相手に伝えましょう。無視したり、受け流したりしているだけでは、状況は少しも改善されません。相手が嫌がっていることに、行為者が気づいていない場合もあります。
- ・記録をつけておきましょう。見ている人がいたら、その人にも確認しておきましょう。
- ・窓口に相談しましょう。

##### ○ハラスメントに第三者として気づいた場合

ハラスメントがなされていることを知ったときには、第三者であっても被害者の力になってあげてください。

- ・不快な場面を目撃したら、すぐ行為者に注意をしましょう。
- ・必要なら、証人になってあげましょう。
- ・被害者の相談にのって精神的に支えてあげましょう。被害者を責めてはいけません。
- ・相談窓口へ行くようにすすめ、同行してあげましょう。

ハラスメントはその性質上、被害者自身が事実を公然と訴えることは容易ではありません。相談窓口は、被害に気づいた第三者からの相談に対しても開かれています。

##### ○薬学研究科の相談窓口担当者一覧表

<https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/campuslife/support/harassment/>  
で確認してください。

##### ○ウェブでの学生相談

ウェブフォームによる相談等も受け付けています。何か色々相談したいことや意見等があれば、気軽に相談してください。匿名での相談等も受け付けますので活用してください(返信を希望する場合は、匿名のメールアドレスなどを記入してください)。

<https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/campuslife/support/student-consulting/>

相談窓口担当者は、相談者のプライバシーを固く守ります。

相談窓口担当者が当事者であるハラスメントの相談の場合には、当該相談窓口担当者に、相談内容等の情報が共有されることはありません。



◆薬学研究科・薬学部図書室（京都大学大学院薬学研究科・薬学部図書室利用規則）◆

1. 開室時間及び休室日

平日 9:00～17:00

休室日 土曜、日曜、祝日、本学創立記念日（6月18日）、8月第3週の月曜日、火曜日、水曜日、年末年始（12月28日～1月4日）

その他臨時に休室することがある。

2. 閲覧

京都大学在籍者は、教職員、研究員、学生を問わず、薬学研究科・薬学部図書室（以下「本図書室」という。）に所蔵する図書及び雑誌（付属する資料を含む。以下「図書館資料」という。）を閲覧することができる。

学外者は、入室に際して、所定の利用申請書に記入し、図書掛に提出することで、図書館資料を閲覧することができる。

閲覧は、以下のとおり行うものとする。

イ) 図書館資料のうち貴重資料は、所定の手続を経て閲覧することができる。

ロ) 図書館資料のうち地下書庫に収蔵する資料は、所定の手続を経て閲覧することができる。

なお、本図書室における電子的資料の閲覧は、許可された条件でネットワークを介して行うことができる。

3. 閲覧の制限

本図書室は、次の各号の一に該当する場合、図書館資料のうち、それぞれ当該各号に掲げるものの閲覧を制限することができる。

イ) 図書館資料に独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号。以下「情報公開法」という。）第5条第1号、第2号及び第4号イに掲げる情報が記録されていると認められる場合 当該図書館資料（当該情報が記録されている部分に限る。）

ロ) 図書館資料の全部又は一部を一定の期間公にしないことを条件に個人又は情報公開法第5条第2号に規定する法人等から寄贈又は寄託を受けている場合（当該期間が経過するまでの間に限る。） 当該図書館資料

ハ) 図書館資料の原本を利用させることにより当該原本の破損又は汚損を生じるおそれがある場合 当該原本

4. 貸出

イ) 図書館資料の貸出を受けようとする者は、所定の手続を行わなければならない。

ロ) 貸出の冊数及び期間は次のとおりとする。

図書 3冊以内 2週間

雑誌 5冊以内 3日

ハ) 図書館資料の貸出を受けようとするときは、図書システムによる貸出処理を受け、又は所定の用紙に記入して図書掛に提出しなければならない。

ニ) 新着雑誌は到着日から一定期間を展示期間とし、その間の貸出は行わない。

ホ) 禁のラベルを添付してある図書館資料は貸出を行わない。

ヘ) 貸出を受けている図書館資料はいかなる場合でも転貸してはならない。

ト) 貸出期間を延長して引き続き貸出を受けようとするときは、改めて手続をしなければならない。ただし、他に貸出を受けようとする者がいるときは、その者を優先させる。

チ) 貸出の規則に違反した者に対しては、違反期間に応じて一定期間、図書館資料の貸出を停止する。

リ) ロ) 及びハ) の規定にかかわらず、学外者が貸出を受けようとするときは、薬学研究科教授の紹介状を添えて、所定の貸出票に記入して図書掛に提出するものとし、その冊数及び期間は、2冊以内、2週間とする。なお、ニ)～チ) の規定は学外者にも適用する。

## 5. 事故

閲覧中の図書館資料又は貸出を受けている図書館資料は丁寧に扱うものとし、紛失し、又は汚損したときは、直ちにその旨を詳記した書類を図書委員長に提出し、その指示に従わなければならない。

## 6. 複写サービス

本図書室利用者の便宜をはかるため、電子複写による複写サービスを行う。これについては京都大学文献複写規程（平成16年4月1日総長裁定）に従う。

## 7. 相互貸借

他館に所蔵されている図書、雑誌その他資料の閲覧又は複写を希望する場合は、図書掛の掛員に申し込み、図書掛から他館に依頼し、又は紹介する。ただし、この場合の費用は、申込者の負担とする。

## 8. 閉室時の利用

閉室時であっても、次の各号に掲げる者は、図書室に入室して、図書館資料を検索し、若しくは閲覧し、図書館資料の貸出を受け、又は設備を利用することができる。

- イ) 薬学研究科・薬学部の教職員
- ロ) 薬学研究科所属の大学院学生
- ハ) 薬学部所属の4年次以上の学生（ただし、分野配属者に限る。）
- ニ) 薬学研究科・薬学部において教育研究に従事する外国人研究者
- ホ) 薬学研究科・薬学部所属の研修員、研究生及び受託研究員
- ヘ) その他研究科長が特に必要と認めた者

## 9. 個人情報の漏えいの防止のために必要な措置

本図書室は、図書館資料に個人情報（京都大学における個人情報の保護に関する規程（平成17年達示第1号）第2条第1項に規定するものをいう。）が記録されている場合には、当該個人情報の漏えいの防止のために、次の各号に掲げる措置を講じるものとする。

- イ) 書庫の施錠その他の物理的な接触の制限
- ロ) 図書館資料に記録されている個人情報に対する不正アクセス（不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成11年法律第128号）第2条第4項に規定する不正アクセス行為をいう。）を防止するために必要な措置
- ハ) 図書室の職員に対する教育・研修の実施
- ニ) その他当該個人情報の漏えいの防止のために必要な措置

## 10. 図書館資料の目録及び利用規則

利用者の閲覧に供するため、図書館資料の目録及びこの規則を常時閲覧室に備え付けるものとする。

## 注意事項

- ・資料は必ず貸出手続きを経てから室外に持ち出すこと。
- ・図書室の座席を占有しないこと。
- ・図書室内での食事は厳禁とする。飲物の摂取については室内の掲示に従うこと。
- ・携帯電話はマナーモードとし、通話は室外で行うこと。
- ・閉室時に利用する場合は、施錠、消灯などの確認を入室者の責任をもって行うこと。

◆薬学研究科実験廃棄物処理指針◆

1. 有機廃液

- 1.1 有機廃液は、京都大学環境安全保健機構環境管理部門の規定に基づいた条件で有機廃液処理業者に外部委託して焼却する。基準に適合する種類のもの（表Ⅰ）を、研究科内規定で指定する5つの分類区分（表Ⅱ）にわけて、10Lポリ容器（白色）に貯留する。

表Ⅰ

有機廃液の処理基準	
1	炭素、水素、酸素、窒素、硫黄、ハロゲンからなる有機化合物の廃液であること。
2	発熱量が 20000J/g 以上で自燃性を有するもの。
3	水分は 20%以下のもの。
4	ハロゲンが 15%以下、窒素 3%以下、硫黄 2%以下、沸点 50℃以下の成分が 5%以下のもの。
5	塩酸、硫酸、硝酸等の腐食性物質を含まないもの。
6	沈澱や懸濁粒子を含まない液体で、粘度が 20センチポワズ以下であるもの。
7	それ自身で、又は混合によって爆発または発火するおそれのないもの。
8	著しい悪臭を持たないもの。

表Ⅱ

有機廃液（外部委託）の貯留区分	
1 有害廃液(HO)	12種類の有害物質（※）を含有する廃油
2 (一般)廃油(OO)	ポンプオイル、バスオイル、クロロホルム等 引火点が 70℃以上のもの
3 引火性廃油(IO)	HO, OO 以外の廃油
4 有害廃希薄水溶液(HAQ)	12種類の有害物質を含有する希薄水溶液
5 (一般)廃希薄水溶液(OAQ)	12種類の有害物質を含有しない希薄水溶液

※ 12種類の有害物質とは以下の物質を指します。

1. トリクロロエチレン 2. テトラクロロエチレン 3. ジクロロメタン 4. 四塩化炭素  
5. 1,2-ジクロロエタン 6. 1,1-ジクロロエチレン 7. シス-1,2-ジクロロエチレン 8. 1,1,1-トリクロロエタン  
9. 1,1,2-トリクロロエタン 10. ベンゼン 11. 1,3-ジクロロプロペン 12. 1,4-ジオキサン

- 1.2 エーテル、石油エーテルなどは低沸点で貯蔵は危険であり、またクロロホルムやジクロロメタンなどは焼却に多量の灯油を必要とするので、回収再利用につとめる。他の水溶性、非水溶性溶媒も回収再利用につとめる。
- 1.3 ジクロロメタンなどの含ハロゲン溶媒やベンゼンなどの特定有害物質は完全に回収して、排水に紛れ込まないように細心の注意を払う。これら溶媒を分液操作に使用した場合は、水相も完全に回収する。さらに、これら溶媒が付着した器具類の洗浄に際しては、これら溶媒を十分に除去した後に行なう。
- 1.4 放射性廃棄物はこの処理指針の対象外である。

2. 無機廃液及び固形廃棄物

- 2.1 水銀、カドミウム、クロム、鉛、銅、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等の重金属化合物の廃液ならびにシアン系、リン酸系、フッ素系の化合物の廃液は原則として、京都大学無機廃液処理装置（KMS）を利用して無害化処理をするため、次のように分別貯留する（表Ⅲ参照）。

- a) 水銀系廃液（記号 Hg）1.無機水銀系溶液、2.有機水銀系溶液に分別貯留する（有機水銀系では、特に塩化物の混入を避けること）。
- b) 重金属イオンを含むシアン系廃液（記号 CN）遊離シアン、シアン化物、シアン錯化合物を含むものは、常にアルカリ性に保ち貯留する。  
なお、単純なシアン系廃液については 2.4 の方法に従い可能な限り原点処理を行う。
- c) リン酸系廃液（記号 P）リン酸イオンを含む溶液（極力、重金属の混入を避けること。）
- d) フッ素系廃液（記号 F）フッ素イオンを含む溶液（極力、重金属の混入を避けること。）
- e) 一般重金属廃液（記号 M）極力、有機物、リン酸、アンモニア、ケイ酸の混入を避け、1.酸性溶液、2.アルカリ性溶液に分別貯留する。

表Ⅲ 無機廃液区分

記号	廃液系列	貯留区分	摘要	廃液容器及びカードの色
Hg	水銀系廃液	1.無機水銀 2.有機水銀	○金属水銀や固形の amalgam などを含まないこと。 ○有機水銀系では、特に塩化物の混入を避けること。	20L ポリ容器 灰 色
CN	シアン系廃液	3.シアン錯化合物 4.シアン化物	○常にアルカリ性に保ち、酸性廃液に混入しないこと。 ○可能な限り原点処理を行うこと。	20L ポリ容器 灰 色
P	リン酸系廃液	5.リン酸塩	○可能なかぎり重金属の混入を避けること。	20L ポリ容器 灰 色
F	フッ素系廃液	6.フッ素化合物	○可能なかぎり重金属の混入を避けること。	20L ポリ容器 灰 色
M	一般重金属系廃液	7.一般重金属 8.酸 9.アルカリ	○ベリリウム、オスミウム、タリウムその他健康障害を起こす金属の塩類を含まないこと。 ○カコジル酸の混入は避けること。 ○有機物、リン酸、ケイ酸、アンモニアの混入は、できるだけ避けること。	20L ポリ容器 青 色

（注）無機廃液は、上記に記載の「貯留区分」1.～9.ごとに貯留し、複数の「廃液系列」に属する廃液の混入は、できるだけ避けること。やむをえず混合した廃液は、複合系廃液として取り扱い、灰色の廃液容器に貯留すること。

2.2 下記に該当する無機廃液については、KMS での処理を行うに当って特別の取扱いを要するので、無機廃液処理実行委員に相談されたい。

- a) 処理の障害となる有機化合物を含むもの。
- b) 沈殿、懸濁粒子又は金属水銀を含むもの。
- c) 危険、猛毒物質（ニッケルカルボニル、アルキルアルミニウム等）を含むもの。
- d) それ自身で又は混合によって、爆発又は発火するおそれのあるもの。

2.3 ベリリウム、セレン、タリウムおよびオスミウムの化合物の廃液は、KMS で処理しないので密閉して貯留するか、不溶性化合物に変えて保存する。

2.4 単純なシアン系廃液は炭酸ナトリウム溶液を加えてアルカリ性にした後、充分量の次亜塩素酸ナトリウム（NaClO）溶液（アンチホルミン）を加えて、一夜放置し、酸化分解した後（ヨードカリでんぷん紙を用いて、活性塩素が残っていることを確める。）水で希釈して廃棄する。また、重金属を含む溶液で、簡単に処理できる場合、上記のような処理

を行った後、(2.1e)に従って KMS を利用する。安定なシアン錯化合物で酸化分解が困難なものに対しては、環境管理部門の紫外線オゾン酸化装置を利用して分解する。

- 2.5 使用済の金属水銀は、一ヶ所に集め、水銀表面を水で被い密栓して貯留する。
- 2.6 強酸、強アルカリは中和した後、多量の水で希釈して流す。
- 2.7 一次電池・二次電池、蛍光管、その他の有害固形廃棄物は薬学研究科長・薬学部長が指定する場所に貯留保管する。
- 2.8 放射性廃棄物は、この処理指針の対象外である。

### 3. 実験排水

実験排水は各実験室に排水口（流し等）より薬学部排水管理施設（本館西側二階建ビル）に集められ、pH 範囲 5-9 に調整されたのち、貯留槽を経て市下水道に放出される。本施設を正常に作動させ、市の水質基準（表IV参照）に抵触する排水の流出を防止するために、各実験者は次の事項を遵守しなければならない。

- 3.1 流しの排水口に固形物（タバコの吸殻、茶かす、紙、ビニール等）を直接流してはならない。これらの物質は、集水槽の揚水ポンプの目詰りによりモーターの焼付を引き起したり、モニター電極に付着して pH 調節システムの誤った作動を誘発したりするので極めて危険である。
- 3.2 流しのトラップは毎日掃除し、付着した異物を除去しておく。
- 3.3 下記のものを含む排水を流してはならない。
  - a) 固形浮遊物
  - b) 有害物質、悪臭を放つ物質、またはそれらに変化する恐れのある物質
  - c) 著しく発泡する物質、及び沈殿を生じる恐れのある物質
  - d) 表IVに示す排水基準を厳守しなければならない。

表IV 本学に適用される排水基準

物質または項目		本部地区
(15)	温度 (°C)	45 未満*
	水素イオン濃度(pH)	5 を超え 9 未満
	生物化学的酸素要求量(BOD)	600 未満
	浮遊物質(SS)	600 未満
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	5 以下
	鉱油類含有量	30 以下
	動植物油脂類含有量	30 以下
	窒素含有量	240 未満
	リン含有量	32 未満
	ヨウ素消費量	220 未満*
	フェノール類	1 以下
	銅及びその化合物	3 以下
	亜鉛及びその化合物	2 以下
	鉄及びその化合物 (溶解性)	10 以下
	マンガン及びその化合物	10 以下
クロム及びその化合物	2 以下	
ニッケル含有量	2 以下*	
有害物質	カドミウム及びその化合物	0.03 以下*
	シアン化合物	0.5 以下
	有機リン化合物	0.5 以下
	鉛及びその化合物	0.1 以下
	六価クロム化合物	0.25 以下
	ヒ素及びその化合物	0.1 以下
	水銀及びその化合物	0.005 以下
	アルキル水銀化合物	検出されないこと
	PCB	0.003 以下
	トリクロロエチレン	0.1 以下
	テトラクロロエチレン	0.1 以下
	ジクロロメタン	0.2 以下
	四塩化炭素	0.02 以下
	1,2-ジクロロエタン	0.04 以下
	1,1-ジクロロエチレン	1 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	3 以下
	1,1,2-トリクロロエタン	0.06 以下
	1,3-ジクロロプロペン	0.02 以下
	チウラム	0.06 以下
シマジン	0.03 以下	
チオベンカルブ	0.2 以下	
(28)	ベンゼン	0.1 以下
	セレン及びその化合物	0.1 以下
	ホウ素及びその化合物	10 以下
	フッ素及びその化合物	8 以下
	1,4-ジオキサン	0.5 以下
	ダイオキシン類	10 以下*

\* ...除害施設の設置が必要な水質基準である。  
備考：単位は、温度、水素イオン濃度、ダイオキシン類以外の項目は mg/L です。温度は°C、  
ダイオキシン類は pg-TEQ/L です。

京都市上下水道局ホームページ

(<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000262550.html>) より

#### ◆安全管理について◆

薬学部および薬学研究科においては、教育・研究の必要上、種々の実験が行われるので、それに伴う危険（火災、爆発、外傷、火傷、放射線障害、中毒、感染等）を未然に防ぐ注意が肝要である。そのためには、危険物の取り扱いに習熟し、安全規定を遵守しつつ、細心の注意を払って実験に臨まなければならない。本学部においては、そのために安全委員会を設け、安全規定を定めているが、それに加えて平常からの危険防止に対する各人の自覚が強く望まれる。

なお、本学部の防火等の心得の抜粋を下記に記すので、参考にすること。

## 《薬学部防火心得》

### ◎実験に関する事項

- 1) 共通実験室（終夜実験室、学生実習期間外の実習室など）を使用する際にはその使用者の所属分野において使用上必要な注意をあたえる。使用者は火元責任者に届け出るとともにその室に備え付けの「使用簿」に氏名、所属分野、作業内容、使用時間を記入し、実験装置に所属分野名を表示し、実験内容によっては（特に危険な薬品を用いる場合等）必要な注意事項を表示する。実験終了時に安全を確認し、実験装置を撤去する（長時間あるいは恒常的に使用する装置を除く。）。
- 2) 高純度水製造装置（学生実習室）を使用するときには使用分野名を明示し、使用中随時に点検し、特に水圧低下に注意し、使用后安全を確認する。使用時間は午後8時までとする。
- 3) 火気を用いる実験はドラフト内で行う。
- 4) 火気使用者は常にその実験を監視し、また他に監視人を置かずにその場所を離れてはいけない。
- 5) 一時に大量の可燃性溶剤を用いて実験することはできるだけさけ、可能ならば少量ずつに分けて取り扱う。やむを得ず大量を取り扱う場合には、付近の可燃物を除去し、消火器を手元に置き二人以上で行う。
- 6) 引火性物質を取り扱う実験をする時にはその近傍で火気を使用してはいけない。
- 7) 引火性物質を加熱中にその実験装置に手をふれる必要のあるときには必ずガスバーナーの火を消してから行う。
- 8) 実験中に何か異常を感じた場合（例えば液が突沸気味であるとか、不明の臭気を感じるとか、沸とうする筈のものが沸とうしないとか）にはまずガスバーナーまたは電源を切り対策を考える。
- 9) 火気の使用を終わった時には確実にガス栓の閉鎖、スイッチの遮断を行い安全を確認し、さらに退室時に再確認を行う。
- 10) 実験に使用しない時にはガス栓を必ずしめる。
- 11) 実験室内に一人の場合には危険性のある実験をしてはいけない。休日、夜間居残り実験の場合には各分野においてその許可を与える際に実験内容により必要があれば二人以上で行うよう指示する。
- 12) 着衣に引火した場合には立ったままでいなくて床に転げるのがよい。

### ◎薬品、機器などの保管に関する事項

- 1) 発火性又は引火性薬品（金属ナトリウム、金属カリウム、金属マグネシウム、溶剤類、発煙硝酸、発煙硫酸、ピクリン酸など）はなるべく少量ずつ購入する。大量を購入した場合には、消防法の類別に従い危険物倉庫に格納し、実験室には必要最小限度しか置いてはいけない。
- 2) 実験室内に上記薬品を置く場合にはそれぞれの薬品の性質に応じて安全に保管し、かつその場所を表示する。
- 3) 毒物・劇物・向精神薬・麻薬に指定されている薬品、放射性物質、核燃料物質については、指定された方法に従い、指定された場所に保管・管理する。
- 4) 金属ナトリウム、接触還元用触媒など危険な物質を使用して実験した後にはできるだけ速かに後処理を行う。
- 5) ガスまたは電気を熱源とする機器は不燃性の台または容器の上に置く。
- 6) 機器およびそのカバーなどで燃焼の際有害なガスを大量に発生するおそれのあるものは火気を使用する実験を行う場所からできるだけ遠いところに保管する。

## ◎火災発生時の処置に関する事項

- 1) 火災発生の際、現場の者は直ちにガスの元栓、電源を切り消火器その他を用いて消火に当る。
- 2) 火災を発見した者、あるいは付近の者は直ちに大声で火災発生の場所を報知する。
- 3) 火災発生の知らせを聞いた場合には直ちに実験を中止し、火気を消し、消火器をもって現場に急行する。
- 4) 消火栓よりの放水は防火委員の指示あるいは現場の者の判断により必要と認めた場合に行う。
- 5) 負傷者が生じた場合には医学部附属病院に手当を依頼する。
- 6) 火災の発生について、速やかに火元責任者へ情報を伝える。もしくは、その分野の教授あるいは他の教員、総務掛、学科主任、学部長などに連絡する。
- 7) 夜間火災が発生した場合には発見者は消防署に連絡し、発生現場の関係者、医学部附属病院守衛室、総務掛(不在時は事務長または学部長)に連絡する。
- 8) 火災その他の事故発生時の連絡先については、各分野に配布されている「薬学研究科緊急連絡網」で日常的に確認しておく。
- 9) 火災発生時の避難について、各分野で実情を考慮し、対策をたてておく。

## ◎その他

受動喫煙防止のため、構内は全面禁煙です。

## ◆就職について◆

学生の就職の相談に関しては、就職担当教員（教授 1 名）をおいています。

就職を希望する学生は、求人先より送付された資料（教務掛保管）や、本学キャリアサポートルーム利用による検討、あるいは特別実習のための配属分野の教授及び就職担当教員との相談などにより就職希望先を決定し、必要書類を整え就職希望先へ発送してください。

必要書類は求人先により異なりますが、履歴書、写真、健康診断書（京都大学発行のもの）などは要求されることが多いので、予め準備しておいてください。

## ◆教育職員免許状について◆

2018（平成 30）年度入学者からは、薬学部・薬学研究科開講科目の履修では教育職員免許状資格は与えられません。

## ◆薬剤師国家試験について◆

学校教育法が改正され（2004（平成 16）年 5 月 21 日公布）、大学の薬学教育制度及び薬剤師国家試験制度が変わりました。この制度は、2006（平成 18）年 4 月の入学生から適用になっています。

学校教育法の改正に伴い、薬剤師法も改正され（2004（平成 16）年 6 月 23 日公布）、薬剤師国家試験を受けることができるのは、原則として、6 年制学部・学科の卒業生とされています。

以下に、2011（平成 23）年度から実施されている新しい薬剤師国家試験について説明します。

「薬剤師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事する者をいい公衆衛生の向上および増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保することを任務とします。

薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格した者に対して与えられます。本学部卒業生及び卒業見込の者（薬学科）、薬科学科の学生も一定の要件を満たせば、試験に出願することができます（詳細は教務掛に問い合わせること）。

新たな薬剤師国家試験の出題区分、科目および出題数は以下のとおりです。

- ① 必須問題：薬学の全領域のうち、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する出題区分
- ② 一般問題：薬学の全領域のうち、医療の担い手である薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための資質を確認する出題区分

- (②-1) 薬学理論問題： 薬剤師に必要な知識を中心に、技能・態度を含む薬学の理論に基づいて、薬剤師が直面する一般的課題を解釈するための資質を確認する出題区分
- (②-2) 薬学実践問題： 医療の実務において直面する一般的課題を解決するための基礎力、実践力及び総合力を確認する出題区分

科目	問題区分			出題数
	必須問題	一般問題		
		薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15 問	30 問	15 問 (複合)	60 問
衛生	10 問	20 問	10 問 (複合)	40 問
薬理	15 問	15 問	10 問 (複合)	40 問
薬剤	15 問	15 問	10 問 (複合)	40 問
病態・薬物治療	15 問	15 問	10 問 (複合)	40 問
法規・制度・倫理	10 問	10 問	10 問 (複合)	30 問
実務	10 問	0 問	20 問+65 問	95 問
出題数	90 問	105 問	150 問	345 問

(注) 薬学実践問題は、「実務」20 問に加え、「実務」とそれ以外の科目とを関連させた複合問題 130 問とする。

なお、試験期日、試験地、試験科目等試験施行の詳細については、官報によって公告されます。

2023 年度の試験関係日程等(参考)

試験施行要領発表	8 月 31 日
出願期間	1 月 4 日～12 日
試験期日	2 月 17 日,2 月 18 日
試験地	全国 9ヶ所
試験合格者発表	3 月 19 日

受験申請書類は大学で一括して厚生労働省に送付するので、所定期間内に薬学部教務掛で手続をしてください。

なお、受験申請書類は次のとおりです (予定)。

受験願書	用紙は教務掛で交付する。 受験手数料は、6,800 円分の収入印紙を試験願書に貼付し、 納入すること。
卒業(見込)証明書	※教務掛で作成する。
写 真	脱帽上半身像で出願前 6 カ月以内に撮影した写真（縦 6cm、 横 4cm）を貼付すること。（裏面に氏名を記入）
写真用台紙(受験票)	用紙は教務掛で交付する。

【注 意】

- ・試験に合格した者には合格証書が授与されますが、それで直ちに薬剤師の免許を授与されたことにはなりません。薬剤師の免許を受けようとする者は所定の申請書類を住所地の都道府県知事を経て厚生労働大臣に提出しなければなりません。  
関係書類は受験票交付時に教務掛から交付の予定です。

◆薬剤師（学士(薬学)）に関係のある主な資格・業務一覧表◆（参考）

I 薬剤師でなければならない業務

業務または資格	根拠法（所管）	免許等	条件等
1.調剤業務	薬剤師法 19 条（厚）		
2.薬局の管理者	医薬品医療機器等法 7 条（厚）		
3.一般販売業の管理者	医薬品医療機器等法 24 条（厚）		
4.医薬品製造販売業の総括製造 販売責任者	医薬品医療機器等法 17 条（厚）		
5.医薬品製造業の管理者	医薬品医療機器等法 17 条（厚）		
6.学校薬剤師	学校保健法 23 条（文）		
7.保険薬剤師	健康保険法 64 条（厚）		

## II 薬剤師であれば取得できる資格（業務）

業務または資格	根拠法（所管）	免許等	条件等
1.医薬部外品、化粧品又は医療機器製造販売業の総括製造販売責任者	医薬品医療機器等法 17 条、施行規則 85 条（厚）	知事免許	国又は都道府県の職員
2.医薬部外品、化粧品又は医療機器製造所の責任技術者	医薬品医療機器等法 17 条、施行規則 91 条（厚）		
3.放射線取扱主任者	放射性同位元素等による放射線障害の防止等に関する法律 34 条（文）		
4.毒物劇物取扱責任者	毒物及び劇物取締法 8 条（厚）		
5.薬事監視員	医薬品医療機器等法 76 条、施行令 68 条（厚）		
6.食品衛生管理者	食品衛生法 48 条（厚）		
7.食品衛生監視員	食品衛生法 30 条、施行令 9 条厚）		
8.麻薬管理者	麻薬及び向精神薬取締法 3 条（厚）		
9.麻薬輸出業者	麻薬及び向精神薬取締法 3 条（厚）		
10.麻薬元卸売業者	麻薬及び向精神薬取締法 3 条（厚）		
11.麻薬卸売業者	麻薬及び向精神薬取締法 3 条（厚）		
12.向精神薬取扱責任者	麻薬及び向精神薬取締法 50 条の 20(厚)		
13.麻薬取締官(員)	麻薬及び向精神薬取締法施行令 10 条（厚）		
14.環境衛生指導員	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 20 条、施行規則 16 条（厚）		

## III 薬剤師であればその資格取得に特別の考慮が払われる場合

業務または資格	根拠法（所管）	免許等	条件等
1.作業環境測定士（第一種、第二種）	作業環境測定法 5 条、14 条、施行規則 17 条（厚）	名簿登録	講習
2.公害防止管理者（大気二種）	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律 7 条、施行令 10 条、別表 3（経）		講習
3.環境計量士（濃度関係）	計量法 122 条、施行規則 50 条、51 条(経)	経済産業大臣登録	
4.労働衛生コンサルタント受験資格	労働安全衛生法 83 条、労働安全衛生コンサルタント規則 11 条（厚）	名簿登録	筆記試験科目一部免除

IV 学校教育法に基づく大学等で薬学の正規の課程を修めて卒業した者の資格においてなることのできる資格

(業務)

業務または資格	根拠法(所管)	免許等	条件等
1.建築物環境衛生管理技術者	建築物における衛生的環境の確保に関する法律7条、規則6条(厚)		1年以上の実務経験
2.臨床検査技師受験資格	臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律15条、施行令20条(厚)	名簿登録、大臣免許	生理学検査及び採血に関する科目の履修が必要 4年以上の実務経験(但し講習を受ければ有資格者となる)
3.水道技術管理者	水道法19条、施行令6条(厚)		
4.配置販売業者	医薬品医療機器等法30条、施行令52条(厚)		
5.医薬部外品、化粧品又は医療器具の製造所の責任技術者	医薬品医療機器等法17条、施行規則91条(厚)		大学履修科目に応じて一定期間の実務経験を必要とする 講習、一定期間の実務経験が必要 講習、実務経験
6.一般廃棄物処理施設又は産業廃棄物処理施設の技術管理者	廃棄物の処理及び清掃に関する法律21条、規則17条(厚)		
7.騒音関係、粉塵関係、振動関係の公害防止管理者	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律施行規則別表第一(経)		
8.公害防止主任管理者	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律7条1項2号、施行令11条規則11条2項、別表第2(経)		
9.向精神薬取扱責任者	麻薬及び向精神薬取締法50条の20、施行令6条(厚)		

注1) (厚)→厚生労働省、(文)→文部科学省、(農)→農林水産省、(経)→経済産業省

注2) この表は『薬事衛生六法 学生版 2008年版(薬事日報社)』より抜粋したものである。

## 薬学研究科関係教員

専攻	講座	分野	氏名	職名	学位	研究室所在
薬科学	薬品創製化学	薬品合成化学	高 須 清 誠	教 授	博士(薬)	薬学研究科本館 4F
			瀧 川 紘	准教授	博士(理)	
			高 山 亜 紀	助 教	博士(薬科学)	
		薬品分子化学	竹 本 佳 司	教 授	薬学博士	薬学研究科本館 4F
			中 寛 史	准教授	博士(理)	
			南 條 毅	助 教	博士(薬科学)	
	薬品機能統御学	薬品機能解析学	松 崎 勝 巳	教 授	博士(薬)	薬学研究科新館 3F
			星 野 大	准教授	博士(理)	
			河 野 健 一	助 教	博士(薬)	
		構造生物薬学	加 藤 博 章	教 授	農学博士	薬学研究科本館 3F
			小 川 治 夫	准教授	博士(理)	
			山 口 智 子	助 教	博士(理)	
	薬品製剤設計学	製剤機能解析学	石 濱 泰 (兼)	教 授	博士(薬)	医薬系総合研究棟 3F
			小 形 公 亮 (兼)	助 教	博士(薬科学)	
	精密有機合成化学	精密有機合成化学	大 宮 寛 久	教 授	博士(工)	化学研究所
			長 尾 一 哲	助 教	博士(理)	
			村 上 翔	助 教	博士(薬科学)	
	生体分子薬学	生体分子認識学	竹 島 浩	教 授	博士(医)	薬学研究科本館 2F
			橋 口 隆 生	教 授	博士(医)	
		ウイルス制御学	鈴 木 干 城	助 教	博士(生命科学)	医生物学研究所
			佐 藤 裕 真	助 教	博士(医)	
木 村 香 奈 子			助 教	博士(薬)		
伊 藤 能 永			教 授	博士(医)		
生体機能薬学	多細胞システム学	井 垣 達 吏	教 授	博士(医)	生命科学研究所 (薬学研究科本館 3F)	
		菅 田 浩 司	准教授	博士(医)		
		榎 本 将 人	助 教	博士(医)		
生体情報薬学	生体情報制御学	申 惠 媛	准教授	博士(理)	薬学研究科新館 4F	
生体機能化学	生体機能化学	二 木 史 朗	教 授	薬学博士	化学研究所	
		今 西 未 来	准教授	博士(薬)		
		川 口 祥 正	助 教	博士(薬科学)		
薬学	薬品動態医療薬学	数理治療薬学	山 下 富 義 (兼)	教 授	博士(薬)	薬学研究科新館 2F
			喜 多 知 子 (兼)	講 師	博士(薬)	
			宗 可 奈 子 (兼)	助 教	博士(薬)	
		臨床薬学教育	津 田 真 弘	准教授	博士(薬)	医学部附属病院 (第3臨床研究棟 2F)
	病態機能解析学	病態機能分析学	小 野 正 博	教 授	博士(薬)	薬学研究科新館 4F
			渡 邊 裕 之	講 師	博士(薬)	
		薬剤設計学	樋 口 ゆり子	教 授	博士(薬)	薬学研究科新館 2F
			高 橋 有 己	准教授	博士(薬)	
			河 本 佑 介	助 教	博士(理)	
		生体機能解析学	井 上 飛 鳥	教 授	博士(薬)	薬学研究科本館 2F
			白 川 久 志	准教授	博士(薬)	
	永 安 一 樹		助 教	博士(薬)		
	医療薬剤学	医療薬剤学	寺 田 智 祐	教 授	博士(薬)	医学部附属病院 (第3臨床研究棟 2F)
			中 川 俊 作	准教授	博士(薬)	
			平 大 樹	講 師	博士(薬)	
			重 面 雄 紀	助 教	博士(薬)	
			今 吉 菜 月	助 教	博士(薬)	
			勝 部 友 理 恵	助 教 (特定)	博士(薬)	
			國 津 侑 貴	助 教 (特定)	博士(医)	

専攻	講座	分野	氏名	職名	学位	研究室所在	
創発医薬科学	創発医薬科学	生体分子計測学	石濱 泰	教授	博士(薬)	医薬系総合研究棟 3F	
			小形 公亮	助教	博士(薬科学)		
		システム微生物学	ROBERT, Martin	准教授(特定)	Ph. D. (McGill University)	薬学研究科本館 3F	
		神経再編成機構	CAMPBELL, Douglas Simon	准教授(特定)	Ph. D. (University of Cambridge)	薬学研究科本館 1F	
		薬理ゲノクス・ゲノム創薬科学	平澤 明	准教授	博士(医)	薬学研究科新館 3F	
		創薬有機化学	大野 浩章	教授	博士(薬)	薬学研究科新館 5F	
			井貫 晋輔	准教授	博士(薬)		
			有地 法人	助教	博士(薬科学)		
		システムバイオロジー	土居 雅夫	教授	博士(理)	薬学研究科別館 4F	
			長谷川 恵美	准教授	博士(医)		
			三宅 崇仁	助教	博士(薬科学)		
		システムケモセラピー(制御分子学)	掛谷 秀昭	教授	博士(工)	薬学研究科新館 5F	
			服部 明	准教授	博士(薬)		
			倉永 健史	助教	博士(理)		
		組織形成動力学	倉永 英里奈	教授	博士(医)		
		バイオ医薬品化学(実践創薬研究プロジェクト)	大野 浩章(兼)	教授	博士(薬)	薬学研究科新館 1F	
			秋葉 宏樹	助教	博士(工)		
		創薬プロテオミクス(実践創薬研究プロジェクト)	石濱 泰(兼)	教授	博士(薬)	薬学研究科本館 3F	
			金尾 英佑	助教	博士(工)		
			黒田 悠介	助教(特定)	博士(薬科学)		
		バイオインフォマティクス	緒方 博之	教授	博士(理)	化学研究所 バイオインフォマティクスセンター	
			遠藤 寿	准教授	博士(環境科学)		
			岡崎 友輔	助教	博士(理)		
			疋田 弘之	助教	博士(農)		
		生命知識工学	馬見塚 拓	教授	博士(理)	化学研究所 バイオインフォマティクスセンター	
			Canh Hao Nguyen	講師	博士(知識科学)		
		ケミカルバイオロジー	上杉 志成	教授	博士(薬)	化学研究所	
			安保 真裕	助教	博士(薬学)		
		がん・幹細胞シグナル学	伊藤 貴浩	教授	博士(薬)	医生物学研究所	
			服部 鮎奈	准教授	博士(理)		
			松浦 顕教	助教	博士(薬)		
			沖川 沙佑美	助教	博士(創薬科学)		
		代謝ゲノム薬学	木村 郁夫	教授	博士(薬)	生命科学研究所 (医学・生命科学 総合研究棟 1F)	
			池田 貴子	助教	博士(生命科学)		
		統合薬学教育開発センター	医薬品開発教育	高須 清誠(兼)	教授	博士(薬)	薬学研究科
			創薬科学教育				
			実践臨床薬学	山下 富義	教授	博士(薬)	
				津田 真弘(兼)	准教授	博士(薬)	
				喜多 知子	講師	博士(薬)	
			宗 可奈子	助教	博士(薬)		
		情報科学教育	掛谷 秀昭(兼)	教授	博士(工)		
		附属薬用植物園		竹本 佳司	教授	薬学博士	薬学研究科本館 4F
寄附講座(2021年4月まで) 産学共同講座(2021年5月から)	ナノバイオ 医薬創成科学	岡野 清	産学共同講座教員	博士(理)	薬学研究科本館 3F		
		米原 伸	客員教授	博士(理)			
		妙本 陽	特定助教	修士(農)			
		岸本 純	特定助教	博士(生命科学)			
		須藤 哲央	産学共同講座教員	博士(理)			
		嶋田 裕	産学共同講座教員	博士(医)			
特別推進研究室	有機触媒化学	丸岡 啓二	特任教授	*Ph. D.	薬学研究科本館 4F		

\*PhD(pharmaceutical Chemistry)

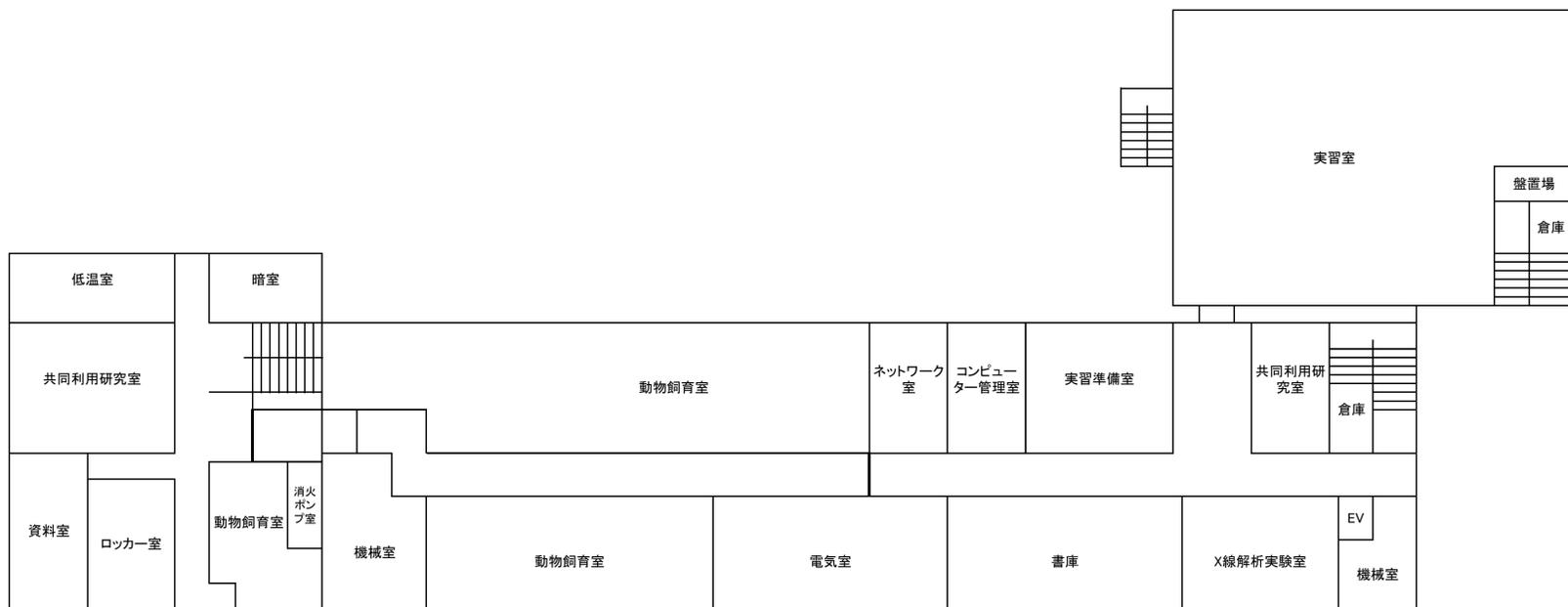
## 歴代学部長・研究科長

学部長（事務取扱）	山本俊平	(1960. 4)
学部長	富田真雄	(1960. 5～1964. 4)
	上尾庄次郎	(1964. 5～1968. 4)
	掛見喜一郎	(1968. 5～1970. 4)
	上尾庄次郎	(1970. 5～1972. 4)
	宇野豊三	(1972. 5～1974. 4)
	犬伏康夫	(1974. 5～1976. 4)
学部長・研究科長	井上博之	(学部長 1976. 5～1978. 4) (研究科長 1977. 2～1978. 4)
	中垣正幸	(1978. 5～1980. 4)
	高木博司	(1980. 5～1982. 4)
	矢島治明	(1982. 5～1984. 4)
	田中久	(1984. 5～1986. 4)
	瀬崎仁	(1986. 5～1988. 4)
	米田文郎	(1988. 5～1990. 4)
	横山陽	(1990. 5～1994. 4)
	市川厚	(1994. 5～1996. 4)
	佐藤公道	(1996. 5～1998. 4)
	川寄敏祐	(1998. 5～2000. 4)
	中川照真	(2000. 5～2002. 4)
	橋田充	(2002. 5～2006. 3)
	富岡清	(2006. 4～2007. 12)
	藤井信孝	(2008. 1～2008. 9)
	伊藤信行	(2008. 10～2010. 3)
	佐治英郎	(2010. 4～2014. 3)
	高倉喜信	(2014. 4～2016. 3)
	中山和久	(2016. 4～2020. 3)
	加藤博章	(2020. 4～2022. 3)
	竹本佳司	(2022. 4～ )

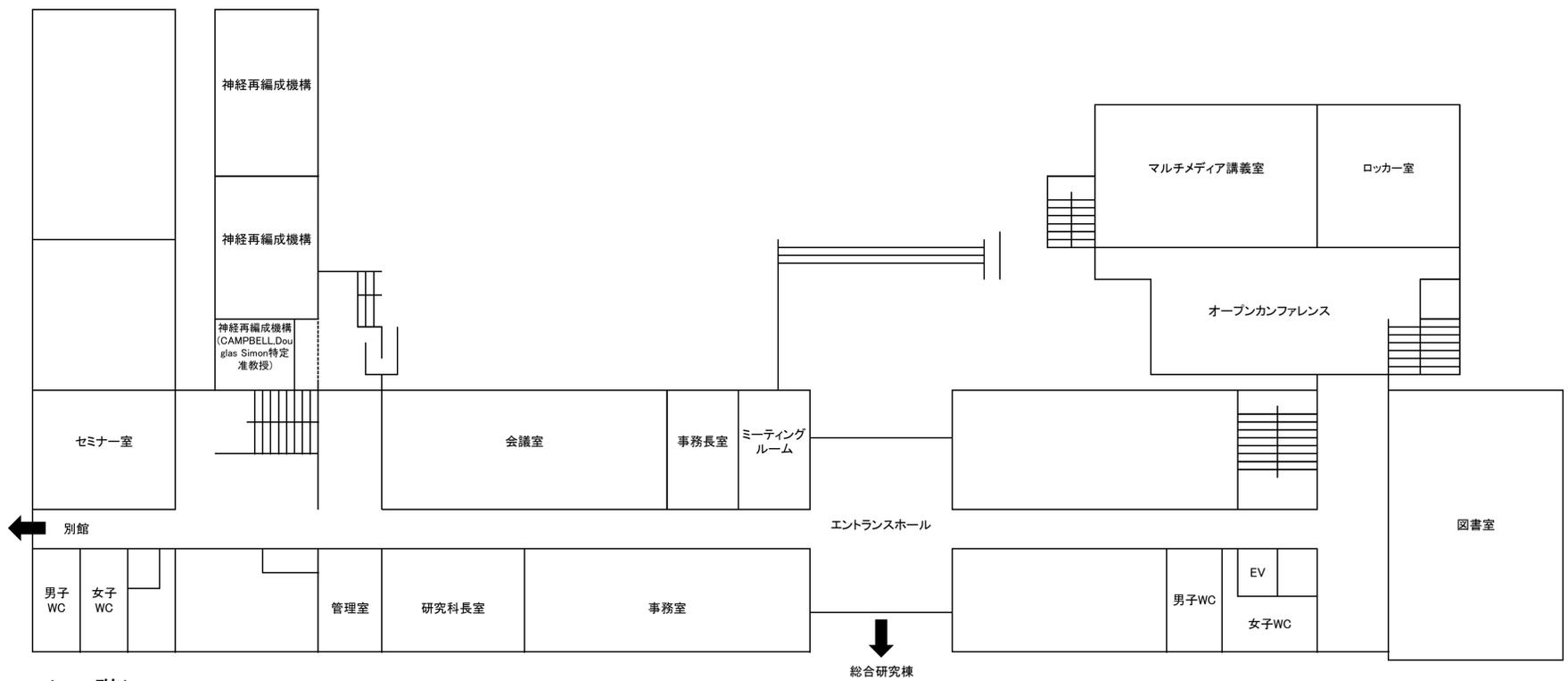
## 2024年度 薬学部教務関係委員

薬科学科長	教授	高須清誠
薬学科長	教授	山下富義
教務委員長	教授	掛谷秀昭
学生委員	教授	加藤博章
〃	教授	石濱泰
就職委員	教授	加藤博章
図書委員長	教授	掛谷秀昭
学生生活委員会委員	教授	石濱泰
教職教育委員会委員	教授	掛谷秀昭

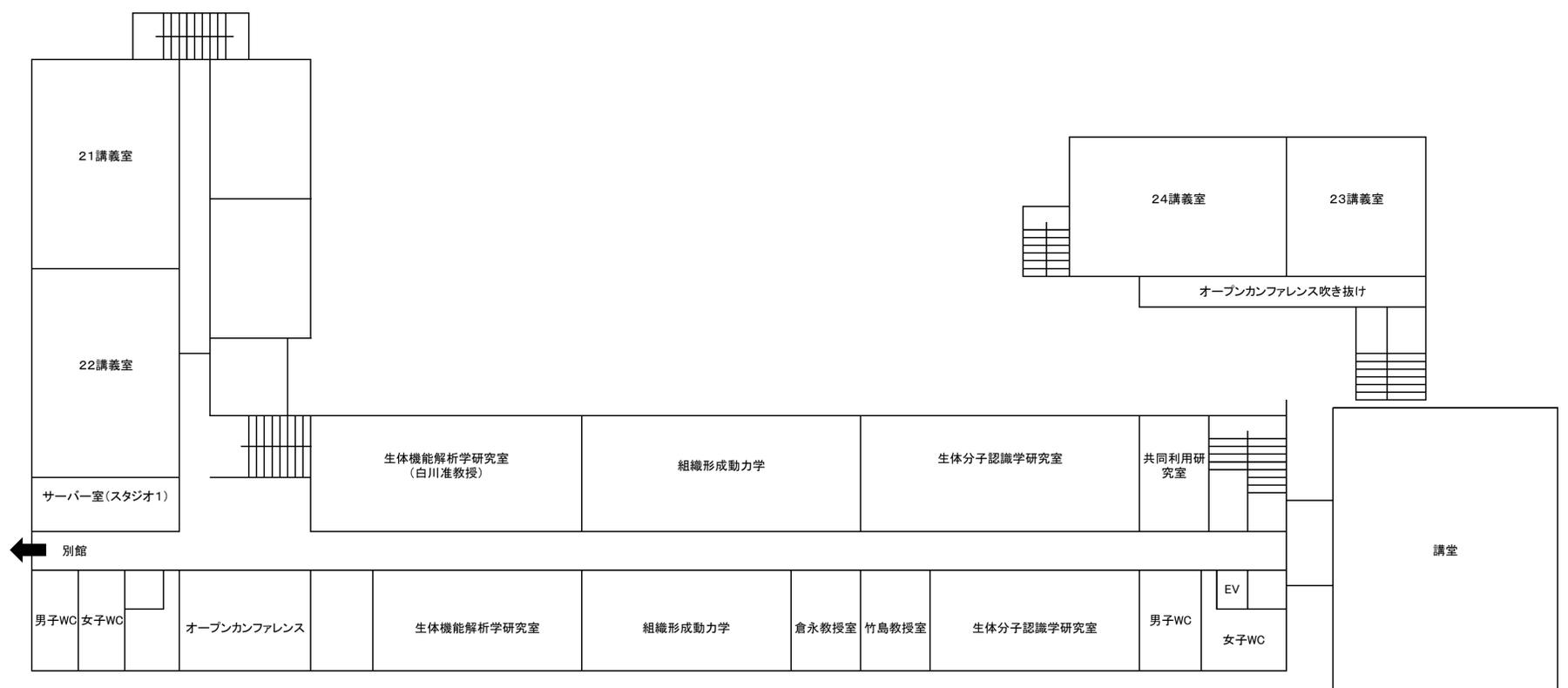
# 本館 建物内配置図



(地階)

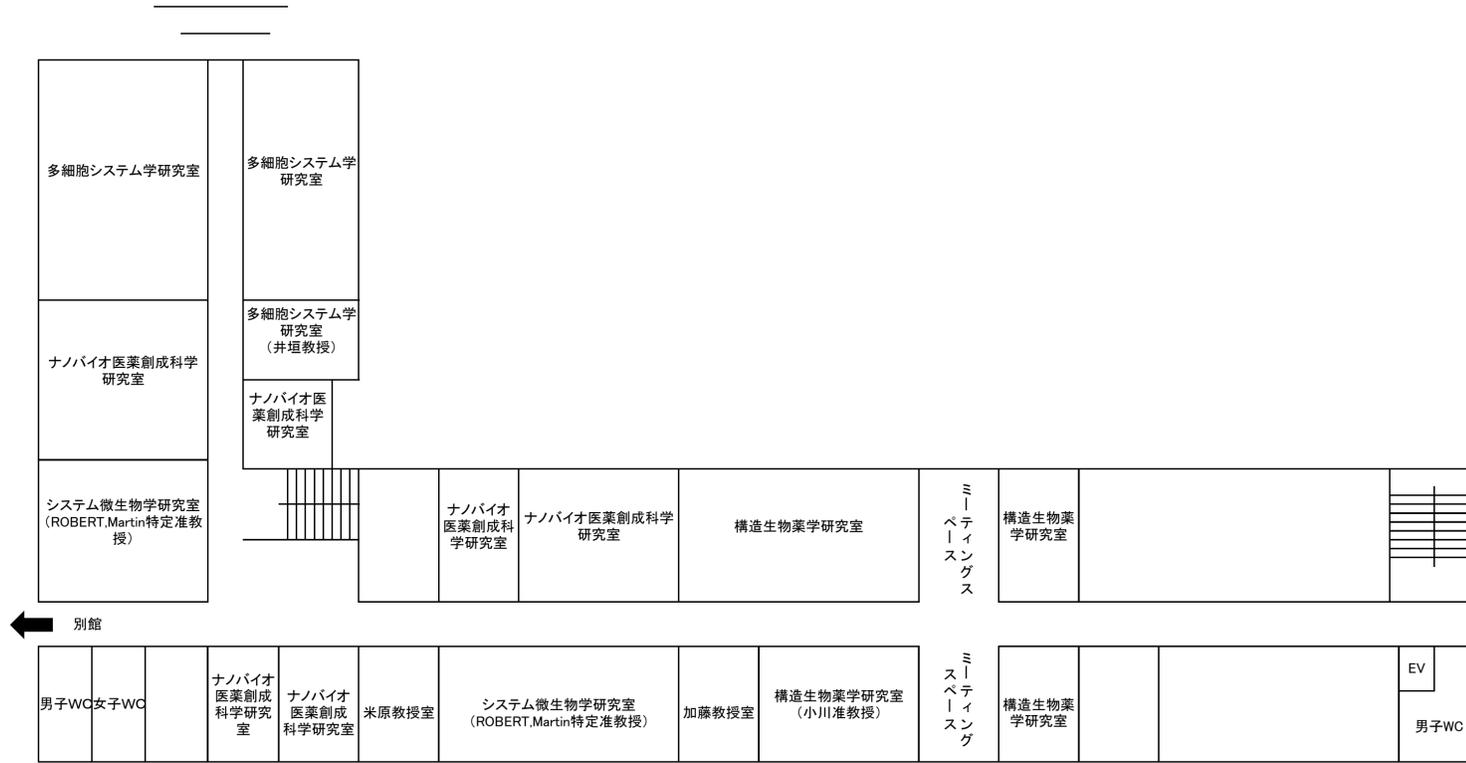


(1階)

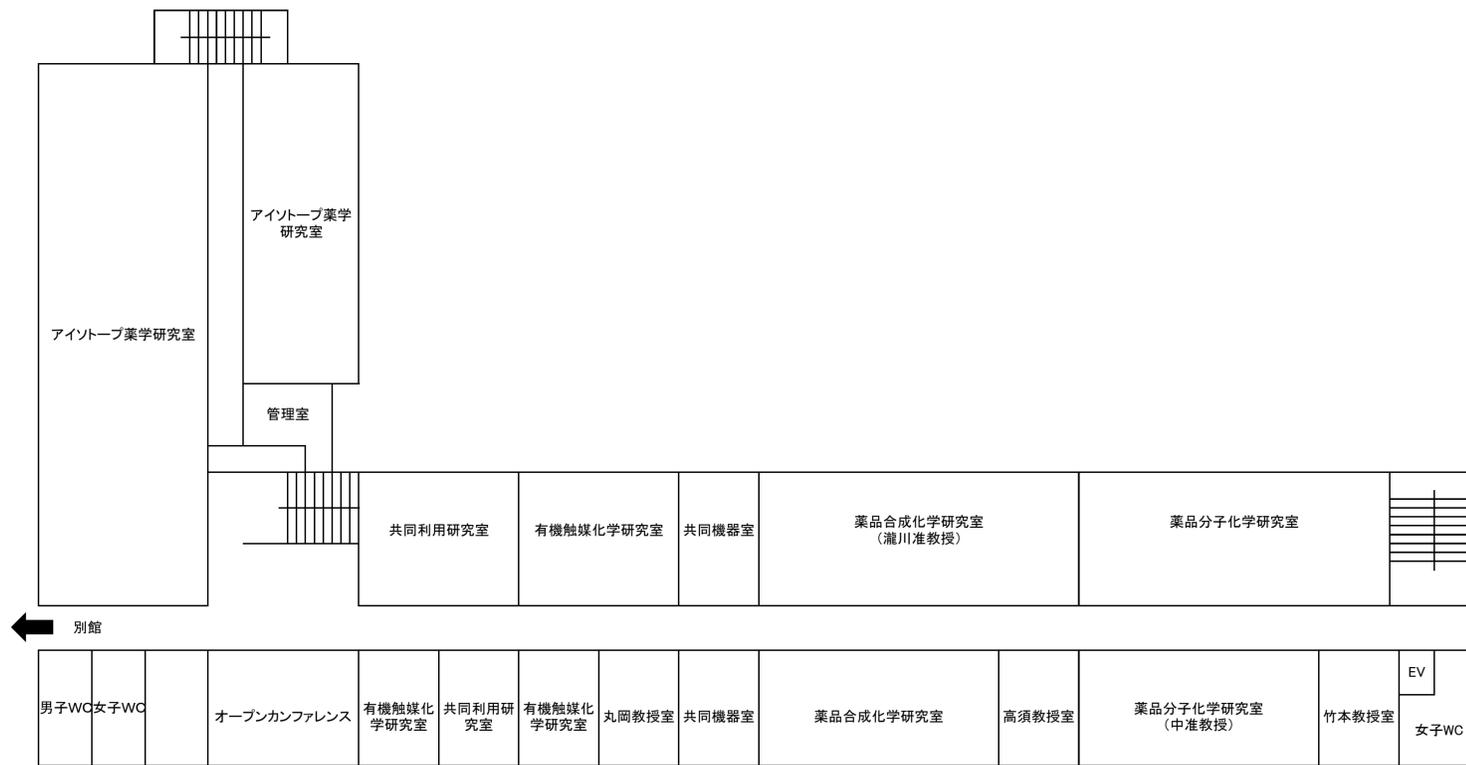


(2階)

# 本館 建物内配置図

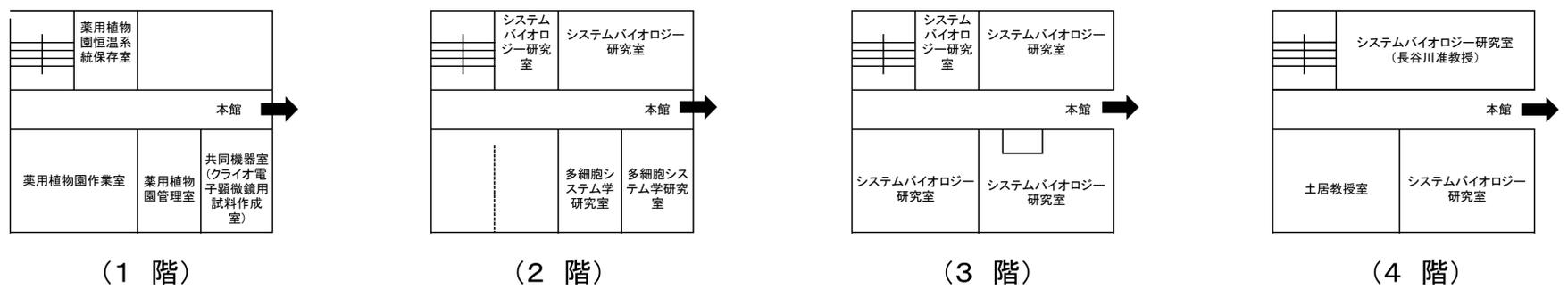


(3 階)



(4 階)

# 別館 建物内配置図



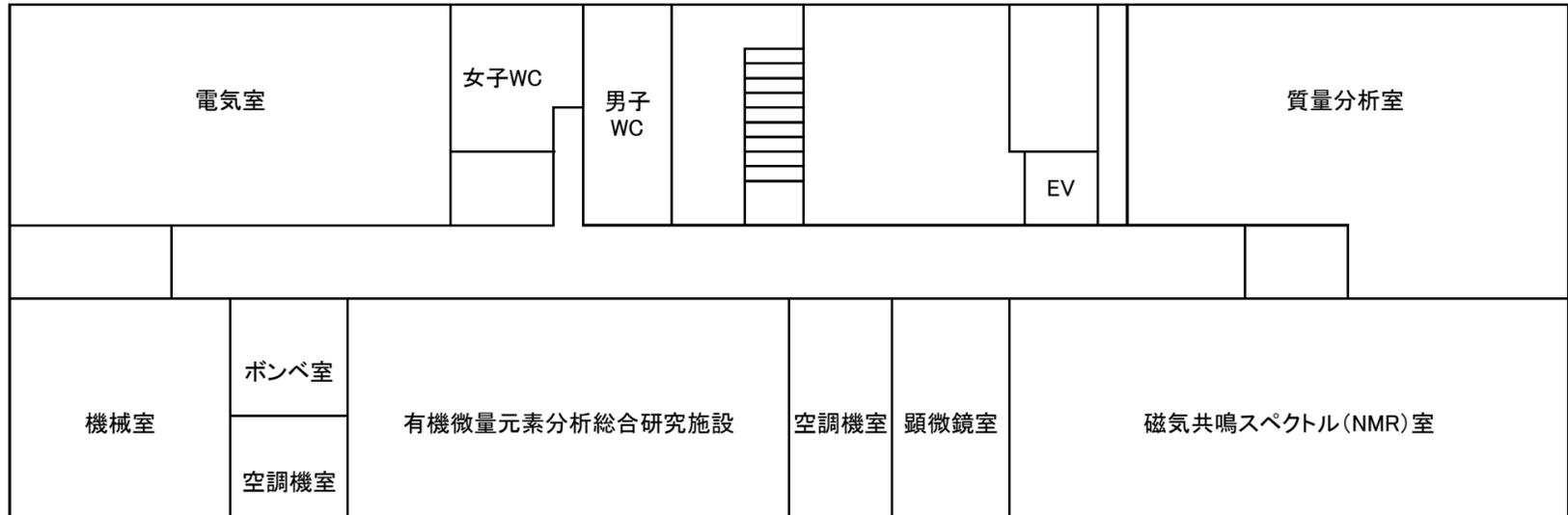
(1 階)

(2 階)

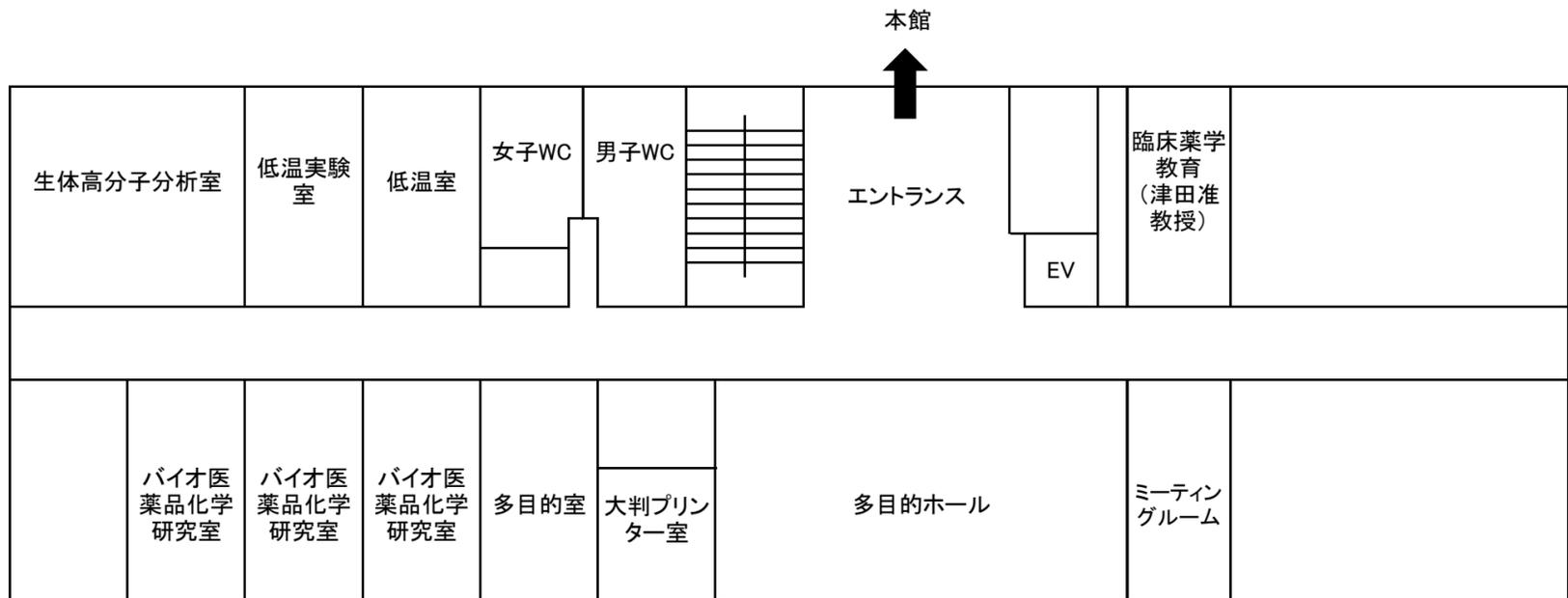
(3 階)

(4 階)

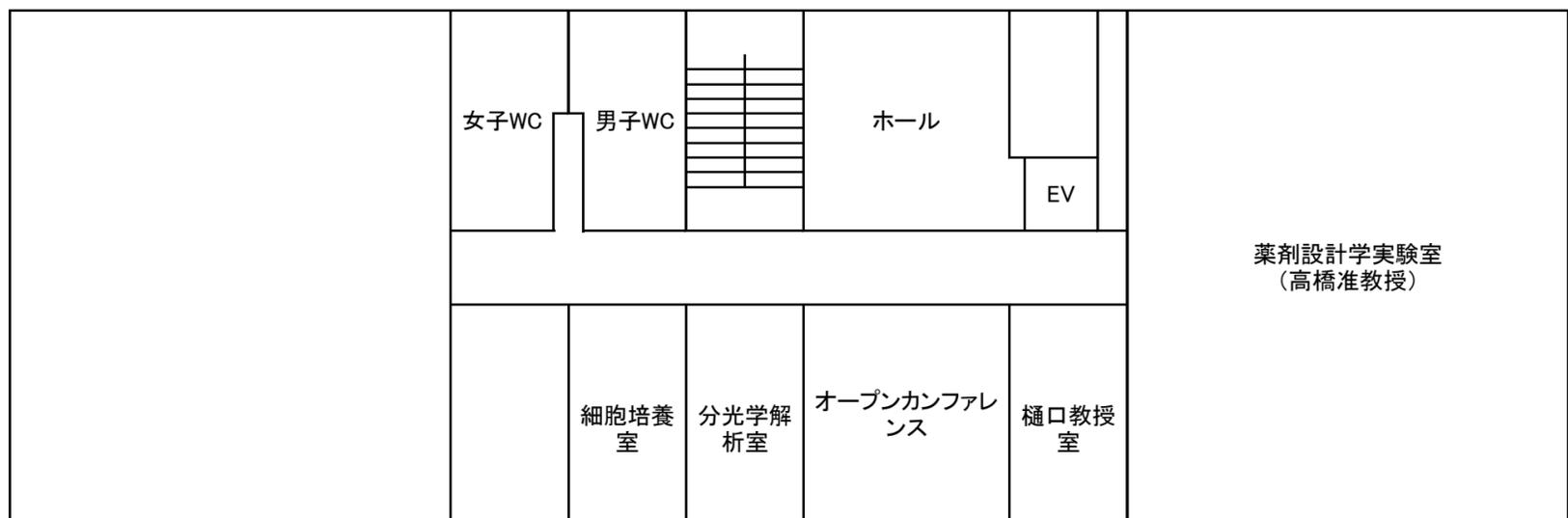
# 総合研究棟(新館) 建物内配置図



## (地階)

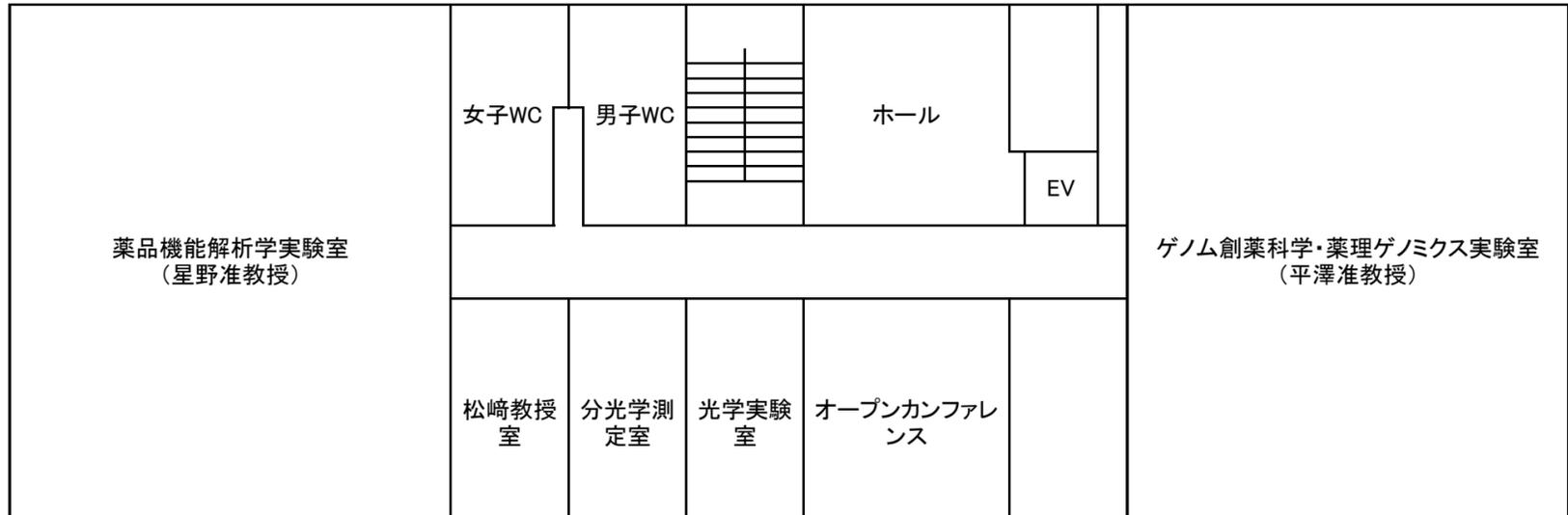


## (1階)

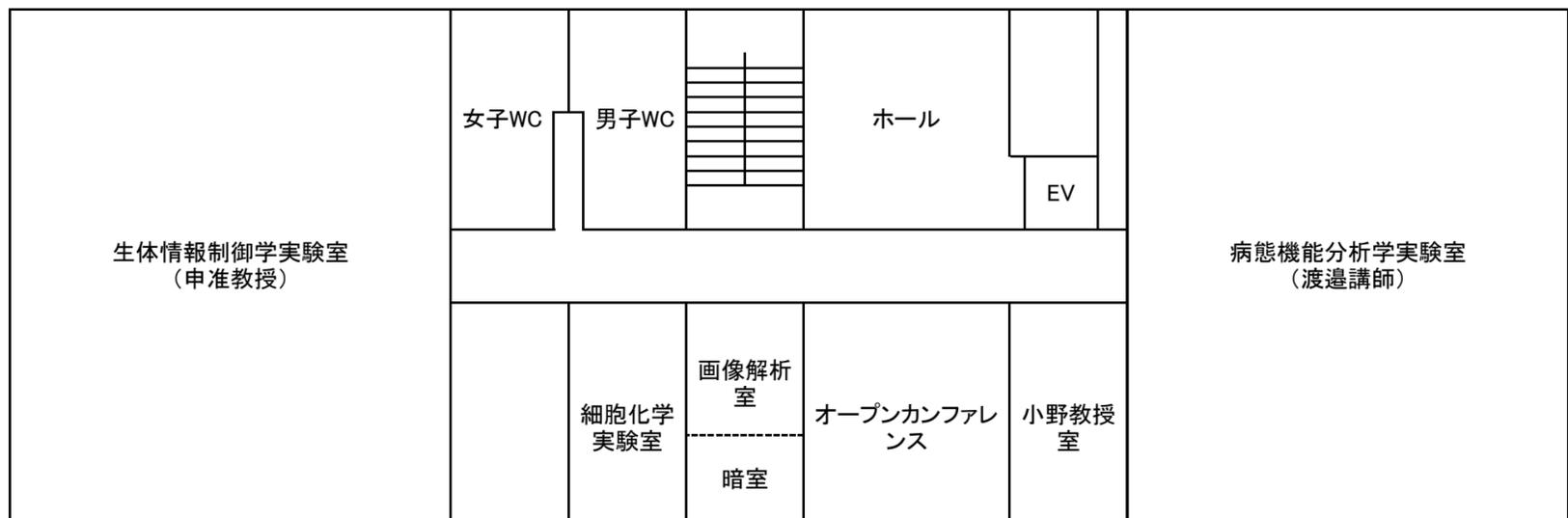


## (2階)

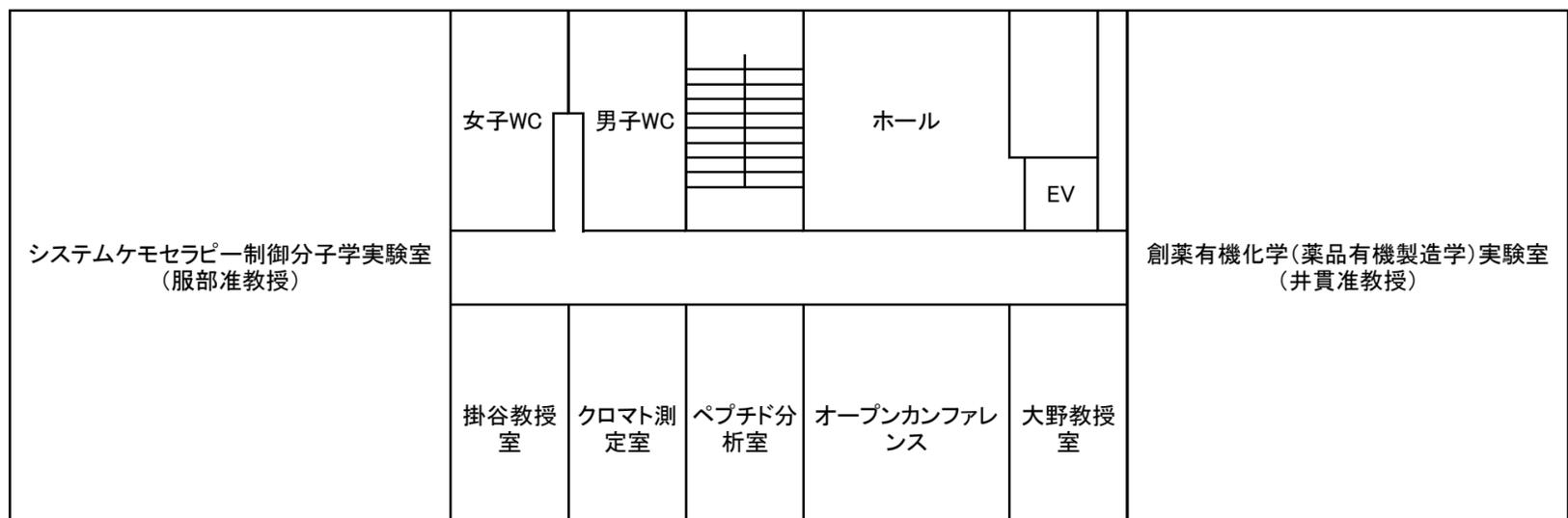
# 総合研究棟(新館) 建物内配置図



(3 階)

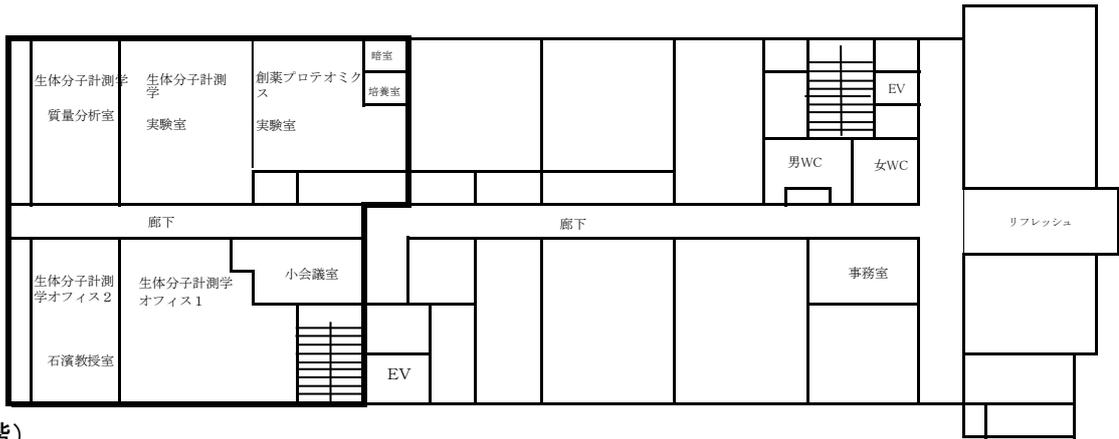


(4 階)

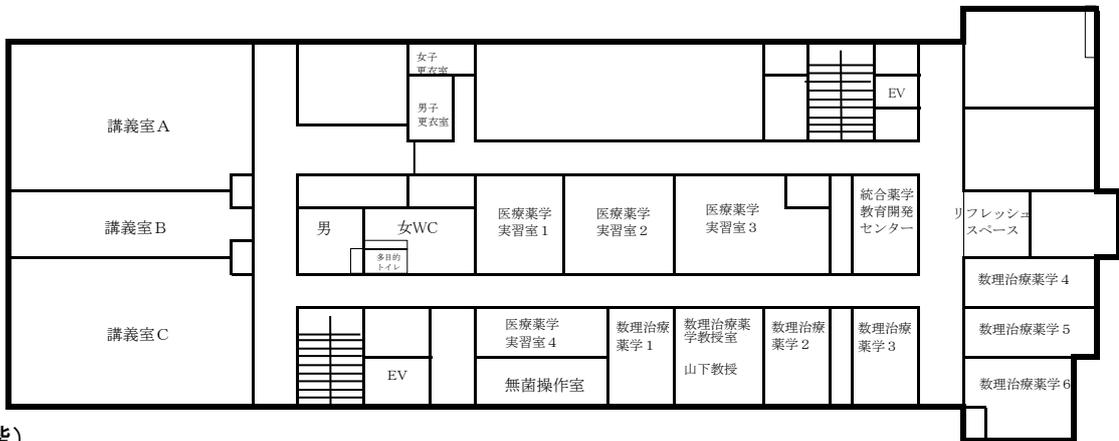


(5 階)

# 医薬系総合研究棟 建物内配置図



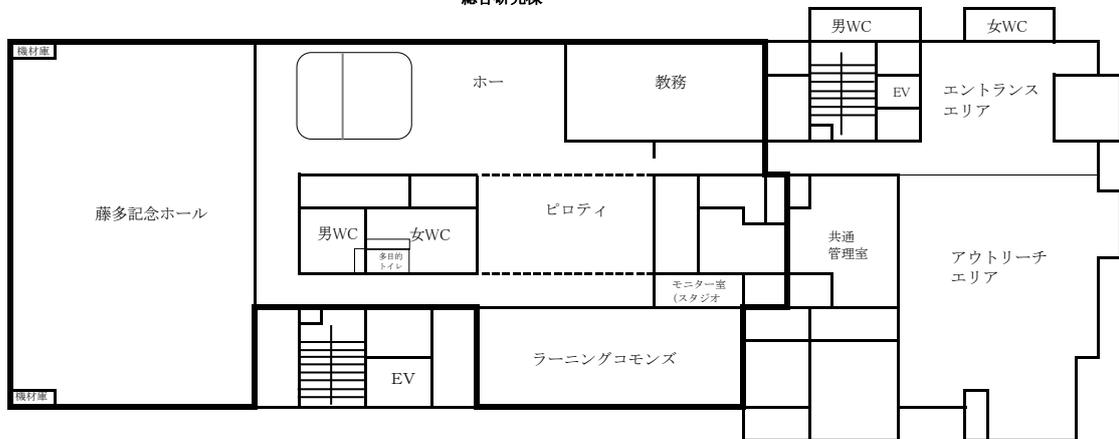
(3 階)



(2 階)



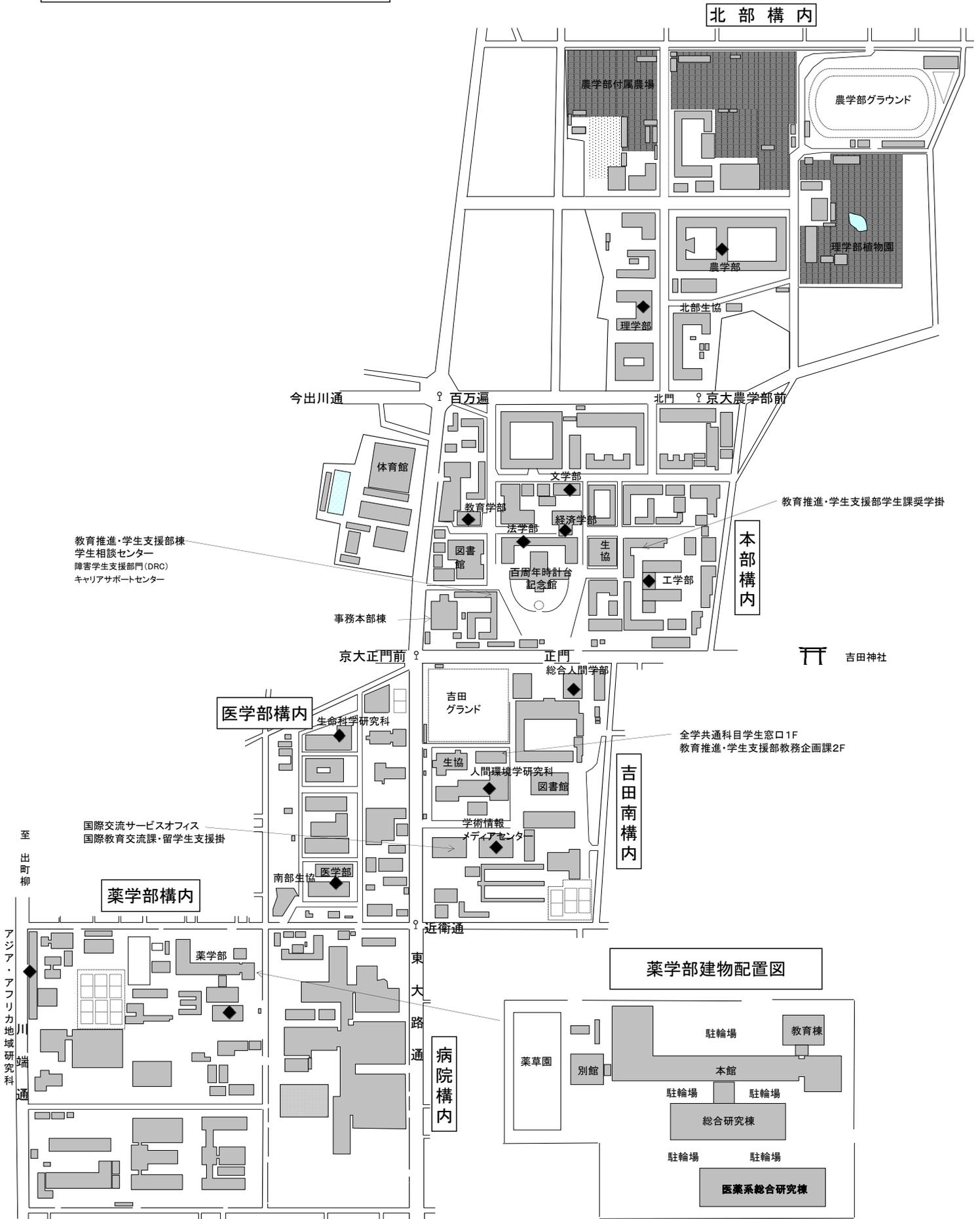
## 総合研究棟



(1 階)

# 京都大学構内図

## 吉田キャンパス



至 丸太町

## Ⅱ. シラバス

## はじめに

本シラバスは、京都大学薬学研究科の2024年度開講科目に関して、講義、演習、実験、実習、スキルおよび研究などの目的・趣旨、内容の概略等を科目別に紹介したものです。学生諸君が選択科目の履修計画を立てるに当たって科目の選定に役立ててください。

また、教員が各自の授業内容を明示することによって、他の教員による授業内容との連携を把握するのに役立ててください。

京都大学薬学研究科における学習に本シラバスが大いに活用されることを望みます。

京都大学大学院薬学研究科

科目ナンバリング		G-PHA00 51026 LJ86					
授業科目名 <英訳>	創薬有機化学概論 Introduction to Organic Chemistry for Drug Discovery		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科 化学研究所 化学研究所 薬学研究科	教授 教授 教授 教授 准教授 准教授 准教授 准教授 教授 教授 教授	竹本 佳司 掛谷 秀昭 高須 清誠 大野 浩章 服部 明 井貫 晋輔 中 寛史 瀧川 紘 大宮 寛久 上杉 志成 樋口 ゆり子	
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定		
曜時限	木1	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語		
[授業の概要・目的]							
<p>修士課程において、薬品創製化学または医薬創成情報科学を専攻する学生に対する導入講義。  薬品創製化学または医薬創成情報科学の基本となる有機化学、合成化学、医薬品化学、生薬・天然物化学、ケミカルバイオロジーなどの分野に関して、医薬品創製の基礎となる研究の背景を紹介し、基礎的な知識の習得と研究活動の基盤の確立をめざす。また、薬品創製化学または医薬創成情報科学に関する最新のトピックスについても、各分野の教員や、必要に応じて製薬企業などから非常勤講師を招いて講義を行う。</p>							
[到達目標]							
<p>(1) 医薬品創製化学または医薬創成情報科学（有機化学、合成化学、医薬品化学、生薬・天然物化学、ケミカルバイオロジーなど）に関する基礎的事項を理解する。  (2) 医薬品創製化学または医薬創成情報科学に関する最新の動向と最先端の研究を学び、理解する。  (3) 医薬品創製化学または医薬創成情報科学に関する最先端の研究を自主的に調べ、理解し、考察する能力を養う。</p>							
[授業計画と内容]							
第1回 有機化学の基本概念の概要 第2回 有機化学の基本概念の詳細解説 第3回 有機化合物の反応と合成の概要 第4回 有機化合物の反応と合成の詳細解説 第5回 生薬・天然物化学及びケミカルバイオロジーに関する最近の話題の概要 第6回 生薬・天然物化学及びケミカルバイオロジーに関する最近の話題の詳細解説 第7回 キラルテクノロジーの概要 第8回 キラルテクノロジーの詳細解説 第9回 グリーンケミストリーの概要 第10回 グリーンケミストリーの詳細解説 第11回 創薬研究におけるプロセス化学の概要 第12回 創薬研究におけるプロセス化学の詳細解説 第13回 企業における有機化学領域の研究の現状と展望その1 第14回 企業における有機化学領域の研究の現状と展望その2 第15回 総合討論							
[履修要件]							
特になし							
創薬有機化学概論 (2)へ続く							

創薬有機化学概論 (2)

[成績評価の方法・観点]

講義内容をもとに課す課題に対するレポート(50点)平常点評価(50点)

[教科書]

必要に応じてプリント等を配布する。

[参考書等]

(参考書)

講義内容に応じて指定する場合がある。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で学習したことに関して、教科書や学术论文を読んで理解をさらに深める。その内の幾つかの課題に関しては、レポートとしてまとめて提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA00 51027 LJ86					
授業科目名 <英訳>	創薬生命科学概論 Introduction to Modern Life Sciences for Drug Discovery		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	竹島	浩
				薬学研究科	教授	土居	雅夫
				医生物学研究所	教授	伊藤	貴浩
				生命科学研究科	准教授	菅田	浩司
				生命科学研究科	教授	木村	郁夫
				化学研究所	教授	二木	史朗
				医生物学研究所	教授	伊藤	能永
				医生物学研究所	教授	橋口	隆生
				薬学研究科	特定准教授	CAMPBELL,	Douglas Simon
				薬学研究科	教授	倉永	英里奈
				薬学研究科	教授	樋口	ゆり子
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定		
曜時限	火1	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）修士課程において生命科学を専攻する学生に対する導入講義。生命科学の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学、微生物学などの分野と創薬との関連に関して、基礎的な知識の習得をめざす。 また、情報系・理論系の学部出身者が基礎生命科学を理解できるようにする。</p> <p>（概要）生命科学の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学、微生物学、免疫学などの分野の概要と創薬との関連に関して、本研究科および協力講座所属教員やが講義を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
修士課程における研究を遂行する上で必要な、生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学、微生物学、免疫学などに関する基礎知識を習得するとともに、創薬との関連について理解する。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院における生命科学領域の研究の現状</li> <li>2. 薬学研究における生命科学の位置づけの概要</li> <li>3. 生体情報制御学分野の研究手法</li> <li>4. 生体分子認識学分野の研究手法</li> <li>5. システムバイオロジー分野の研究手法</li> <li>6. 生体機能化学分野の研究手法</li> <li>7. 生理活性制御学分野の研究手法</li> <li>8. 神経機能制御学分野の研究手法</li> <li>9. がん・幹細胞シグナル学分野の研究手法</li> <li>10. 免疫制御学分野の研究手法</li> <li>11. ウイルス制御学分野の研究手法</li> <li>12. 創薬における生命科学領域の研究の現状と展望その1</li> <li>13. 創薬における生命科学領域の研究の現状と展望その2</li> <li>14. 創薬における生命科学領域の研究の現状と展望その3</li> <li>15. 総合討論</li> </ol>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
創薬生命科学概論(2)へ続く							

## 創薬生命科学概論(2)

### [成績評価の方法・観点]

講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。

### [教科書]

必要に応じてプリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

講義内容に応じて指定する場合がある。

### [授業外学修(予習・復習)等]

修士課程の研究課題ならびに関連学問領域の現状や課題に関して的確に掌握しつつ受講すること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA00 51028 LJ86					
授業科目名 <英訳>	創薬医療薬科学概論 Introduction to Pharmacy and Biomedical Sciences for Drug Discovery		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科	教授 教授 准教授	樋口 ゆり子 山下 富義 平澤 明	
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定		
曜時限	水3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）修士課程における医療薬科学に関する導入講義。薬学研究科における医療薬科学系の各分野での研究概要と創薬研究・医薬品開発や医療現場の現状を把握する。</p> <p>（概要） 医薬品の作用を支配するプロセス、すなわち、病態、薬物の体内動態や薬理効果発現の機構とこれらを制御する要因およびゲノム創薬を含む新薬開発の現状と医療上での問題点などを概説し、創薬や医薬品開発と適正な薬物治療の実現を目的とした基礎研究に必要な知識を習得する。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療薬科学研究・ゲノム創薬に関する最新の情報を幅広く学び、基本的知識を身につける。</li> <li>・課題（レポート）に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。</li> </ul>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
第1回～第2回 大学院における薬学の研究と教育の現状 第3回～第4回 薬学における医療薬科学の位置付け 第5回 薬品動態制御学分野の研究概要 第6回 薬品作用解析学分野の研究概要 第7回 生体機能解析学分野の研究概要 第8回 病態情報薬学分野の研究概要 第9回 薬理ゲノミクス分野の研究概要 第10回 病院薬学、臨床研究の現状 第11回 医療現場におけるトピック、問題点の概説 第12回 医薬品開発のプロセスその1 第13回 医薬品開発のプロセスその2 第14回～第15回 補講と総合討論							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
講義プリントを配布する。							
<b>[参考書等]</b>							
（参考書） 講義内容に応じて指定する場合がある。							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
事前に各回の講義テーマについて基本事項をインターネット等により調べ授業に臨むこと。また、授業内容に関するレポートが課され、これに基づいて成績評価がなされるので注意すること。							
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>							
能動的な態度で受講してください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-PHA01 51217 LJ86						
授業科目名 <英訳>	創薬物理化学概論 Introduction to Physical Chemistry for Drug Discovery			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	石濱	泰
					薬学研究科	教授	小野	正博
					薬学研究科	教授	加藤	博章
					薬学研究科	教授	松崎	勝巳
					薬学研究科	准教授	星野	大
					薬学研究科	講師	渡邊	裕之
					薬学研究科	准教授	小川	治夫
					薬学研究科	助教	河野	健一
					薬学研究科	助教	山口	智子
					薬学研究科	助教	小形	公亮
薬学研究科	助教	金尾	英佑					
薬学研究科	教授	樋口	ゆり子					
配当学年	修士1,2回生		単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定		
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語			
[授業の概要・目的]								
<p>修士課程において物理化学系薬学を専攻する学生に対する導入講義。創薬の基盤となる生命科学研究に物理化学を用いてアプローチする際の要である、分光學、熱力学、質量分析学、構造生物学、反応速度論、および生体の分析化学などに関する最先端研究を理解し、また、自ら実施するために必要な基礎的な知識の習得をめざす。そのために、それぞれの学問分野の基礎となる事項、および、それらを実際の科学研究に活用した事例について学習する。</p>								
[到達目標]								
<p>(1) 薬学における物理化学の主要な学問領域、すなわち、質量分析学、分光學、熱力学、構造生物学、生体の分析化学などに関する大学院レベルの基礎的事項を理解する。  (2) 薬学における物理化学の最新の動向と最先端の研究事例を学び、理解する。  (3) 薬学における物理化学の最先端の研究について主体的に調査し、理解し、考察する能力を養う。</p>								
[授業計画と内容]								
第1回 導入講義 第2回～第5回 最新の質量分析法の原理と応用 第6回～第8回 最新の構造生物学の原理と手法および応用例 第9回～第11回 最新の分光學と熱力学のデータ収集・解析法とその応用 第12回～第14回 最新の分子イメージング法の原理と生体分析への応用 第15回 総合討論								
[履修要件]								
特になし								
[成績評価の方法・観点]								
授業内での発言や質疑応答など講義への積極的な参加（20%）、講義内容を基に課す課題に対するレポート（80%）により評価する。 全授業回数の25%以上欠席した場合には、単位を認めない。 レポートは課されたもの全回提出を必須とする。 独自の工夫が見られるレポートについては、高い点を与える。								
創薬物理化学概論(2)へ続く								

創薬物理化学概論 (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

講義で学習したことに関して、参考書や学术论文を読んで理解をさらに深める。特に、自らの研究内容に直接関わる内容については、研究への活用について具体的な調査と検討を行い、講義担当者および研究指導教員との積極的な対話を行うことを奨励する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 51205 LJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤有機化学実験技術 Basic Laboratory Techniques in Organic Chemistry			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	高須 清誠
					薬学研究科	教授	竹本 佳司
				薬学研究科	准教授	中 寛史	
				薬学研究科	准教授	瀧川 紘	
				薬学研究科	教授	大野 浩章	
				薬学研究科	教授	掛谷 秀昭	
				化学研究所	教授	大宮 寛久	
配当学年	修士1回生		単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定	
曜時限	集中	授業形態	講義（対面授業科目）		使用言語	日本語	
【授業の概要・目的】							
<p>修士課程において薬品創製化学を専攻する学生に対する実験を始める直前および半年のあいだに集中して行う講義。薬品創製化学実験の基本となる有機化学、医薬品化学、天然物化学、生薬学などに関して分析機器の測定法と有機・無機化合物の同定法、有機・無機化合物の取り扱いや精製法に関する実験技術を講義する。また、安全に実験を行うための基本的な知識と実験操作の技術を習得するため、講義と実習を組み合わせ教育を行う。</p>							
【到達目標】							
<p>(1) 研究倫理と生命倫理に関する基本的事項を理解する。  (2) レポート作成に関する基本的事項を習得し、それらを遵守してレポートを作成できるようになる。  (3) 分析機器の測定法、有機・無機化合物の同定法、有機・無機化合物の取り扱いや精製法に関する実験技術法について理解し、習得する。  (4) 安全に実験を行うための基本的な知識と実験操作の技術を習得する。</p>							
【授業計画と内容】							
<p>第1回～第7回 薬品創製化学領域の実験技術の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化合物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・微生物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・動物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・組換えDNAの実験技術と安全な取扱い</li> <li>・放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・インターネットやデータベースの活用技術</li> <li>・廃棄物や排水の処理法と環境配慮</li> </ul> <p>第8回 安全に実験を行うための心構えについて  第9回 有機化合物の基本的な取り扱いについて  第10回 無機化合物の基本的な取り扱いについて  第11回 有機化合物の精製法と廃棄処理方法について  第12回 無機化合物の精製法と廃棄処理方法について  第13回 NMRの測定法と化合物同定法の講義  第14回 IRの測定法と化合物同定法の講義  第15回 Massの測定法と化合物同定法の講義</p>							
【履修要件】							
特になし							
----- 基盤有機化学実験技術(2)へ続く -----							

基盤有機化学実験技術(2)

**[成績評価の方法・観点]**

講義や実習での平常点（50点）、講義中に課す課題に対するレポート（50点）

**[教科書]**

必要に応じてプリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）

講義内容に応じて指定する場合がある。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

講義で学習したことに関して、教科書や学术论文を読んで理解をさらに深めるとともに、研究の場で実践して活用する。課題に関しては、レポートとしてまとめて提出する。

**（その他（オフィスアワー等））**

コメント：化学系分野に所属する学生には必須の講義内容です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 51206 LJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤物理化学実験技術 Basic Laboratory Techniques in Physical Chemistry			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	松崎 勝巳
					薬学研究科	教授	加藤 博章
				薬学研究科	教授	石濱 泰	
				薬学研究科	教授	小野 正博	
				薬学研究科	准教授	星野 大	
				薬学研究科	准教授	小川 治夫	
				薬学研究科	講師	渡邊 裕之	
				薬学研究科	特定准教授	Martin Robert	
				化学研究所	教授	馬見塚 拓	
配当学年	修士1回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定		
曜時限	集中	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）物理系薬学実験の基本となる熱力学、構造生物学、速度論などの分野に関して、研究遂行に必要な基盤実験技術を身につけるとともに、安全な実験操作を行うための知識と技術の習得をめざす。</p> <p>（概要）生物化学実験の基本となる構造生物学、生物物理化学、臨床分析化学、分光學、界面科学、分子構造学、放射化学などに関して、講義と実習を組み合わせ教育を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
物理系薬学実験の基本手技を安全確実にを行うことを習得する。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
第1回 導入講義 第2回 化合物の取扱技術と安全な取扱い 第3回 微生物の取扱技術と安全な取扱い 第4回 動物の取扱技術と安全な取扱い 第5回 組換えDNAの実験技術と安全な取扱い 第6回 放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い 第7回 X線の安全な取扱い 第8回 インターネットやデータベースの活用技術 第9回 廃棄物や排水の処理法と環境配慮 第10回 構造生物学・分子構造学実験技術の概要 第11回 生体コロイド科学・界面科学実験技術の概要 第12回 生物物理化学実験技術の概要 第13回 臨床分析化学・放射化学実験技術の概要 第14回 分光学実験技術の概要 第15回 補講と総合討論							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
講義や実習への出席状況、課題に対するレポートなどを総合的に評価する。							
----- 基盤物理化学実験技術(2)へ続く -----							

基盤物理化学実験技術(2)

**[教科書]**

必要に応じてプリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

講義内容に応じて指定する場合がある。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

不明な点は、関連書籍を調査し、理解しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 51207 LJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤生物化学実験技術 Basic Laboratory Techniques in Biological Chemistry	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	土居 雅夫	
			薬学研究科	特定准教授	CAMPBELL, Douglas Simon	
			薬学研究科	教授	竹島 浩	
			医生物学研究所	教授	橋口 隆生	
			生命科学研究科	教授	井垣 達吏	
			化学研究所	教授	二木 史朗	
			医生物学研究所	教授	伊藤 貴浩	
			生命科学研究科	教授	木村 郁夫	
			薬学研究科	准教授	申 恵媛	
			薬学研究科	准教授	平澤 明	
			化学研究所	教授	緒方 博之	
			化学研究所	教授	上杉 志成	
配当学年	修士1回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定	
曜時限	その他	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語	
[授業の概要・目的]						
<p>(目的) 生物化学実験の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学などの分野に関して、基本的な実験技術を身につけるとともに、安全な実験操作を行うための知識と技術の習得をめざす。</p> <p>(概要) 生物化学実験の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学などに関して、講義と実習を組み合わせ教育を行う。</p>						
[到達目標]						
生物化学実験の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学などに関する実験技術の基本を身につけるとともに、安全な実験操作を行うための知識と技術を習得する。						
[授業計画と内容]						
<p>1～3. 生物化学領域の実験技術の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化合物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・微生物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・動物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・組換えDNAの実験技術と安全な取扱い</li> <li>・放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・インターネットやデータベースの活用技術</li> <li>・廃棄物や排水の処理法と環境配慮</li> </ul> <p>4. 生体分子認識学分野の実験技術の概要</p> <p>5. 生体情報制御分野の実験技術の概要</p> <p>6. 薬理ゲノミクス・ゲノム創薬科学の実験技術の概要</p> <p>7. システムバイオロジー分野の実験技術の概要</p> <p>8. 生体機能化学分野の実験技術の概要</p> <p>9. 生理活性制御分野の実験技術の概要</p> <p>10. 神経機能制御分野の実験技術の概要</p> <p>11. がん・幹細胞シグナル学分野の実験技術の概要</p> <p>12. ウイルス制御学分野の実験技術の概要</p> <p>13. 神経再編成機構分野の実験技術の概要</p> <p>14. バイオインフォマティクス分野の実験技術の概要</p> <p>15. ケミカルバイオロジー分野の実験技術の概要</p>						
----- 基盤生物化学実験技術(2)へ続く -----						

基盤生物化学実験技術(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

講義や実習への出席状況、講義や実験内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。

**[教科書]**

必要に応じてプリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

講義内容に応じて指定する場合がある。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

実験を今後行っていくために必要な情報については、必ず復習して身につけるようにすること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 51208 LJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤医療薬科学実験技術 Basic Laboratory Techniques in Pharmacy and Biomedical Sciences		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	山下	富義
				附属病院	教授	寺田	智祐
				薬学研究科	准教授	白川	久志
				附属病院	准教授	中川	俊作
				薬学研究科	教授	樋口	ゆり子
				薬学研究科	准教授	高橋	有己
配当学年	修士1回生		単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定	
曜時限	集中	授業形態	講義（対面授業科目）		使用言語	日本語	
[授業の概要・目的]							
<p>（目的） 修士課程において、薬剤学、薬理学を専攻する学生に対する講義と実験。薬剤系、薬理系の各分野において研究を実施する際に必要な基本的実験技術について学ぶ。</p> <p>（概要） 薬理効果の評価法、薬物体内動態の評価法など薬剤学、薬理学に関する研究を実施するにあたり身につけておくことが望ましい基本的な実験技術を講義と実習を通じて習得する。</p>							
[到達目標]							
・薬剤学、薬理学に関する研究を実施する際に必要な基本的実験技術について学び、自ら研究を行うための知識と実験技術を習得する。							
[授業計画と内容]							
<p>第1回～第6回 医療薬科学領域の実験技術の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化合物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・微生物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・動物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・組換えDNAの実験技術と安全な取扱い</li> <li>・放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・インターネットやデータベースの活用技術</li> <li>・廃棄物や排水の処理法と環境配慮</li> </ul> <p>第7回 医薬品の吸収、分布、代謝、排泄の評価に利用される動物実験手技</p> <p>第8回 医薬品の吸収、分布、代謝、排泄の機構解析および定量的評価法</p> <p>第9回 薬物の動態の制御に利用されるDDSの調製手技</p> <p>第10回 薬物の動態制御技術の評価に用いられる動物実験・培養細胞系に関する実験手技</p> <p>第11回 神経細胞死の解析と薬効評価研究で用いられる実験手技</p> <p>第12回 培養細胞実験、切片培養実験の具体例と実験方法</p> <p>第13回 イオンチャネル、受容体機能解析のための電気生理学的実験手技</p> <p>第14回 分子生物学的実験操作の基本と応用</p> <p>第15回 補講と総合討論</p>							
[履修要件]							
特になし							
[成績評価の方法・観点]							
講義や実習への出席状況、講義や実験内容をもとに課す課題に対するレポートなどを総合的に評価する。							
----- 基盤医療薬科学実験技術(2)へ続く -----							

基盤医療薬科学実験技術(2)

**[教科書]**

必要に応じてプリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

講義内容に応じて指定する場合がある。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

事前に各回の授業テーマについて基本事項をインターネット等により調べ授業に臨むこと。また、授業内容に関するレポートが課され、これに基づいて成績評価がなされるので注意すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

能動的な態度で受講してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 61210 LJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤有機化学特論 Advanced Basic Organic Chemistry II		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	高須	清誠
				薬学研究科	教授	掛谷	秀昭
			薬学研究科	教授	大野	浩章	
			薬学研究科	准教授	服部	明	
			薬学研究科	准教授	井貫	晋輔	
			化学研究所	教授	大宮	寛久	
			薬学研究科	教授	樋口	ゆり子	
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期不定		
曜時限	木 1	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）有機化学、合成化学、有機金属化学、触媒化学、天然物化学、生薬学に関する最新のトピックスを紹介し、学部教育から最先端研究への橋渡しをする。本講義により、薬品創製化学分野の最近の進歩を理解し、創薬研究に応用するための知識と理論を習得する。</p> <p>（概要）医薬品合成の基礎となる種々の有機合成反応、特に有機金属試薬が関与する反応について、その特異性と応用を講義する。また、天然物化学や薬用植物の有効成分を利用した創薬研究への展開に関して最近の進歩を中心に講義する。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<p>到達目標</p> <p>(1) 創薬に関連する有機化学・天然物化学（有機化学、合成化学、医薬品化学、天然物化学、生薬学など）に関する基礎研究から応用研究への広がりを理解する。</p> <p>(2) 創薬化学に関する最新の動向と最先端の研究を学び、理解する。</p> <p>(3) 創薬化学に関する最先端の研究を自主的に調べ、理解し、考察する能力を養う。</p>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>第1回～第3回 有機金属化学の基礎と応用</p> <p>第4回～第6回 天然物合成化学</p> <p>第7回～第9回 生体関連分子の化学修飾</p> <p>第10回～第12回 薬用植物資源学</p> <p>第13回 有機化学に関する最新のトピックス紹介</p> <p>第14回 補講</p> <p>第15回 試験</p>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
講義への出席状況、授業ノート、講義中に課すレポートなどを総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
必要に応じてプリントを配布する。							
<b>[参考書等]</b>							
<p>（参考書）</p> <p>講義内容に応じて指定する場合がある。</p>							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
<p>毎回授業後に、講義内容に関連する教科書や文献を調査し、復習することが望ましい。そのような自学自習は、履修者の能力の幅や奥深さを大きく広げることに直結する。</p>							
（その他（オフィスアワー等））							
コメント：							
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-PHA01 61211 LJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤物理化学特論 Advanced Basic Physical Chemistry I			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	松崎 勝巳
					薬学研究科	教授	加藤 博章
				薬学研究科	教授	石濱 泰	
				薬学研究科	教授	小野 正博	
				薬学研究科	准教授	星野 大	
				薬学研究科	准教授	小川 治夫	
				薬学研究科	講師	渡邊 裕之	
				薬学研究科	教授	樋口 ゆり子	
				薬学研究科	助教	小形 公亮	
				薬学研究科	助教	金尾 英佑	
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定		
曜時限	金 2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語		
【授業の概要・目的】							
<p>（目的）最新の研究成果を基に、物理化学を創薬研究に活用する方法を学習する。  （概要）構造生物学、オミクス科学、生物物理化学、分子イメージング、生物無機化学など物理系薬学領域における最新の研究成果を紹介する。</p>							
【到達目標】							
物理化学の最先端の研究内容を理解し、それを自身の研究活動に生かすための提案を行うことができる。レポート課題に取り組み、研究の調査能力を養う。							
【授業計画と内容】							
第1回 創薬研究における物理化学概論 1 第2回～第5回 生物物理化学領域における最新の研究成果 第6回～第8回 構造生物学領域に関する最新の研究成果 第9回～第11回 オミクス科学領域における最新の研究成果 第12回～第14回 生体分子イメージング、生物無機化学領域における最新の研究成果 第15回 補講と総合討論							
【履修要件】							
特になし							
【成績評価の方法・観点】							
講義への出席状況、課題に対するレポートなどを総合的に評価する。							
【教科書】							
必要に応じてプリントを配布する。							
【参考書等】							
（参考書） 講義内容に応じて指定する場合がある。							
【授業外学修（予習・復習）等】							
特に予習は必要ないが、学部で習う物理化学・分析化学の基礎知識は必要。また、授業終了後に出される課題に取り組み、学んだ内容の定着に取り組むこと。							
（その他（オフィスアワー等））							
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-PHA01 61214 LJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤生物化学特論 Advanced Basic Biological Chemistry II			担当者所属・ 職名・氏名	化学研究所 薬学研究科 薬学研究科	教授 教授 教授	二木 史朗 土居 雅夫 樋口 ゆり子
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期不定		
曜時限	火 1	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>							
<p>(目的)生体機能、形態形成の分子機構とその制御や遺伝子・ゲノム科学の進展について理解を深めるために、最近の研究成果を紹介し討論を行う。</p> <p>(概要)生体機能、形態形成の分子機構とその制御や遺伝子・ゲノム科学の進展に関する最先端の研究成果について講義を行ったのちに討論を行う。必要に応じて研究科外の非常勤講師が講義を行う。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
生体機能、形態形成の分子機構とその制御や遺伝子・ゲノム科学の進展に関する最先端の研究動向を理解する。また、学んだ内容と各自の研究との接点を見出し、これを研究活動に活かすための提案ができるようになる。							
<b>【授業計画と内容】</b>							
<b>授業計画</b> 第1回～第4回 遺伝子・ゲノム科学の進展に関する最近の研究成果 第5回～第6回 形態形成の分子機構に関する最近の研究成果 第7回～第10回 生体機能化学に関する最近の研究成果 第11回～第12回 生体の分子認識に関する最近の研究成果 第13回～第15回 分子細胞生物学・システム生物学に関する最近の研究成果							
<b>【履修要件】</b>							
特になし							
<b>【成績評価の方法・観点】</b>							
講義への出席と講義内容に関連する課題に対するレポートの提出により評価する。							
<b>【教科書】</b>							
必要に応じてプリントを配布する。							
<b>【参考書等】</b>							
（参考書） 講義内容に応じて指定する場合がある。							
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>							
修士課程における研究課題ならびに関連学問領域の現状や課題に関して的確に掌握しつつ受講することが望ましい。							
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>							
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-PHA01 61215 LJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤医療薬科学特論 Advanced Basic Pharmacy and Biomedical Sciences I	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科	教授 教授	山下 富義 樋口 ゆり子
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期不定
曜時限	水 2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>(目的) 薬剤学、薬物動態学、製剤学、物理薬剤学、医療薬剤学領域の研究及びこれらの関連領域分野における研究に関して基本的な理解と最新の知識を習得する。</p> <p>(概要) 薬物動態、製剤特性など薬物治療の効果発現を支配する諸因子の解析やドラッグデリバリーシステムに関する最近の研究成果を紹介する。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療薬科学に関する最近の研究内容や動向を理解し、学んだ内容を自らの研究活動に生かす能力を身につける</li> <li>・レポート課題に対して自主的に取り組む能力を養う</li> </ul>					
<b>【授業計画と内容】</b>					
第1回～第2回 薬物動態学研究、製剤学研究の基礎と応用 第3回～第4回 トランスポータの分子生物学と薬物動態 第5回～第6回 薬物動態的解析法における最近の進歩 第7回～第8回 薬物動態予測のための情報科学的アプローチ 第9回～第10回 ドラッグデリバリーシステムにおける最新技術 第11回～第12回 タンパク質・遺伝子の細胞選択的デリバリー 第13回～第14回 ドラッグデリバリーシステムと遺伝子治療 第15回 補講と総合討論					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
必要に応じてプリントを配布する。					
<b>【参考書等】</b>					
(参考書) 講義内容に応じて指定する場合がある。					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
事前に各回の講義テーマについて基本事項をインターネット等により調べ授業に臨むこと。また、授業内容に関するレポートが課され、これに基づいて成績評価がなされるので注意すること。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 72301 SJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤薬品創製化学演習 Seminar in Basic Medicinal and Organic Chemistry		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	高須 清誠
				薬学研究科	教授	竹本 佳司
			薬学研究科	准教授	中 寛史	
			薬学研究科	准教授	瀧川 紘	
			薬学研究科	助教	南條 毅	
			薬学研究科	助教	高山 亜紀	
			薬学研究科	特定助教	黒田 悠介	
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定	
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語	
【授業の概要・目的】						
天然物の全合成と逆合成解析、不斉触媒ならびに不斉配位子の設計、不斉触媒反応と反応機構、有機金属試薬を用いた新反応、薬用植物の分子系統学的研究、植物二次代謝の生合成・遺伝子研究、医薬品開発やプロセス合成などの創薬に関する最新の知見について最近の文献を収集し、紹介する。さらにそれに基づくプレゼンテーションと討論を通じて、専門的知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。						
【到達目標】						
(1) 薬品創製化学に関する最新の知見について理解し、まとめ、考察できる。 (2) プレゼンテーションと討論を通じて、自分の意見を適確に伝えることができる。 (3) 専門的知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を習得する。 (4) 研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得する。						
【授業計画と内容】						
1～15：以下の演習を行う。 ・分子不斉に関する最新の知見について紹介し、討論する ・天然物の全合成と逆合成解析研究に関する最新の知見について紹介し、討論する ・不斉触媒分子の設計と不斉触媒反応に関する最新の知見について紹介し、討論する ・有機金属試薬を用いた新反応に関する最新の知見について紹介し、討論する ・生体分子の機能発現機構に関する最新の知見について紹介し、討論する ・薬用植物の分子系統学的研究に関する最新の知見について紹介し、討論する ・植物二次代謝の生合成・遺伝子研究に関する最新の知見について紹介し、討論する ・創薬ならびにプロセス研究に関する最新の知見について紹介し、討論する ・薬物標的の発見と医薬品の分子設計に関する最新の知見について紹介し、討論する						
【履修要件】						
特になし						
【成績評価の方法・観点】						
平常点（プレゼンテーションや討論への参加度：50点）、演習資料の作成（50点）						
【教科書】						
必要に応じてプリントを配布する。						
----- 基盤薬品創製化学演習(2)へ続く -----						

## 基盤薬品創製化学演習(2)

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

発表する内容について事前に調べ、理解し、発表資料等を準備しておく。  
また、発表内容は繰り返し練習しておく。  
演習中に理解できていない内容に関しては、独自で調べて学習しておく。

### (その他(オフィスアワー等))

コメント：薬品合成化学分野、薬品分子化学分野、薬品資源学分野の学生には必修の演習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 72302 SJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤薬品機能統御学演習 Seminar in Basic Biophysical Chemistry			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	松崎 勝巳
					薬学研究科	教授	加藤 博章
				薬学研究科	准教授	星野 大	
				薬学研究科	准教授	小川 治夫	
				薬学研究科	助教	河野 健一	
				薬学研究科	助教	山口 智子	
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、生物物理化学・構造生物学に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要） 生物物理化学・構造生物学に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
生物物理化学・構造生物学に関する最新の研究成果を理解し、それを基に新たな研究を計画する能力を習得する。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>1～15：以下の演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗菌性ペプチドに関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> <li>・アミロイド形成機構に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> <li>・受容体の可視化解析に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> <li>・NMRによる生体分子の構造解析に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> <li>・細胞外小胞に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> <li>・ATP Binding Cassette (ABC)トランスポーターに関する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> <li>・X線自由電子レーザーを用いたタンパク質結晶学に関する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> <li>・心筋型リアノジン受容体に関する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> <li>・GCase受容体に関する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</li> </ul>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
使用しない プリント							
<b>[参考書等]</b>							
<p>（参考書）</p> <p>必要に応じて単行本などを参考にする。</p>							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
<p>予習：毎回の演習前に、課題となる文献を読み、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>復習：演習時の討論結果のまとめを行い、問題点の追加調査を実施すること。</p>							
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>							
<p>コメント：薬品機能解析学分野・構造生物薬学分野の学生は必修です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>							

科目ナンバリング		G-PHA01 72303 SJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤薬品製剤設計学演習 Seminar in Molecular and Cellular Bioanalysis	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科	教授 特定准教授 助教	石濱 泰 Martin Robert 小形 公亮
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>（目的）プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、分析科学を基盤とした生体分子解析に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要）プロテオーム解析法における新技術開発や細胞内シグナル伝達に関する翻訳後修飾プロテオーム解析などに関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習の際にも説明する。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<p>プロテオミクス質量分析、プロテオミクスLC-MS、リン酸化プロテオミクス、プロテオミクス情報学およびシグナル伝達プロテオミクスに関する基本的事項を理解する。個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を習得する。</p> <p>研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力を習得する。</p> <p>研究プレゼンテーションスキルを習得する。</p>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>第1回～第6回 プロテオミクス質量分析に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロテオミクス質量分析に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ プロテオミクス質量分析に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ プロテオミクス質量分析に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第7回～第12回 プロテオミクスLC-MSに関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロテオミクスLC-MSに関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ プロテオミクスLC-MSに関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ プロテオミクスLC-MSに関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第13回～第18回 リン酸化プロテオミクスに関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リン酸化プロテオミクスに関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ リン酸化プロテオミクスに関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ リン酸化プロテオミクスに関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第19回～第24回 プロテオミクス情報学に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロテオミクス情報学に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ プロテオミクス情報学に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ プロテオミクス情報学に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第25回～第30回 シグナル伝達プロテオミクスに関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シグナル伝達プロテオミクスに関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ シグナル伝達プロテオミクスに関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ シグナル伝達プロテオミクスに関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
----- 基盤薬品製剤設計学演習(2)へ続く -----					

## 基盤薬品製剤設計学演習(2)

### [成績評価の方法・観点]

演習への出席状況(40%)、プレゼンテーション(30%)や討論の適切さ(30%)を総合的に評価する。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

メールで通知される論文について、事前に熟読し、内容を理解しておくこと。また授業中に指示された論文や討論の中で分からなかった事柄などは復習しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

コメント：生体分子計測学分野の学生には必修の演習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 72304 SJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤生体分子薬学演習 Basic Molecular Biology Seminar			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 教授 医生物学研究所 教授 医生物学研究所 教授	竹島 浩 橋口 隆生 伊藤 貴浩	
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限	その他	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
代謝生化学、細胞生理学、免疫科学、ウイルス学、Ca <sup>2+</sup> シグナル伝達に関する最新研究成果を紹介するとともに、その成果に基づく討論を行う。その実践により、生化学や微生物学に関連する基礎生物学の知識に基づき、実験データの取りまとめや解釈の方法を実践的に学習し、研究計画の立案や課題克服に向けた能力の向上を目指す。研究成果の取りまとめ、発表や討論の方法に関する注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習時に解説する。							
<b>[到達目標]</b>							
基礎生物学領域の課題解決において、適切な資料収集、論理的な考察や実践的な実験企画などを統合した研究推進能力を養う。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
第1回～第3回 代謝生化学研究法 代謝生化学領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説							
第4回～第6回 細胞生理学研究法 細胞生理学領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説							
第7回～第9回 免疫科学研究法 免疫科学領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説							
第10回～第12回 ウイルス学研究法 ウイルス学領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説							
第13回～第15回 Ca <sup>2+</sup> シグナル伝達研究法 Ca <sup>2+</sup> シグナル伝達領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
演習への出席状況、成果の紹介や討論の適切さを総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
必要に応じてプリントを配布する。							
<b>[参考書等]</b>							
(参考書) 『標準分子医化学』（医学書院） 『標準生理学』（医学書院） 『標準免疫学』（医学書院） 『標準微生物学』（医学書院）							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
各演習での資料に基づく論文検索により、着眼した課題の周辺領域も復習することにより、充実した学習効果が期待される。							
(その他（オフィスアワー等）)							
コメント：生体分子認識学分野、免疫制御学分野、ウイルス制御学分野、がん・幹細胞シグナル分野の学生には必修の演習科目です。							
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-PHA01 72306 SJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤生体情報薬学演習 Seminar in Basic Physiological Chemistry	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科	准教授 申 惠媛 特定准教授 CAMPBELL, Douglas Simon	
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>（目的）プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、生体膜の非対称性の調節や繊毛内タンパク質輸送の調節に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要）生体膜の構成と非対称性の調節機構、繊毛内タンパク質輸送やその破綻に起因する繊毛病の分子基盤に関して、最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回めの演習の際にも説明する。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
生体膜の非対称性の調節や繊毛内タンパク質輸送の調節に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力を習得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
1～15：以下の演習を行う。					
生体膜研究法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生体膜に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ 生体膜に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ 生体膜に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul>					
繊毛機能研究法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繊毛機能および繊毛病の分子基盤に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ 繊毛機能および繊毛病の分子基盤に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ 繊毛機能および繊毛病の分子基盤に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
演習への貢献度、およびプレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
必要に応じてプリントを配布する。					
<b>【参考書等】</b>					
<p>（参考書）</p> <p>中村桂子、松原謙一監訳 『細胞の分子生物学（第6版）』（ニュートンプレス）</p> <p>中山和久監訳 『プロトパー細胞生物学：細胞の基本原則を学ぶ』（化学同人）</p> <p>多賀谷光男著 『分子細胞生物学（第2版）』（朝倉書店）</p>					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
問題発見能力や問題解決能力を身につけるための基本は自学自習です。					
（その他（オフィスアワー等））					
生体情報制御学分野の学生には必修の演習科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 72307 SJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤薬品動態医療薬学演習 Basic Pharmacology and Drug Delivery Research Seminar	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科	教授 教授	山下 富義 樋口 ゆり子
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>（目的）プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、医薬品作用の分子論的機構、ドラッグデリバリーシステムの開発等に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要）薬品作用解析、安全性薬理、薬物動態学、ドラッグデリバリーシステム開発、および関連する研究分野における最新の文献を紹介し、討論する。</p>					
【到達目標】					
発表と討論を通じて、医薬品作用の分子論的機構、ドラッグデリバリーシステムの開発等に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、多様な科学的問題に対処するための問題解決能力を習得する。					
【授業計画と内容】					
<p>1～15：以下の演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・核酸医薬品の体内動態に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生理活性タンパク質の体内動態に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・遺伝子治療法に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・機能性高分子に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・遺伝子治療法に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・細胞治療法に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・バイオイメージングに関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・ケモメトリクス解析に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・薬物トランスポータに関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・薬物代謝酵素に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・臨床薬物動態に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・薬物肝毒性に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・薬物動態解析法に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・医療ビッグデータ解析に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・補講と総合討論</li> </ul>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。					
【教科書】					
必要に応じてプリントを配布する。					
【参考書等】					
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>					
----- 基盤薬品動態医療薬学演習(2)へ続く -----					

基盤薬品動態医療薬学演習(2)

必要に応じてプリントを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

プレゼンテーションに際しては、常に準備を怠らないこと。

（その他（オフィスアワー等））

コメント：薬品動態制御学分野、薬品作用解析学分野の学生には必修の演習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 72308 SJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤病態機能解析学演習 Seminar in Basic Patho-Functional Analysis			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	小野 正博
					薬学研究科	准教授	高橋 有己
			薬学研究科	准教授	白川 久志		
			薬学研究科	講師	渡邊 裕之		
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的） プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、生体機能分析学、分子イメージング学、薬物動態学、ドラッグデリバリーシステム、中枢および末梢薬理学、膜輸送タンパク質の機能解析等に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要） 生体機能解析法、インビボ画像解析、分子イメージング、遺伝子治療医薬品の体内動態やデリバリー技術、イオンチャネルやトランスポーターなどの膜輸送タンパク質の機能解析および薬効評価に関する最新の文献を紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病態機能分析学分野、病態情報薬学分野で研究を実施するために必要な最新の知見に関する知識を習得する</li> <li>・研究者として身につけておくべきプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う</li> </ul>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>1～15：以下の演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体機能の状態分析に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生体分子イメージングプローブの分子設計に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生体分子イメージング法による病態・病因に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生体分子イメージング法の医薬品開発への応用に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・脳・心機能、腫瘍などの分子イメージングに関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・臨床画像診断薬、放射性治療薬創製に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生物無機化学に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・核酸医薬品の体内動態・細胞内動態の支配因子に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・遺伝子治療、DNAワクチンの最適化に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・マクロファージ・樹状細胞における高分子薬物の取り込み機構に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・RNA干渉を利用した遺伝子機能解析及び治療への応用に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・核酸を基盤としたドラッグデリバリーに関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・薬物キャリアーを利用したターゲティングに関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・高分子医薬品の体内動態を対象とした統計解析法に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・膜輸送タンパク質を標的とする創薬に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機構に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・薬物依存など可塑的脳機能変化の分子機構に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・グリア細胞の活性化機構に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・脳血管疾患の病態・病因に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・補講と総合討論</li> </ul>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
----- 基盤病態機能解析学演習(2)へ続く -----							

## 基盤病態機能解析学演習(2)

### [成績評価の方法・観点]

演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

演習の内容に応じて指定する場合がある。

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に各回の演習テーマについて基本事項をインターネット等により調べ演習に臨むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

コメント：病態機能分析学分野、病態情報薬学分野の学生には必修の演習科目です。  
プレゼンテーションの明快さや討論にどれだけ積極的に参加したかに基づいて成績評価がなされるので注意すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-PHA01 72309 SJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤精密有機合成化学演習 Basic Organic Chemistry Seminar	担当者所属・ 職名・氏名	化学研究所 化学研究所 化学研究所	教授 助教 助教	大宮 寛久 長尾 一哲 村上 翔
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>(目的) 有機化学・合成化学・化学生物学・触媒化学などの学術分野に関する世界的一流誌の最新論文を紹介し、討論を行なう。専門的知識の習得、論理的思考の実践的訓練を最新の研究論文を題材として実施する。プレゼンテーションや討論を通じて、豊かな表現力とコミュニケーション力を身につけていく。協調性・建設的思考・俯瞰的視野を持つ自立した研究者育成を目指し、その土壌づくりを行う。</p> <p>(概要) 上記研究分野での基礎・応用研究を適宜紹介し、討論を行う。担当者はプレゼンテーションを行い、討論は全員が参加する。英語での議論も含める。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
最新の研究成果を題材に深く議論することで、これらの成果が生み出される基盤となる科学的事象・原理を見極める能力を養う。さらに、革新性や独自性の高い研究を生み出す発想を刺激することを意図した討論も行う。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>1~15:以下の演習を行う。</p> <p>ラジカルを制御する分子性触媒に関する研究の紹介と討論  イオンを制御する分子性触媒に関する研究の紹介と討論  光・電気をを用いる反応に関する研究の紹介と討論  分子イメージングに関する研究の紹介と討論  生物機能分子の合成に関する研究の紹介と討論  典型元素化学に関する研究の紹介と討論</p>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
論文内容の把握、研究の背景や展開を考察する力、資料作成の技術、プレゼンテーションや討論の適切さと熱意、議論の建設性、協調性などを総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
論文紹介用の資料					
<b>[参考書等]</b>					
<p>(参考書)</p> <p>野依良治編『大学院講義有機化学I・II』（東京化学同人）  学術論文、有機化学関連の専門書</p>					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
担当者は資料を人数分用意する。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
<p>コメント： 精密有機合成化学分野の学生には必修の演習科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング		G-PHA01 72310 SJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤生体機能化学演習 Basic Biofunctional Chemistry Seminar	担当者所属・ 職名・氏名	化学研究所 化学研究所	教授 准教授	二木 史朗 今西 未来
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>化学と生物学との境界領域における研究に関する最新の研究を整理・紹介し、問題点や話題点について討論を行う。これらの演習を通して科学的知識を深めると共に、他分野への視野を広め、科学者としての優れた素養を養う。また、論文内容や問題点等を的確に平易に解説する訓練を積むとともに、これを通してプレゼンテーション能力を高める。プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、生命科学分野、特に化学と生物学との境界領域における研究に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<p>生命科学分野、特に化学と生物学との境界領域における研究に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を習得し、研究遂行や問題解決に必要な能力を身につける。</p>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>授業計画  下記研究に関して結果の分析、プレゼンテーションとそれに基づく討論と検討を行う。1課題あたり3～6週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. タンパク質や核酸の立体構造と機能設計</li> <li>2. 生体高分子の相互作用とその集合体の構造</li> <li>3. 遺伝子発現の機構と調節</li> <li>4. 細胞内における生体分子の相互作用と応答</li> <li>5. 化学・生化学的手法による細胞機能の調節と制御</li> <li>6. 細胞内における動的分子相互作用とその可視化</li> </ol>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
演習への出席状況、問題解析力、プレゼンテーション、討論の適切さを考慮し、総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
必要に応じてプリント等を配布する。					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書) 『タンパク質の構造入門(第2版)』(ニュートンプレス) 『細胞の分子生物学(第6版)』(ニュートンプレス)					
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>					
修士課程の研究課題ならびに関連学問領域の現状や課題に関して的確に掌握しつつ受講することが求められる。					
(その他(オフィスアワー等))					
コメント：生体機能化学分野の学生には必修の演習科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-PHA01 72311 SJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤生理活性制御学演習 Basic Cell Biology Seminar	担当者所属・ 職名・氏名	生命科学研究科 教授 井垣 達史		
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>概要：遺伝学、細胞生物学、分子生物学、発生学などの知識と思考力を深めつつ、多細胞生命システムの構築・維持機構とその破綻機構に関する最近の研究について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、第1回目の演習の際に説明する。</p> <p>目的：プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、多細胞生命システムの構築・維持機構とその破綻機構に関する基礎知識と思考力を習得するとともに、その発展応用を可能にする研究能力の習得を目指す。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遺伝学、細胞生物学、分子生物学、発生学などの基本的知識と思考力を身につける</li> <li>2. 多細胞生命システムの構築・維持機構とその破綻機構に関する知識と思考力を身につける</li> <li>3. 多細胞生命システムの構築・維持機構とその破綻機構の発展応用を可能にする研究能力を身につける</li> </ol>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>1～15：以下の演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎遺伝学演習</li> <li>・発展遺伝学演習</li> <li>・基礎細胞生物学演習</li> <li>・発展細胞生物学演習</li> <li>・基礎分子生物学演習</li> <li>・発展分子生物学演習</li> <li>・基礎発生生物学演習</li> <li>・発展発生生物学演習</li> <li>・細胞内情報伝達学演習 1</li> <li>・細胞内情報伝達学演習 2</li> <li>・組織成長制御学演習</li> <li>・腫瘍学演習</li> <li>・統合生物学演習 1</li> <li>・統合生物学演習 2</li> <li>・統合生物学演習 3</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の積極性・適切さを総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
必要に応じてプリントを配布する。					
<b>[参考書等]</b>					
<p>（参考書） 特に指定しない。</p>					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
常に関連する論文等を読み、予習復習に務める。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
<p>コメント：生理活性制御学分野の学生には必修の演習科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング	G-PHA01 72312 SJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤神経機能制御学演習 Seminar in Basic Molecular Neurobiology	担当者所属・ 職名・氏名	生命科学研究所 教授 木村 郁夫		
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>（目的）様々な生体応答に関わる情報伝達機構の分子メカニズムに関する最近の文献を紹介し、その研究のデザインと趣旨について検討し、自らの研究に役立てる一方、各個人の研究の問題点と、今後の方向性について議論し、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要）生体内の情報伝達の分子メカニズムに関する最近の論文を紹介し、その研究のデザインと趣旨について、研究室のプロジェクトの方向性の点から検討する。また、各個人が研究報告を行い、研究の問題点を検討し、今後の方向性を議論する。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回めの演習の際にも説明する。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体応答に関わる情報伝達機構の分子メカニズムの最新の研究について理解し、それらの研究のデザインと趣旨について説明できる。</li> <li>2. 生体応答に関する研究論文および自分の研究や他のメンバーの研究について、それら抱える課題解決について問題点を討議し、説明できる。</li> <li>3. 自らの進めている研究のシステム生物学分野における位置づけを理解し、研究の進め方と課題解決の能力を身につけている。</li> </ol>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>修士論文の進捗状況に応じて、研究課題の設定、先行研究の情報収集とそれについての比較検討、研究方法の吟味、研究結果の解析、研究成果のプレゼンテーション、論文の執筆の検討等について個別指導を行う。各院生の研究テーマに最適化された形で実行する。</p> <p>授業計画の目安は以下ようになる。</p> <p>第1回 研究課題の設定</p> <p>第2回#12316 1 5回 先行研究の情報収集とそれについての比較検討、研究方法の吟味、研究結果の解析、研究成果のプレゼンテーション、論文の執筆の検討等について、以下の項目を中心に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体応答研究法 細胞応答に関する研究についてのプレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</li> <li>・代謝制御研究法 生体の代謝の制御に関する研究についてのプレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</li> <li>・受容体研究法 受容体に関する研究についてのプレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
----- 基盤神経機能制御学演習(2)へ続く -----					

## 基盤神経機能制御学演習(2)

### 【成績評価の方法・観点】

演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。

### 【教科書】

必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

なし

### 【授業外学修(予習・復習)等】

演習を行う前に、演習内容に関するプリントを事前に配布し、その内容を一読し、問題点等を整理しておくこと。各回、前週の演習内容で得られた知識や課題等の理解の確定のため、必ず復習を行うこと。

### (その他(オフィスアワー等))

コメント：代謝ゲノム薬学分野の学生には必修の演習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 72313 SJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤医療薬剤学演習 Seminar in Basic Clinical Pharmacy	担当者所属・ 職名・氏名	附属病院	教授	寺田 智祐
			附属病院	准教授	中川 俊作
			附属病院	講師	平 大樹
			附属病院	助教	重面 雄紀
			附属病院	助教	今吉 菜月
			附属病院	特定助教	勝部 友理恵
			薬学研究科	准教授	津田 真弘
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>（目的）医療薬剤学に関連する最新の研究動向を理解し、知識を身につける。  （概要）薬物動態に基づく効果・副作用発現機構や個体差に関する基礎・臨床研究、医療ビッグデータを用いた疫学研究、難治性疾患の新規治療法開発を目指した研究、製剤学を基盤とした吸入ドラッグデリバリーに関する研究、薬物有害事象の予防・治療法確立を目指したReverse Translational Research、医薬品適正使用および薬剤師業務評価に関する研究など医療薬剤学に関する様々な最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、医療薬剤学に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p>					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>1～15：以下の内容につき演習を行う。  ・薬物動態に基づく効果・副作用発現機構や個体差に関する基礎・臨床研究  ・医療ビッグデータを用いた疫学研究  ・難治性疾患の新規治療法開発を目指した研究  ・製剤学を基盤とした吸入ドラッグデリバリーに関する研究  ・薬物有害事象の予防・治療法確立を目指したReverse Translational Research  ・医薬品適正使用および薬剤師業務評価に関する研究</p>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
必要に応じてスライドを用いてプレゼンテーションし、概要をまとめたプリントを配布する。					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） なし					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
<p>プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習の際にも説明する。  演習前に資料の予告を行うので、各自、事前に資料に目を通し予習を行う。  演習中に指摘された事項について、発表者は指摘内容に対する回答を作成する。</p>					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
<p>コメント：医療薬剤学分野および臨床薬学教育分野の学生には必修の演習科目です。    オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング		G-PHA01 72315 SJ86					
授業科目名 <英訳>	実践創薬科学演習 Practical Drug Discovery Science Seminar			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	大野 浩章
					薬学研究科	教授	石濱 泰
			薬学研究科	助教	秋葉 宏樹		
			薬学研究科	助教	金尾 英佑		
配当学年	修士1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限	その他	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、合成化学、タンパク質工学、分析化学を基盤とした実践的な創薬科学について、関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要）タンパク質等の薬理活性物質の創出と機能解析、またプロテオーム解析法における新技術開発などに関する最新の知見を紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオ医薬品化学分野、創薬プロテオミクス分野で研究を実施するために必要な最新の知見に関する知識を習得する</li> <li>・研究者として必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得する</li> </ul>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>以下に関するプレゼンテーションならびに討論と解説を行う。</p> <p>第1回～第2回 ・バイオコンジュゲート化学に関連する領域の先端研究</p> <p>第3回～第4回 ・生体高分子化学に関連する領域の先端研究</p> <p>第5回～第6回 ・生物活性化合物の合成・創製・探索に関連する領域の先端研究</p> <p>第7回～第8回 ・バイオ医薬品分析・評価に関連する領域の先端研究</p> <p>第9回～第10回 ・分離材料科学に関連する領域の先端研究</p> <p>第11回～第12回 ・生体試料分析に関連する領域の先端研究</p> <p>第13回～第14回 ・プロテオミクスに関連する領域の先端研究</p> <p>第15回 ・データ科学に基づく創薬に関連する領域の先端研究</p>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
演習への出席状況、成果の紹介や討論の適切さを総合的に評価する。							
----- 実践創薬科学演習(2)へ続く -----							

## 実践創薬科学演習(2)

### [教科書]

必要に応じてプリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前の予習、講義内容の復習を積極的に行う。特に、関連論文等の調査によって先端研究についての理解を深めること。

### (その他(オフィスアワー等))

バイオ医薬品化学分野、創薬プロテオミクス分野の学生には必修の演習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 72316 SJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤創発医薬科学演習 Seminar in Medicinal Frontier Sciences		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	大野 浩章
				薬学研究科	教授	土居 雅夫
			薬学研究科	教授	掛谷 秀昭	
			薬学研究科	准教授	平澤 明	
			化学研究所	教授	緒方 博之	
			化学研究所	教授	馬見塚 拓	
			化学研究所	教授	上杉 志成	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定	
曜時限	その他	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語	
【授業の概要・目的】						
<p>（目的）プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピーに関連する知識や個々のデータの解釈法や論に理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得を目指す。</p> <p>（概要）薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピーに関する最新の知見を紹介すると共に、それに基づく討論を行う。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピー分野で研究を実施するために必要な最新の知見に関する知識を習得する。</li> <li>・研究者として必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。</li> </ul>						
【授業計画と内容】						
1～15：所属分野に応じて、以下の演習を行う。						
<p>【薬理ゲノミクス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Gタンパク質共役受容体のゲノム機能科学に基づくリガンド探索研究</li> <li>・受容体の分子レベルからin vivo機能までのシミュレーションモデル構築</li> <li>・脂肪酸受容体を標的とした代謝疾患に対する新たな薬物治療法の確立</li> <li>・網羅的発現解析を中心とするマルチオミクス解析による創薬基盤研究</li> </ul> <p>【創薬有機化学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物活性化合物の合成と創薬展開</li> <li>・複雑な化学構造を一挙に構築するための新反応の開発</li> <li>・生体関連分子の合成と構造展開を基盤とする機能性分子の創製と応用</li> <li>・化合物ライブラリーの構築と医薬品候補化合物探索</li> </ul> <p>【システムバイオロジー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間医薬科学の創成を目指した先端的システムバイオロジー研究</li> <li>・体内時計を基盤とした老化・加齢の時間治療戦略の開発</li> <li>・G蛋白質共役受容体による睡眠・代謝・環境適応の脳内基盤の解明</li> <li>・生体リズム異常による生活習慣病の解明とヒトへの臨床応用</li> <li>・化合物ライブラリー網羅探索に基づく生体リズム調整薬の創出</li> </ul> <p>【システムケモセラピー（制御分子学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多因子疾患（がん、心疾患、感染症、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等）に対する次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究</li> <li>・創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学</li> <li>・ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究およびメディシナルケミストリー研究</li> <li>・有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究（コンビナトリアル生合成研究等）</li> </ul>						
----- 基盤創発医薬科学演習(2)へ続く -----						

## 基盤創発医薬科学演習(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

演習への出席状況、問題解析力、プレゼンテーションや討論の適切さを考慮し、総合的に評価する。

### [教科書]

各分野の指示に従うこと。

### [参考書等]

(参考書)

各分野の指示に従うこと。

### [授業外学修(予習・復習)等]

関連する論文などで事前の予習・復習を積極的に行う。

各分野の指示に従うこと。

### (その他(オフィスアワー等))

薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピー(制御分子学)、統合ゲノミクス、分子設計情報、ケミカルバイオロジー分野の学生には必修の演習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 72314 SJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤薬科学特別演習 Special Research Seminar in Basic Pharmaceutical Sciences	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	薬科学専攻教員	
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期不定
曜時限		授業形態	特別演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>研究者に必須となるコミュニケーション力、すなわち、構成が論理的で主張が効果的に伝わる説得力のある研究発表を行う能力、および、発表に対する質疑応答を行い、発表内容の深い相互理解と研究の進展に対する建設的な提案を行う能力の習得を目的とする。そのために、他の学生の研究発表を聴いてその内容を適確に捉えてわかりやすくまとめて解説することを通じて、自らの研究内容における「問い」の設定やプレゼンテーション組み立てにフィードバックする。その上で、研究発表を行うための準備と実際のプレゼンテーションの実施、研究発表の準備段階や研究発表会における質問への対応、および発表への質疑応答を主体的に行う。そして、発表会において研究発表を聴講して、その研究の意義や特徴を解説するとともに、それに対する自分の疑問や意見あるいは別の考え方や新たなアイデアなどを論議記述した報告書を提出する（修士1回生）。さらに、自らの研究内容について設定課題の科学的意義、問題解決のための独創的アイデア、および、研究によって新たに発見した内容について、発表会において実際のプレゼンテーションを行う（修士2回生）。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
説得力のある研究発表を行うために必要な、調査研究、発表内容作成、発表技術、発表に対する質疑応答の能力を養う。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>1～15：以下の特別演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文発表会の聴講</li> <li>・修士論文発表会における研究発表に関する報告書の作成</li> <li>・修士論文発表会における発表の準備</li> <li>・修士論文発表の練習会における質疑応答</li> <li>・修士論文発表会におけるプレゼンテーション</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
発表会とその準備練習会への出席（40%）および質疑応答への参加による発表会充実への貢献度（20%）、提出された報告書における発表内容理解と意見表明の論理的適切さ、および発表会での発表内容の科学的意義と疑問解明への貢献度（40%）をもとに総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
使用しない					
<b>[参考書等]</b>					
（参考書） 授業中に紹介する					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
発表会の要旨を読み、内容について予習を行うとともに、討論へ向けた準備を行っておくこと。終了後は、発表と質疑から学んだことを踏まえ、報告書作成あるいは修士論文修正に向けた調査と復習を行うこと。					
（その他（オフィスアワー等））					
履修に関しては各指導教員の指示に従うこと。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 73201 EJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤薬品創製化学実験 Research in Basic Medicinal and Organic Chemistry	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	高須 清誠
			薬学研究科	教授	竹本 佳司
			薬学研究科	准教授	中 寛史
			薬学研究科	准教授	瀧川 紘
			薬学研究科	助教	南條 毅
			薬学研究科	助教	高山 亜紀
			薬学研究科	特定助教	黒田 悠介
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
触媒的不斉合成反応と高次構造制御によるナノケミストリーに関する基礎研究、生物活性化合物や疑生体高分子の合理的設計と実践的な合成法の開発研究、医薬品開発に関する基礎研究、生薬ならびに薬用植物の生理活性と生合成などに関する応用研究を行う。また、研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、文献検索や調査、研究計画の立案、専門実験技術、データ整理と解析方法などを習得しながら、総合的な問題解決能力を養う。					
<b>[到達目標]</b>					
(1) 薬品創製化学に関する専門研究の内容と目的を理解する。 (2) 研究倫理と生命倫理を遵守して、実験を遂行する能力を養う。 (3) 専門研究に関する文献検索や調査、研究計画の立案、専門実験技術、データ整理と解析方法を習得する。 (4) 専門研究に関する課題を解決するために、継続的に研究に取り組む能力を養う。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
1～15：以下の実験を行う。 ・ 結合形成反応や環構築反応など高度分子変換法の開発に関する実験 ・ 不斉触媒反応に関する実験 ・ 遷移金属触媒を活用した触媒反応に関する実験 ・ キラルな人工触媒分子の創製に関する実験 ・ 天然有機化合物の全合成研究に関する実験 ・ ペプチド・蛋白質・糖鎖・核酸など生体高分子の化学合成に関する実験 ・ 酵素阻害剤、受容体リガンドなど生体機能制御分子の創製に関する実験 ・ 薬用植物の二次代謝機能解析と多様性に関する実験 ・ 天然薬物資源の探索と評価に関する実験					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
普段の研究に取り組む姿勢や態度など平常点、研究レポートや研究報告会での発言と発表の内容					
<b>[教科書]</b>					
使用しない					
<b>[参考書等]</b>					
（参考書） 必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
常に自ら調べ、考え、行動すること					
（その他（オフィスアワー等））					
コメント：薬品合成化学分野、薬品分子化学分野、薬品資源学分野の学生には必修の実験科目です。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 73202 EJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤薬品機能統御学実験 Research in Basic Biophysical Chemistry		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	松崎	勝巳
				薬学研究科	教授	加藤	博章
				薬学研究科	准教授	星野	大
				薬学研究科	准教授	小川	治夫
				薬学研究科	助教	河野	健一
				薬学研究科	助教	山口	智子
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）研究室で行う実験を通して、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>（概要）生物物理化学・構造生物学に関する研究を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
生物物理化学・構造生物学における最先端の研究を実施する能力、すなわち、研究成果の評価、研究計画の立案、最新実験の再現と新規実験技術の開発、データ解析、問題解決などの技能を習得する。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>1～15：以下の実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開に関する研究</li> <li>・膜を介したアミロイド形成機構に関する研究</li> <li>・膜タンパク質の可溶化に関する研究</li> <li>・受容体の可視化解析に関する研究</li> <li>・NMRによる生体分子の構造解析に関する研究</li> <li>・細胞外小胞に関する研究</li> <li>・ABCトランスポーターメカニズムの構造基盤の解明と創薬への応用に関する研究</li> <li>・X線自由電子レーザーを用いたタンパク質結晶学に関する研究</li> <li>・心筋型リアノジン受容体の開口メカニズムの構造基盤の解明と創薬への応用に関する研究</li> <li>・GCase受容体の信号伝達メカニズムの構造基盤の解明と創薬への応用に関する研究</li> </ul>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
使用しない							
<b>[参考書等]</b>							
<p>（参考書）</p> <p>必要に応じて科学論文、総説、単行本などを参考にする。</p>							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
<p>予習：指定された書籍および文献を読み、不明な点の調査と疑問点の整理を行う。</p> <p>復習：実験内容記録の解析と確認を実施する。</p>							
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>							
<p>コメント：薬品機能解析学分野・構造生物薬学分野の学生は必修です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>							

科目ナンバリング	G-PHA01 73203 EJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤薬品製剤設計学実験 Research in Molecular and Cellular Bioanalysis	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科	教授 特定准教授 助教	石濱 泰 Martin Robert 小形 公亮
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>（目的）研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>（概要）質量分析、微量分離分析、情報学等を駆使してプロテオーム解析の新規技術開発を行うとともに、プロテオミクスの創薬や細胞機能解析への応用研究を行う。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
プロテオーム解析新規技術開発、プロテオミクス創薬および細部機能解析を通じて、研究に対する考え方、取り組み方を学び、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力を習得する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>以下の課題について、1課題あたり2-3週の授業を行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロテオミクスLC-MSにおける新規分離系の開発に関する研究</li> <li>・ショットガンプロテオミクスによるゲノム構造の再アノテーションに関する研究</li> <li>・リン酸化プロテオミクスにおける新規リン酸化ペプチド濃縮法の開発に関する研究</li> <li>・リン酸化プロテオミクスを用いた細胞内シグナル伝達ネットワーク解析に関する研究</li> <li>・リジンアセチル化修飾プロテオミクスの新規解析法開発および機能解析に関する研究</li> <li>・プロテオーム一斉分析系の創薬への応用に関する研究</li> <li>・リン酸化プロテオーム解析の創薬への応用に関する研究</li> <li>・プロテオーム解析の細胞生物学への応用に関する研究</li> <li>・プロテオミクスLCに関する研究</li> <li>・プロテオミクス質量分析を用いた新規定量システムの開発に関する研究</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
研究に取り組む姿勢・態度(80%)および得られた成果(20%)を評価する。					
<b>[教科書]</b>					
授業中に指示する					
<b>[参考書等]</b>					
<p>（参考書）</p> <p>授業中に紹介する</p>					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
一日の実験の後には、行った内容をもう一度確認し、実験ノートへの記載もれがないようにすること。また、実験を始める前には、必ず対照試料が適切であるか、繰り返し回数が十分であることを確認すること。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
コメント：生体分子計測学分野の学生には必修の実験科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 73204 EJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤生体分子薬学実験 Research in Basic Molecular Biology		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 教授 医生物学研究所 教授 医生物学研究所 教授	竹島 浩 橋口 隆生 伊藤 貴浩		
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限	その他	授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
所属研究室で行う細胞機能を担う分子群のタンパク化学や生理機能に関する解析研究を通じて、実験に対する考え方、実験の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの実践的習得を目指す。							
<b>[到達目標]</b>							
生化学や細胞生理学における基本的な実験の担当能力を養う。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
1～15：以下の実験を行う。 ・小胞体Ca <sup>2+</sup> 放出に関する研究 ・筋細胞の収縮機能に関する研究 ・細胞膜修復に関する研究 ・免疫細胞の機能応答に関する研究 ・ウイルス増殖機構に関する研究 ・インターフェロンに関する研究							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
研究成果のみならず、研究室での実験に取り組む姿勢などを総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
使用しない							
<b>[参考書等]</b>							
（参考書） 『標準分子医化学』（医学書院） 『標準生理学』（医学書院） 『標準免疫学』（医学書院） 『標準微生物学』（医学書院） さらに必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
学習する各実験手法を用いて解明された生物学現象を論文検索により復習することにより、研究企画能力の向上も期待される。							
（その他（オフィスアワー等））							
コメント：生体分子認識学分野、免疫制御学分野、ウイルス制御学分野、がん・幹細胞シグナル分野の学生には必修の実験科目です。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング	G-PHA01 73206 EJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤生体情報薬学実験 Research in Basic Physiological Chemistry	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科	准教授 申 惠媛 特定准教授 CAMPBELL, Douglas Simon	
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>（目的）研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>（概要）生体膜の非対称性の調節、繊毛内タンパク質輸送や繊毛機能の調節機構に関する研究を行う。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などを身につける。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>1～15：以下の実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体膜に非対称性と輸送小胞の形成に関する研究</li> <li>・生体膜に非対称性と細胞運動に関する研究</li> <li>・生体膜に非対称性を生み出すP4-ATPaseの機能に関する研究</li> <li>・繊毛内タンパク質輸送に関与する巨大タンパク質複合体の構築様式と機能に関する研究</li> <li>・繊毛内タンパク質輸送に関与するモータータンパク質の構築様式と役割に関する研究</li> <li>・繊毛病の分子基盤に関する研究</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
使用しない					
<b>[参考書等]</b>					
<p>（参考書）</p> <p>中村桂子、松原謙一監訳 『細胞の分子生物学（第6版）』（ニュートンプレス）</p> <p>多賀谷光男 『分子細胞生物学（第2版）』（朝倉書店）</p> <p>中山和久監訳 『プロトパー細胞生物学：細胞の基本原則を学ぶ』（化学同人）</p> <p>その他、必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。</p>					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
問題発見能力や問題解決能力を身につけるための基本は自学自習です。実験には積極的に取り組みましょう。					
（その他（オフィスアワー等））					
生体情報制御学分野の学生には必修の実験科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 73207 EJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤薬品動態医療薬学実験 Research in Basic Pharmacology and Drug Delivery	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科	教授 教授	山下 富義 樋口 ゆり子
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>（目的）先端的な薬品動態制御学，薬品作用解析学に関する研究の遂行を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>（概要）核酸医薬品，タンパク質医薬品，細胞医薬品などのドラッグデリバリーシステムの開発，評価，および体内動態・安全性薬理に関する研究を実施する。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
薬品動態制御学，薬品作用解析学に関する研究を遂行し、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などを習得する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>1～15：以下の実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・核酸医薬品のデリバリーシステムの開発，評価に関する実験</li> <li>・生理活性タンパク質のデリバリーシステムの開発，評価に関する実験</li> <li>・細胞治療法の開発，評価に関する実験</li> <li>・バイオイメーキング技術の開発，評価に関する実験</li> <li>・高分子プロドラッグの開発，評価に関する実験</li> <li>・DDS素材としての機能性分子・粒子の創製に関する実験</li> <li>・ドラッグデリバリーのためのMEMSの開発，評価に関する実験</li> <li>・体内・細胞内動態評価のための新規実験法開発</li> <li>・薬物動態シミュレーション，予測法の開発に関する実験</li> <li>・臨床薬物動態解析に関する実験</li> <li>・MEMS技術を用いた薬物動態・安全性評価に関する実験</li> <li>・薬物トランスポーターの機能評価に関する実験</li> <li>・医療ビッグデータ解析に関する実験</li> <li>・抗がん剤副作用のメカニズムに関する実験</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
研究の立案，遂行能力および態度を総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
使用しない 必要な資料、情報は随時提供する。疑問に思ったこと、指導を仰ぎたいことがあれば、遠慮することなく連絡を取ること。					
<b>[参考書等]</b>					
（参考書） 適宜、原著論文、総説、書物を利用する。					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
研究遂行に必要な学習、事前調査を常に怠らないことが重要である。					
（その他（オフィスアワー等））					
コメント：薬品動態制御学分野、薬品作用解析学分野の学生には必須の実験科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 73208 EJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤病態機能解析学実験 Research in Basic Pharmacodynamic Sciences			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	小野 正博
					薬学研究科	准教授	高橋 有己
			薬学研究科	准教授	白川 久志		
			薬学研究科	講師	渡邊 裕之		
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>							
<p>（目的） 実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>（概要） 分子イメージングによる生体機能の状態分析とそれによる病態及び薬物相互作用機構の解明、病態の特性に基づく機能性核医学診断、治療薬剤の創製、生理活性金属化合物の生体に対する作用の解明に関する研究を行う。また、遺伝子治療やDNAワクチン療法に応用される各種核酸医薬品の体内動態プロセスとその支配機構に関して生物薬剤学的、薬物速度論的研究を行う。さらにイオンチャネルやトランスポーターなどの膜輸送タンパク質の機能解析および薬効評価に関する研究を行う。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病態機能分析学分野、病態情報薬学分野、生体機能解析学分野で研究を実施するために必要な基本的実験技術を習得する</li> <li>・実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</li> </ul>							
<b>【授業計画と内容】</b>							
<p>1～15：以下の実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体機能の状態分析に関する実験</li> <li>・生体分子イメージングプローブの分子設計に関する実験</li> <li>・生体分子イメージング法による病態・病因および薬物相互作用機構の解明に関する実験</li> <li>・生体分子イメージング法の医薬品開発への応用に関する実験</li> <li>・脳・心機能、腫瘍などの分子イメージングに関する実験</li> <li>・臨床画像診断薬、放射性治療薬創製に関する実験</li> <li>・生物無機化学に関する実験</li> <li>・核酸医薬品の体内動態・細胞内動態の支配因子に関する実験</li> <li>・遺伝子治療、DNAワクチンの最適化に関する実験</li> <li>・マクロファージ・樹状細胞における高分子薬物の取り込み機構に関する実験</li> <li>・RNA干渉を利用した遺伝子機能解析及び治療への応用に関する実験</li> <li>・核酸を基盤としたドラッグデリバリーに関する実験</li> <li>・薬物キャリアーを利用したターゲティングに関する実験</li> <li>・高分子医薬品の体内動態を対象とした統計解析法に関する実験</li> <li>・膜輸送タンパク質の創薬研究における電気生理学的測定に関する実験</li> <li>・痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機構に関する実験</li> <li>・薬物依存など可塑的脳機能変化の分子機構に関する実験</li> <li>・グリア細胞の活性化機構に関する実験</li> <li>・脳血管疾患の病態・病因の解析に関する実験</li> </ul>							
<b>【履修要件】</b>							
特になし							
----- 基盤病態機能解析学実験(2)へ続く -----							

## 基盤病態機能解析学実験(2)

### [成績評価の方法・観点]

普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。

### [授業外学修(予習・復習)等]

・実験を開始する前に十分な事前準備を行うこと。また、実験終了後は速やかに実験結果の整理・解析をすると共に十分な考察をして、次の実験計画を立てること。

### (その他(オフィスアワー等))

コメント：病態機能分析学分野、病態情報薬学分野、生体機能解析学分野の学生には必修の実験科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 73209 EJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤精密有機合成化学実験 Research in Basic Fine Organic Synthesis	担当者所属・ 職名・氏名	化学研究所 化学研究所 化学研究所	教授 助教 助教	大宮 寛久 長尾 一哲 村上 翔	
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定	
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語	
<b>【授業の概要・目的】</b>						
<p>(目的) 新触媒・新反応・新機能を有機化学的な研究手法で創りだし、創薬・生命科学研究の未来を切り拓くことを目標とする。入手容易な炭素資源から高い付加価値をもつ有機分子を最短工程で組み上げていく有機合成プロセスの開発に貢献するとともに、我々が手にできる有機分子の多様性・複雑性を大きく拡大していく。</p> <p>(概要) ラジカルやイオンを制御する分子性触媒の創製、光エネルギーを活用した炭素資源変換、創薬に資する生物機能分子の化学修飾技術、有機ホウ素化合物の新機能開拓と分子変換反応への応用に関する研究を行う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)新しい有機合成反応の設計・合成。  (2)新しい機能分子の設計・合成。  (3)新しい分子性触媒の設計・合成。  (4)標的分子の合成法の考案および実験による合成、  (5)合成化合物の構造解析と物性解析。  (6)触媒機能の評価と触媒特性の改良。  (7)機能分子の評価と機能特性の改良。</p>						
<b>【授業計画と内容】</b>						
<p>1~15:以下の実験を行う。  N-ヘテロ環カルベン触媒によるラジカル反応に関する実験  光酸化還元触媒反応に関する実験  電気化学反応に関する実験  生体機能分子の化学修飾反応に関する実験  ホウ素の新機能に基づく分子プローブ技術に関する実験  還元的極性転換反応に関する実験</p>						
<b>【履修要件】</b>						
特になし						
<b>【成績評価の方法・観点】</b>						
研究に取り組む姿勢、セミナーでの発表や討議、学会発表、論文発表などを総合的に評価する。						
<b>【教科書】</b>						
使用しない						
<b>【参考書等】</b>						
<p>(参考書)  学術論文、総説、教科書、SciFinderなどによる情報検索など。</p>						
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>						
実験法や反応剤、反応条件等をSciFinderや実験書などで十分に調査、吟味しておく。						
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>						
<p>コメント：精密有機合成化学分野の学生には必修の実験科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>						

科目ナンバリング	G-PHA01 73210 EJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤生体機能化学実験 Research in Basic Biofunctional Chemistry	担当者所属・ 職名・氏名	化学研究所 化学研究所	教授 准教授	二木 史朗 今西 未来
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
細胞内への物質の取り込み、細胞膜を介する情報伝達、遺伝子の認識と転写といった生体機能を制御する生理活性分子の機能解明・機能創出を目的とした化学的、分子生物学的、細胞生化学的研究を行う。					
<b>[到達目標]</b>					
生体機能を制御する生理活性分子の機能解明・機能創出を目的とした化学的、分子生物学的、細胞生化学的研究のための実験技術と結果の解析能力を身につける。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
下記のそれぞれの課題あたり4～6週の授業をする予定である。					
細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製 細胞膜透過性ペプチドの機能設計と評価 細胞内ターゲティング（核・ミトコンドリアなど）の化学と分子設計 細胞膜上の膜蛋白質の動的相互作用解析のための新手法の開発 環境応答型機能性ペプチドのデザイン					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
実験への出席、実験内容の立案と計画、実験結果とその解析などの状況や適切さをみて総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
使用しない					
<b>[参考書等]</b>					
（参考書） 『タンパク質の構造入門（第2版）』（ニュートンプレス） 『細胞の分子生物学（第6版）』（ニュートンプレス）					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
修士課程の研究課題ならびに関連学問領域の現状や課題に関して的確に掌握しつつ受講することが求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
コメント：生体機能化学分野の学生には必修の実験科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-PHA01 73211 EJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤生理活性制御学実験 Research in Basic Cell Biology	担当者所属・ 職名・氏名	生命科学研究科 教授 井垣 達史		
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>概要：遺伝学、細胞生物学、分子生物学、発生学などの基本および発展的な実験技術と思考力に基づき、細胞間コミュニケーションの原理の解析を通じて、多細胞生命システムの構築・維持機構とその破綻機構の包括的理解に迫る。</p> <p>目的：多細胞生命システムの構築・維持機構とその破綻機構の包括的理解に迫るための実験技術および思考力を習得するとともに、これを応用・発展させて新たな生命原理を見いだす研究能力の習得を目指す。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．遺伝学、細胞生物学、分子生物学、発生学などの基本および発展的な実験技術と思考力を身につける</li> <li>2．多細胞生命システムの構築・維持機構とその破綻機構の包括的理解に迫るための実験技術および思考力を身につける</li> <li>3．新たな生命原理を見いだす研究能力を身につける</li> </ol>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>1～15：以下の実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎遺伝学実験</li> <li>・発展遺伝学実験</li> <li>・基礎細胞生物学実験</li> <li>・発展細胞生物学実験</li> <li>・基礎分子生物学実験</li> <li>・発展分子生物学実験</li> <li>・基礎発生生物学実験</li> <li>・発展発生生物学実験</li> <li>・細胞内情報伝達学実験 1</li> <li>・細胞内情報伝達学実験 2</li> <li>・組織成長制御学実験</li> <li>・腫瘍学実験</li> <li>・統合生物学実験 1</li> <li>・統合生物学実験 2</li> <li>・統合生物学実験 3</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
普段の研究に取り組む姿勢・態度などを総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
特に指定しない。					
<b>[参考書等]</b>					
<p>（参考書）</p> <p>特に指定しない。</p>					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
常に研究を発展させるための努力を行う。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
<p>コメント：生理活性制御学分野の学生には必修の実験科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング	G-PHA01 73212 EJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤神経機能制御学実験 Research in Basic Molecular Neurobiology	担当者所属・ 職名・氏名	生命科学研究所 教授 木村 郁夫		
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>（目的）様々な生体応答に関わる情報伝達機構の分子メカニズムの解明の研究を通じて、高次生命体の応答制御の基本原則を理解し、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>（概要）生体における様々な応答に関する研究テーマを各自設定し、それに対応する実験計画を綿密に立て、創意工夫を重ねて研究を行う。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体応答の分子メカニズムに関する研究のための実験技術を習得し、身につける。</li> <li>2. 生体応答の分子メカニズムに関する研究の計画の立案方法を身につける。</li> <li>3. 生体応答の分子メカニズムに関する研究で得られた実験データの整理の方法を身につけ、それにより明らかとなった問題を解決し、次の実験計画を立てられる。</li> </ol>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>1～15：以下の実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体応答の分子機構に関する研究</li> <li>・代謝制御の分子機構に関する研究</li> <li>・受容体に関する研究</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
使用しない					
<b>[参考書等]</b>					
<p>（参考書） なし</p>					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
<p>生体応答の分子メカニズムに関する研究の実験手法等について、あらかじめそれらの内容を確認し、疑問点等を整理しておくこと。また、毎回、前回の実習内容から習得に課題として残された点をリストアップし、確実に習得できるよう必ず復習を行うこと。</p>					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
<p>コメント：代謝ゲノム薬学分野の学生には必修の実験科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング		G-PHA01 73213 EJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤医療薬剤学実験 Research in Basic Clinical Pharmacy		担当者所属・ 職名・氏名	附属病院	教授	寺田 智祐
				附属病院	准教授	中川 俊作
				附属病院	講師	平 大樹
				附属病院	助教	重面 雄紀
				附属病院	助教	今吉 菜月
				附属病院	特定助教	勝部 友理恵
				薬学研究科	准教授	津田 真弘
配当学年	修士1,2回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定	
曜時限		授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語	
<b>[授業の概要・目的]</b>						
<p>（目的）研究室で行う実験を通じて、医療薬剤学に関する研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>（概要）薬物動態に基づく効果・副作用発現機構や個体差に関する基礎・臨床研究、医療ビッグデータを用いた疫学研究、難治性疾患の新規治療法開発を目指した研究、製剤学を基盤とした吸入ドラッグデリバリーに関する研究、薬物有害事象の予防・治療法確立を目指したReverse Translational Research、医薬品適正使用および薬剤師業務評価に関する研究を行う。</p>						
<b>[到達目標]</b>						
医療薬剤学に関する基礎研究および臨床研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得できる。						
<b>[授業計画と内容]</b>						
<p>1～15：以下の内容に関する実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物動態に基づく効果・副作用発現機構や個体差に関する基礎・臨床研究</li> <li>医療ビッグデータを用いた疫学研究</li> <li>難治性疾患の新規治療法開発を目指した研究</li> <li>製剤学を基盤とした吸入ドラッグデリバリーに関する研究</li> <li>薬物有害事象の予防・治療法確立を目指したReverse Translational Research</li> <li>医薬品適正使用および薬剤師業務評価に関する研究</li> </ul>						
<b>[履修要件]</b>						
特になし						
<b>[成績評価の方法・観点]</b>						
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。						
<b>[教科書]</b>						
使用しない						
<b>[参考書等]</b>						
<p>（参考書）</p> <p>必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。</p>						
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>						
<p>自身の与えられたテーマに関連する論文等にはくまなく目を通し、最新の研究について把握すること。</p> <p>また、自身のテーマの研究方針や結果の整理、解釈等、担当教員と随時、綿密に討論すること。</p>						
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>						
<p>コメント：医療薬剤学分野および臨床薬学教育分野の学生には必修の実験科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>						

科目ナンバリング		G-PHA01 73214 EJ86					
授業科目名 <英訳>	実践創薬科学実験 Research in Practical Drug Discovery Science			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	大野 浩章
					薬学研究科	教授	石濱 泰
				薬学研究科	助教	秋葉 宏樹	
				薬学研究科	助教	金尾 英佑	
配当学年	修士1,2回生		単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定	
曜時限	その他	授業形態	実験（対面授業科目）		使用言語	日本語	
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）バイオ医薬品化学分野、創薬プロテオミクス分野での実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案、実験技術、データ整理と解析の方法、問題解決能力などの習得を目指す。</p> <p>（概要）タンパク質工学や合成化学の利用による新規薬理活性分子の創出とその機構解析に関する研究を行う。また、ナノ・マイクロ科学を利用した創薬標的探索技術に関する研究を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオ医薬品化学分野、創薬プロテオミクス分野で研究を行うために必要な実験技術を習得する。</li> <li>・研究成果の評価法、研究計画の立案方法、データ整理の方法、問題解決の方法等を習得する。</li> </ul>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>1～15：以下の研究に関する実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗体等医薬品候補物質の創出と探索に関する研究</li> <li>・抗体等医薬品候補物質の薬理作用創出機構に関する研究</li> <li>・タンパク質デザインによる機能改変に関する研究</li> <li>・タンパク質への低分子・高分子化合物コンジュゲート作製による機能創出に関する研究</li> <li>・プロテオミクス解析による創薬標的探索に関する研究</li> <li>・臨床データに基づいたプロテオミクス解析に関する研究</li> <li>・ナノ材料を利用した分離材料の開発に関する研究</li> <li>・マイクロ科学を利用した創薬標的探索技術に関する研究</li> </ul>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
使用しない							
<b>[参考書等]</b>							
<p>（参考書）</p> <p>必要に応じて科学論文、総説などを参考にする。</p>							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
<p>事前に研究遂行に必要な文献等を調査し、手順を明確にしてから実験を行う。また、終了後には実験結果の整理・解析をすると共に、次の実験に必要な項目を考察すること。</p>							
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>							
<p>バイオ医薬品化学分野、創薬プロテオミクス分野の学生には必修の実験科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>							

科目ナンバリング		G-PHA01 73215 EJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤創発医薬科学実験 Research in Medicinal Frontier Sciences		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科 化学研究所 化学研究所 化学研究所	教授 教授 教授 准教授 教授 教授 教授 大野 浩章 土居 雅夫 掛谷 秀昭 平澤 明 緒方 博之 馬見塚 拓 上杉 志成
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	実験（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>（目的）所属研究室で行う研究を通じて、研究に関する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得を目指す。</p> <p>（概要）薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピーに関する研究を行う。</p>					
【到達目標】					
<p>・薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピー分野で研究を実施するために必要な基本的実験技術を習得する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>1～15：所属分野に応じて、以下の実験を行う。</p> <p>【薬理ゲノミクス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Gタンパク質共役受容体のゲノム機能科学に基づくリガンド探索研究</li> <li>・受容体の分子レベルからin vivo機能までのシミュレーションモデル構築</li> <li>・脂肪酸受容体を標的とした代謝疾患に対する新たな薬物治療法の確立</li> </ul> <p>網羅的発現解析を中心とするマルチオミクス解析による創薬基盤研究</p> <p>【創薬有機化学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物活性化合物の合成の合成と創薬展開</li> <li>・複雑な化学構造を一挙に構築するための新反応の開発</li> <li>・生体関連分子の合成と構造展開を基盤とする機能性分子の創製と応用</li> <li>・化合物ライブラリーの構築と医薬品候補化合物探索</li> </ul> <p>【システムバイオロジー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間医薬科学の創成を目指した先端的システムバイオロジー研究</li> <li>・体内時計を基盤とした老化・加齢の時間治療戦略の開発</li> <li>・G蛋白質共役受容体による睡眠・代謝・環境適応の脳内基盤の解明</li> <li>・生体リズム異常による生活習慣病の解明とヒトへの臨床応用</li> <li>・化合物ライブラリー網羅探索に基づく生体リズム調整薬の創出</li> </ul> <p>【システムケモセラピー（制御分子学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多因子疾患（がん、心疾患、感染症、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等）に対する次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究</li> <li>・創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学</li> <li>・ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究およびメディシナルケミストリー研究</li> <li>・有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究（コンビナトリアル生合成研究等）</li> </ul>					
----- 基盤創発医薬科学実験(2)へ続く -----					

## 基盤創発医薬科学実験(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。

### [教科書]

各分野の指示に従うこと。

### [参考書等]

(参考書)

各分野の指示に従うこと。

### [授業外学修(予習・復習)等]

実験を開始する前に十分な事前準備を行い、終了後には実験結果の整理・解析をすると共に、次の実験に必要な項目を考察すること。 各分野の指示に従うこと。

### (その他(オフィスアワー等))

薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピー(制御分子学)、統合ゲノミクス、分子設計情報、ケミカルバイオロジー分野の学生には必修の実験科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 74201 PJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤薬品創製化学実習 Laboratory Practice in Basic Medicinal and Organic Chemistry	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	高須 清誠
			薬学研究科	教授	竹本 佳司
			薬学研究科	准教授	中 寛史
			薬学研究科	准教授	瀧川 紘
			薬学研究科	助教	南條 毅
			薬学研究科	助教	高山 亜紀
			薬学研究科	特定助教	黒田 悠介
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
薬学部学生に対する薬学専門実習2における有機合成化学、医薬品化学、ペプチド・蛋白質化学、薬品資源学に関連する実習内容を理解し、実験項目と実験計画の立案、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。それにより薬学専門実習の基礎的な実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。					
<b>[到達目標]</b>					
(1) 薬品創製化学に関連する実習内容を理解し、実験項目と実験計画の立案ができる。					
(2) 薬学専門実習に関する実験の指導ができる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
1～15：以下の実習を行う。					
< 実験項目と実験計画の立案 >					
・ 有機合成化学、医薬品化学、ペプチド・蛋白質化学、薬品資源学に関連する実習内容の立案と実験計画					
< 予習と予備実験 >					
・ 有機合成化学、医薬品化学、ペプチド・蛋白質化学、薬品資源学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験					
< 実習指導 >					
・ 芳香族化合物の官能基変換反応および環化反応の実験					
・ テオフィリン、フェニトインの合成実験					
・ アミノ酸からアスパルテームの合成実験					
・ シクロスポリンのビオチン化とシクロフィリンの同定実験					
・ 紫雲膏の調製、薬用植物の探索、生薬の鑑別実験					
< 実習成果発表と総合討論 >					
・ 有機合成化学、医薬品化学、ペプチド・蛋白質化学、薬品資源学に関連する実習成果の発表と総合討論					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
実習項目と実習計画の立案、予習と予備実験、実習指導などの平常点					
<b>[教科書]</b>					
薬学専門実習書					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書)					
必要に応じてプリントを配布する。					
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>					
実習開始前の予習と予備実験を行う					
(その他(オフィスアワー等))					
コメント：薬品合成化学分野、薬品分子化学分野、薬品資源学分野の学生には必修の実習科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 74202 PJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤薬品機能統御学実習 Laboratory Practice in Basic Analytical Chemistry and Structural Biology		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	松崎	勝巳
				薬学研究科	教授	加藤	博章
				薬学研究科	准教授	星野	大
				薬学研究科	准教授	小川	治夫
				薬学研究科	助教	河野	健一
				薬学研究科	助教	山口	智子
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）物理化学、構造生物学に関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>（概要）薬学部学生に対する薬学専門実習1における物理化学、構造生物学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
物理化学、構造生物学に関連する基礎的実験について、適切な実験計画の立案ならびにその遂行が行えるようになる。実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導が行えるようになる。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NMR：1H-NMRスペクトルの測定、軽水消去法</li> <li>2. NMR：1H-NMRスペクトルの測定、二次元スペクトルの解析</li> <li>3. 薬物の膜結合性と表面電位：リポソームの調製、薬物の膜分配係数測定、Gouy-Chapman理論（1）</li> <li>4. 薬物の膜結合性と表面電位：リポソームの調製、薬物の膜分配係数測定、Gouy-Chapman理論（2）</li> <li>5. 導電率：イオン水和数・酢酸解離定数・臨界ミセル濃度の測定（1）</li> <li>6. 導電率：イオン水和数・酢酸解離定数・臨界ミセル濃度の測定（2）</li> <li>7. 濃淡電池：銀イオン濃淡電池の起電力と硝酸銀の平均活量係数の測定</li> <li>8. タンパク質の結晶化（1）</li> <li>9. タンパク質の結晶化（2）</li> <li>10. タンパク質の結晶化（3）</li> <li>11. タンパク質の結晶化（4）</li> <li>12. タンパク質立体構造決定および立体構造の視覚化と描画（1）</li> <li>13. タンパク質立体構造決定および立体構造の視覚化と描画（2）</li> <li>14. タンパク質立体構造決定および立体構造の視覚化と描画（3）</li> <li>15. タンパク質立体構造決定および立体構造の視覚化と描画（4）</li> </ol>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。							
----- 基盤薬品機能統御学実習(2)へ続く -----							

## 基盤薬品機能統御学実習(2)

### [教科書]

薬学専門実習書 I

### [参考書等]

(参考書)

必要に応じてプリントを配布する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

薬学専門実習が適切に行えるように、実習開始前の予習と予備実験を行う。実習終了後は次回の実習が適切に行えるように実習室の整理整頓を行う。

### (その他(オフィスアワー等))

コメント：薬品機能解析学分野・構造生物薬学分野の学生は必修です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 74203 PJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤薬品製剤設計学実習 Laboratory Practice in Molecular and Cellular Bioanalysis	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科	教授 特定准教授 助教	石濱 泰 Martin Robert 小形 公亮
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>（目的）医薬品製剤設計のための分析化学に関する基礎的実験法と考え方、及び実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>（概要）分析化学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
薬品分析化学に関する基礎的実験法と考え方を学び、実験の立案能力や指導法を習得する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>第1回～第4回 実習内容の立案と計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分析化学に関連する実習内容の立案</li> <li>分析化学に関連する実験の計画</li> </ul> <p>第5回～第8回 予習と予備実験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分析化学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習</li> <li>分析化学に関連する実験計画の妥当性を評価するための予備実験</li> </ul> <p>第9回～第28回 実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紫外・可視吸光分光光度計を用いた酸解離定数測定</li> <li>示差走査熱量測定による脂肪酸混合系の相図の作成</li> <li>キレート滴定を用いた複数金属イオンの定量分析法</li> <li>HPLCによる分離・分析法ならびに定量分析</li> <li>電位差滴定・伝導度滴定による多価酸塩基の中和反応の解析</li> </ul> <p>第29 - 30回 実習成果発表と総合討論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品製剤設計のための分析化学に関連する実習成果の発表と総合討論</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
実習への出席(25%)、実習内容の立案と計画(25%)、予習と予備実験(25%)、実習指導(25%)の適切さをみて総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
使用しない					
<b>[参考書等]</b>					
<p>（参考書）</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
予備実験を行い、計画が適切かどうかを前もって検証すること。また、授業終了後の感想等をベースにして、内容が適切であったかを検証すること。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
<p>コメント：生体分子計測学分野の学生には必修の実習科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング	G-PHA01 74204 PJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤生体分子薬学実習 Laboratory Practice in Basic Molecular Biology	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 教授 医生物学研究所 教授 医生物学研究所 教授	竹島 浩 橋口 隆生 伊藤 貴浩	
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
薬学部学生に対する薬学専門実習における代謝生化学、細胞生理学、微生物学、免疫学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。その実践により、生体分子薬学に関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。					
<b>[到達目標]</b>					
生体分子薬学の基礎的実験法を習得するとともに、後進指導の実践により実験担当能力を養う。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
第1回～第2回 実習内容の立案と計画 代謝生化学、細胞生理学、微生物学、免疫学に関連する実習内容の立案と実験計画					
第3回～第4回 予習と予備実験 代謝生化学、細胞生理学、微生物学、免疫学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習と予演、実験計画の妥当性を評価するための予備実験					
第5回～第14回 実習指導 ・大腸菌を用いたcDNA機能発現実験 ・酵素反応速度論実験 ・タンパク質と核酸の電気泳動実験 ・細菌グラム染色法 ・細菌の薬剤耐性実験 ・細菌の紫外線感受性実験 ・ウイルス感染・増殖実験					
第15回 実習成果発表と総合討論 代謝生化学、細胞生理学、微生物学、免疫学に関連する実習成果の発表と総合討論					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さを総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
薬学専門実習書					
<b>[参考書等]</b>					
（参考書） 必要に応じてプリントを配布する。					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
ここで学習するタンパク定量法や電気泳動法などには、手法の異なる実験法も存在する。データベース等を活用して各実験手法の特徴を学習することにより、実験推進能力のさらなる研鑽が期待される。					
（その他（オフィスアワー等））					
コメント：生体分子認識学分野、免疫制御学分野、ウイルス制御学分野、がん・幹細胞シグナル分野の学生には必修の実習科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 74206 PJ86				
授業科目名 <英訳>	基盤生体情報薬学実習 Laboratory Practice in Basic Physiological Chemistry		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 生命科学研究所 薬学研究科	准教授 教授 特定准教授	申 恵媛 木村 郁夫 CAMPBELL, Douglas Simon
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定	
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語	
<b>[授業の概要・目的]</b>						
<p>（目的）衛生化学、生理化学、細胞生物学に関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>（概要）薬学部学生に対する薬学専門実習IVにおける衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>						
<b>[到達目標]</b>						
実験の立案や指導を通じて、指導法を身につける。						
<b>[授業計画と内容]</b>						
<p>1～15：以下の実習を行う。</p> <p>実習内容の立案と計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実習内容の立案</li> <li>衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実験の計画</li> </ul> <p>予習と予備実験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実習内容について説明するための予習</li> <li>衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実験計画の妥当性を評価するための予備実験</li> </ul> <p>実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マウスの解剖および組織の摘出実験</li> <li>細胞内オルガネラの分画法とマーカー分子による評価法</li> <li>GFP融合タンパク質を用いたタンパク質の細胞内局在決定法</li> <li>培養細胞への遺伝子導入法</li> <li>蛍光顕微鏡による細胞骨格の観察</li> </ul> <p>実習成果発表と総合討論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実習成果の発表と総合討論</li> </ul>						
<b>[履修要件]</b>						
特になし						
<b>[成績評価の方法・観点]</b>						
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。						
<b>[教科書]</b>						
薬学専門実習書						
<b>[参考書等]</b>						
<p>（参考書）</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>						
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>						
実習を指導するためには、あらかじめ予習してその実習内容の背景や全体像を知ることや、実習後の確認は必須です。						
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>						
<p>生体情報制御学分野、代謝ゲノム薬学分野の学生には必修の実習科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>						

科目ナンバリング		G-PHA01 74207 PJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤薬品動態医療薬学実習 Laboratory Practice in Basic Pharmacodynamic and Pharmacological Sciences	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科	教授 教授	山下 富義 樋口 ゆり子
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>（目的） 薬物動態、薬品作用解析、ファーマコキネティクスに関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>（概要） 薬学部学生に対する薬学専門実習3における薬剤学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
薬学部学生に対する薬学専門実習3における薬剤学領域に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導ができる。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>1～15：以下の実習を行う。</p> <p>〔実習内容の立案と計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤学に関連する実習内容の立案と実験計画</li> </ul> <p>〔予習と予備実験〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤学に関連する実習内容を学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験</li> </ul> <p>〔実習指導〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品の安定性に関する実験と解析演習</li> <li>・ラットを用いた薬物の消化管吸収に関する実験と機構解析</li> <li>・ファーマコキネティック解析</li> <li>・クリアランス理論に基づく薬物動態評価</li> <li>・内用固形剤の崩壊性・溶出性に関する実験と解析</li> </ul> <p>〔実習成果発表と総合討論〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤学に関連する実習成果の発表と総合討論</li> </ul>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
薬学専門実習書					
<b>【参考書等】</b>					
<p>（参考書）</p> <p>適宜、プリントを配布する。</p>					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
学部学生の実習指導を十分行えるように、事前に実習内容を十分理解しておくことが必要である。					
（その他（オフィスアワー等））					
コメント：薬品動態制御学分野、薬品作用解析学分野の学生には必修の実習科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 74208 PJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤病態機能解析学実習 Laboratory Practice in Basic Pharmacodynamic Sciences			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	小野 正博
					薬学研究科	准教授	高橋 有己
			薬学研究科	准教授	白川 久志		
			薬学研究科	講師	渡邊 裕之		
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的） 分子イメージング学、病態機能解析学、薬物動態学、ファーマコキネティクス、中枢および末梢薬理学に関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>（概要） 薬学部学生に対する薬学専門実習4における放射化学領域、臨床分析化学、薬剤学、薬理学に関連する実習指導を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の専門研究領域の基本となる実験方法と考え方、および実験の立案能力や指導法を習得する。</li> <li>薬学部学生を直接指導することにより、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。</li> </ul>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>1～15：以下の実習を行う。</p> <p>実習内容の立案と計画 放射化学領域、臨床分析化学、薬剤学、薬理学に関連する実習内容の立案と実験計画</p> <p>予習と予備実験 放射化学領域、臨床分析化学、薬剤学、薬理学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験</p> <p>実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放射線・放射性物質の安全取扱と管理学に関する実験</li> <li>放射線測定に関する実験と解析演習</li> <li>放射性医薬品の調製に関する実験</li> <li>放射性生体分子イメージングに関する実験と解析演習</li> <li>光生体分子イメージングに関する実験</li> <li>生理活性物質・薬物の定量測定に関する実験と解析演習</li> <li>医薬品の安定性に関する実験と解析演習</li> <li>ラットを用いた薬物の消化管吸収に関する実験と機構解析</li> <li>動物実験データに基づいたファーマコキネティック解析</li> <li>クリアランス理論に基づく薬物動態シミュレーション</li> <li>内用固形剤の崩壊性・溶出性に関する実験と解析</li> <li>ラット個体および摘出標本を用いた循環器系および消化器系作用薬物の薬効解析</li> <li>マウス個体を用いた鎮痛薬および中枢作用薬の薬効解析</li> <li>ヒト作業能力に対するカフェインおよび関連薬物の二重盲検法を用いた薬効解析</li> </ul> <p>実習成果発表と総合討論 放射化学領域、臨床分析化学、薬剤学、薬理学に関連する実習成果の発表と総合討論</p>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
----- 基盤病態機能解析学実習(2)へ続く -----							

## 基盤病態機能解析学実習(2)

### [成績評価の方法・観点]

実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。

### [教科書]

薬学専門実習書

### [参考書等]

(参考書)

必要に応じてプリントを配布する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

・実習を開始する前に十分な事前準備を行うこと。また、実習終了後は得られた実験結果について十分考察すると共にプレゼンテーションや指導方法について検証すること。

### (その他(オフィスアワー等))

コメント：病態機能分析学分野、病態情報薬学分野、生体機能解析学分野の学生には必修の実習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 74209 PJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤精密有機合成化学実習 Laboratory Practice in Basic Fine Organic Synthesis	担当者所属・ 職名・氏名	化学研究所 化学研究所 化学研究所	教授 助教 助教	大宮 寛久 長尾 一哲 村上 翔
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
(目的) 有機合成化学・機器分析・計算化学に関する、基礎的実験法・原理・指導法を習熟させる。					
(概要) 実験操作の安全性と研究環境での法的遵守義務を学んだ上で、有機化合物の取扱法・合成法・分離精製法・構造解析・機能解析・理論計算の原理と実験法、及びその指導法の修得に努める。					
<b>[到達目標]</b>					
(1) 合成経路の立案と、化合物の合成操作。 (2) 標的分子の構造解析と物性解析。 (3) 爆発性化合物、禁水性化合物、不安定化合物の安全な取り扱い。 (4) 会合定数の測定、会合状態の解析。 (5) 理論計算による安定配座の評価、反応遷移状態の提案。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
1～15：以下の実習を行う。 安全講習会 実験操作と実験室での安全、化学薬品の取り扱い、研究環境での法的遵守義務の習得。 有機合成化学の実験方法 有機合成の基本操作法、有機化合物の分離精製法、および禁水、禁酸素化合物、有機金属化合物、有毒化合物の取扱法とその指導法の習得。 機器分析の実験方法 核磁気共鳴スペクトル、紫外線吸収スペクトル、質量スペクトル、赤外線吸収スペクトル、蛍光スペクトルの測定及び解析実習、高速液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィーを用いる分析法の習得、および光学活性化合物の定性、取扱法とその指導法の習得。 分子認識研究の実験方法 紫外線吸収スペクトルを用いる会合定数の評価法、核磁気共鳴スペクトルを用いる会合定数の評価法、および微量熱量測定による会合定数の評価法とその指導法の習得。 計算化学 分子力場法及び分子軌道法による分子モデリング、及び分子軌道法による反応遷移状態解析法とその指導法の習得。 実習成果発表と総合討論 有機合成化学、分子認識、および計算化学に関連する実習成果の発表と総合討論。					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
実習に取り組む姿勢、実習内容の習得度、指導法の適切さ等をもて総合的に評価する。					
----- 基盤精密有機合成化学実習(2)へ続く -----					

## 基盤精密有機合成化学実習(2)

### [教科書]

安全講習会用プリント、実験化学講座

### [参考書等]

(参考書)

有機合成法および機器分析関連の専門書、機器使用マニュアル

### [授業外学修(予習・復習)等]

化合物の安全性や毒性、物性に関する情報を実験する前にMSDS、Merck Index、危険物ハンドブック等から十分に得ておく。

適宜、開催される計算化学の講習会に参加する。

### (その他(オフィスアワー等))

コメント：精密有機合成化学分野の学生には必修の実習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 74210 PJ86			
授業科目名 <英訳>	基盤生体機能化学実習 Laboratory Practice in Basic Biofunctional Chemistry	担当者所属・ 職名・氏名	化学研究所 化学研究所	教授 准教授	二木 史朗 今西 未来
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
生体機能・生理機能の化学的・細胞生化学的・分子生物学的研究に必要な基礎的実験方法およびその指導法の習得を目的に、生体機能化学に関する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の指導を行う。生体機能化学に関連する研究を行う上での基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。					
<b>[到達目標]</b>					
生体機能化学に関連する研究を行う上での基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法を習得する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
下記のそれぞれの課題あたり3～21週の授業をする予定である。					
1．実習内容の立案と計画（二木史朗） 生体機能化学に関する実習内容の立案と実験計画					
2．予習と予備実験（二木史朗） 生体機能化学に関する実習内容について学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験					
3．実習指導（今西未来・川口祥正） （1）タンパク質の遺伝子工学的手法による調製 （2）転写因子タンパク質のDNA認識と転写活性の測定 （3）細胞の基本的な取扱と顕微鏡観察法 （4）ペプチドの化学合成法ならびにタンパク質の化学的修飾法 （5）生体膜とペプチド・タンパク質の相互作用解析法					
4．実習成果発表と総合討論（二木史朗） 生体機能化学に関する実習成果の発表と総合討論					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さを見て総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
使用しない					
<b>[参考書等]</b>					
（参考書） 必要に応じてプリントを配布する。					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
修士課程の研究課題ならびに関連学問領域の現状や課題に関して的確に掌握しつつ受講することが求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
コメント：生体機能化学分野の学生には必修の実習科目です。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 74211 PJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤医療薬剤学実習 Laboratory Practice in Basic Clinical Pharmacy		担当者所属・ 職名・氏名	附属病院	教授	寺田	智祐
				附属病院	准教授	中川	俊作
			附属病院	講師	平	大樹	
			附属病院	助教	重面	雄紀	
			附属病院	助教	今吉	菜月	
			附属病院	特定助教	勝部	友理恵	
			薬学研究科	准教授	津田	真弘	
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限		授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>							
<p>（概要）薬学部学生に対する病院実務実習における薬剤師業務に関する実習内容の立案と計画、実習開始前の予習と実習時の学部学生の指導を行う。</p> <p>（目的）調剤および医薬品管理、医薬品情報、製剤、病棟薬剤業務などの薬剤師業務に関する基本的知識および実習の立案能力や指導法の習得をめざす。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
薬学部学生に対する病院実務実習における薬剤師業務に関する実習内容の立案と計画、実習開始前の予習と実習時の学部学生の指導ができる。							
<b>【授業計画と内容】</b>							
<p>1～15：以下の実習を行う。</p> <p>〔実習内容の立案と計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師業務に関する実習内容の立案と計画</li> </ul> <p>〔実習開始前の予習〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師業務に関連する実習内容を学部学生に説明するための予習</li> </ul> <p>〔実習指導〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調剤実習 / 薬品管理</li> <li>・がん化学療法実習</li> <li>・製剤実習</li> <li>・医薬品情報実習</li> <li>・薬物血中濃度モニタリング実習</li> <li>・治験実習</li> <li>・病棟実習（内科及び外科）</li> <li>・アドバンスド実習</li> </ul> <p>〔実習成果発表と総合討論〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師業務に関連する実習成果の発表と総合討論</li> </ul>							
<b>【履修要件】</b>							
特になし							
<b>【成績評価の方法・観点】</b>							
実習内容の立案と計画、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。							
----- 基盤医療薬剤学実習(2)へ続く -----							

基盤医療薬剤学実習(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
特になし

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業前には、自らが担当する項目についてよく予習を行い、内容を説明、実施できるようにしておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

コメント：医療薬剤学分野および臨床薬学教育分野の学生には必修の実習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 74212 PJ86					
授業科目名 <英訳>	実践創薬科学実習 Laboratory Practice in Practical Drug Discovery Science			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	大野 浩章
					薬学研究科	教授	石濱 泰
				薬学研究科	助教	秋葉 宏樹	
				薬学研究科	助教	金尾 英佑	
配当学年	修士1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限	その他	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>（目的）創薬科学のための生物化学に関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得を目指す。</p> <p>（概要）薬学部学生に対する薬学専門実習における生物化学実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
創薬科学のための生物化学に関する実験方法と考え方、および実験の立案能力や指導法を習得する。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>第1回～第2回 実習内容の立案と計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物化学に関連する実習内容の立案</li> <li>・生物化学に関連する実験の計画</li> </ul> <p>第3回～第6回 予習と予備実験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物化学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習</li> <li>・生物化学に関連する実験計画の妥当性を評価するための予備実験</li> </ul> <p>第7回～第14回 実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物化学に関連した文献の収集方法</li> <li>・データベースからの配列情報の取得と編集方法</li> <li>・塩基配列情報とペプチド配列情報の照合法</li> <li>・多型や変異における配列比較と解釈の方法</li> </ul> <p>第15回 実習成果発表と総合討論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創薬科学のための生物化学に関連する実習成果の発表と総合討論</li> </ul>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さを見て総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
薬学専門実習書							
<b>[参考書等]</b>							
<p>（参考書）</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
薬学専門実習が適切に行えるように、実習開始前の予習を行う。							
（その他（オフィスアワー等））							
<p>バイオ医薬品化学分野、創薬プロテオミクス分野の学生には必修の実習科目です。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>							

科目ナンバリング		G-PHA01 74213 PJ86					
授業科目名 <英訳>	基盤創発医薬科学実習 Laboratory Practice in Medicinal Frontier Science			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	大野 浩章
					薬学研究科	教授	土居 雅夫
					薬学研究科	教授	掛谷 秀昭
					薬学研究科	准教授	平澤 明
					化学研究所	教授	緒方 博之
					化学研究所	教授	馬見塚 拓
					化学研究所	教授	上杉 志成
配当学年	1回生以上		単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年不定	
曜時限	その他	授業形態	実習（対面授業科目）		使用言語	日本語	
【授業の概要・目的】							
<p>（目的）薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピーに関する基礎的実験法と考え方、及び実験の立案能力や指導法の習得を目指す。</p> <p>（概要）薬学部学生に対する薬学専門実習における実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピー分野に関する基礎的実験法及びその指導法を習得する。</li> </ul>							
【授業計画と内容】							
1～15：所属分野に応じて、以下の実習を行う。							
<p>【薬理ゲノミクス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Gタンパク質共役受容体のゲノム機能科学に基づくリガンド探索研究</li> <li>受容体の分子レベルからin vivo機能までのシミュレーションモデル構築</li> <li>脂肪酸受容体を標的とした代謝疾患に対する新たな薬物治療法の確立</li> <li>網羅的発現解析を中心とするマルチオミクス解析による創薬基盤研究</li> </ul>							
<p>【創薬有機化学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な化学構造を有する生物活性化合物の合成と創薬展開</li> <li>複雑な化学構造を一挙に構築するための新反応の開発</li> <li>生体関連分子の合成と構造展開を基盤とする機能性分子の創製と応用</li> <li>ペプチド・タンパク質の化学合成技術を活かした生物活性評価法の開発と応用</li> <li>化合物ライブラリーの構築とそれらを活用した機能性分子の探索</li> </ul>							
<p>【システムバイオロジー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間医薬科学の創成を目指した先端的システムバイオロジー研究</li> <li>体内時計を基盤とした老化・加齢の時間治療戦略の開発</li> <li>G蛋白質共役受容体による睡眠・代謝・環境適応の脳内基盤の解明</li> <li>生体リズム異常による生活習慣病の解明とヒトへの臨床応用</li> <li>化合物ライブラリー網羅探索に基づく生体リズム調整薬の創出</li> </ul>							
<p>【システムケモセラピー（制御分子学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多因子疾患（がん、心疾患、感染症、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等）に対する次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究</li> <li>創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学</li> <li>ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究およびメディシナルケミストリー研究</li> <li>有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究（コンビナトリアル生合成研究等）</li> </ul>							
----- 基盤創発医薬科学実習(2)へ続く -----							

## 基盤創発医薬科学実習(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。

### [教科書]

各分野の指示に従うこと。

### [参考書等]

(参考書)

各分野の指示に従うこと。

### [授業外学修(予習・復習)等]

薬学専門実習が適切に行えるように、実習開始前の予習を行う。

### (その他(オフィスアワー等))

薬理ゲノミクス、創薬有機化学、システムバイオロジー、システムケモセラピー(制御分子学)、統合ゲノミクス、分子設計情報、ケミカルバイオロジー分野の学生には必修の実習科目です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA01 79011 SJ86			
授業科目名 <英訳>	先端薬科学研究演習 I Seminar for Innovative Pharmaceutical Sciences I	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	薬科学専攻教員	
配当学年	博士後期1回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>（目的）プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、薬科学研究分野に関連する最先端の知識や個々の研究データの解釈法、論理的思考能力を身につけるとともに、創薬研究者や教育者として求められる研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための高度な問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要）有機化学、物理化学、生物化学などの研究分野に関連する最先端の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習の際にも説明する。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
創薬研究者や教育者として求められる研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための高度な問題解決能力を習得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>1～15：以下の演習を行う。</p> <p>先端有機化学研究法（竹本、高須、中、瀧川、大宮）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有機化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ 有機化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ 有機化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>先端物理化学研究法（松崎、星野、加藤（博）、小川、石濱、杉山）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物理化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ 物理化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ 物理化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>先端生物化学研究法（竹島、柿澤、申、加藤（洋）、二木、今西、井垣、菅田、生田、橋口、伊藤（能））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ 生物化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ 生物化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さ、演習をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
必要に応じてプリントを配布する。					
<b>【参考書等】</b>					
<p>（参考書）</p> <p>演習内容に応じて指定する場合がある。</p>					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
問題発見能力や問題解決能力を身につけるための基本は自学自習です。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワー：研究指導を行う教員が随時受け付ける。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 79012 SJ86			
授業科目名 <英訳>	先端薬科学研究演習 I I Seminar for Innovative Pharmaceutical Sciences II	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科 薬科学専攻教員		
配当学年	博士後期2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>（目的）プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、薬科学研究分野に関連する最先端の知識や個々の研究データの解釈法、論理的思考能力を身につけるとともに、創薬研究者や教育者として求められる研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための高度な問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>（概要）有機化学、物理化学、生物化学などの研究分野に関連する最先端の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習の際にも説明する。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
最先端の知識や個々の研究データの解釈法、論理的思考能力を身につけるとともに、創薬研究者や教育者として求められる研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための高度な問題解決能力を習得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>1～15：以下の演習を行う。</p> <p>先端有機化学研究法（竹本、高須、中、瀧川、大宮）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有機化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ 有機化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ 有機化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>先端物理化学研究法（松崎、星野、加藤（博）、小川、石濱、杉山）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物理化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ 物理化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ 物理化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>先端生物化学研究法（竹島、柿澤、申、加藤（洋）、二木、今西、井垣、菅田、生田、橋口、伊藤（能））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーション</li> <li>・ 生物化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>・ 生物化学に関連する最先端の研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さ、演習をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
必要に応じてプリントを配布する。					
<b>【参考書等】</b>					
<p>（参考書）</p> <p>演習内容に応じて指定する場合がある。</p>					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
問題発見能力や問題解決能力を身につけるための基本は自学自習です。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワー：研究指導を行う教員が随時受け付ける。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA01 69013 LJ86			
授業科目名 <英訳>	先端薬科学特論 Innovative Pharmaceutical Sciences	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	薬科学専攻教員	
配当学年	博士後期1-3回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定
曜時限	集中	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>(目的) 薬科学の各研究分野の最先端の研究内容に関して履修することによって、創薬研究者や教育者に求められる幅広い視点と素養の習得をめざす。</p> <p>(概要) 有機化学、物理化学、生物化学などの研究分野に関連する最先端の研究成果について講義を行ったのちに討論を行う。必要に応じて、研究科外の非常勤講師が講義を行う。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
薬科学の各研究分野の最先端の研究内容に関して履修することによって、創薬研究者や教育者に求められる幅広い視点と素養を習得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>1～5 . 有機化学に関連する最先端の研究の紹介と討論（竹本、高須、大宮）</p> <p>6～10 . 物理化学に関連する最先端の研究の紹介と討論（松崎、加藤（博）、石濱）</p> <p>11～15 . 生物化学に関連する最先端の研究の紹介と討論（竹島、二木、木村、井垣、小柳、生田、伊藤（貴）、橋口、伊藤（能））</p>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
講義への出席状況、講義をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
必要に応じてプリントを配布する。					
<b>【参考書等】</b>					
<p>（参考書）</p> <p>講義内容に応じて指定する場合がある。</p>					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
研究課題ならびに関連学問領域の現状や課題を的確に把握しつつ受講すること。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
オフィスアワー：随時受け付ける。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-PHA01 69013 LJ86				
授業科目名 <英訳>	先端薬科学特論 Innovative Pharmaceutical Sciences	担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	薬科学専攻教員	
配当学年	博士後期1-3回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期不定
曜時限	集中	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>(目的) 薬科学の各研究分野の最先端の研究内容に関して履修することによって、創薬研究者や教育者に求められる幅広い視点と素養の習得をめざす。</p> <p>(概要) 有機化学、物理化学、生物化学などの研究分野に関連する最先端の研究成果について講義を行ったのちに討論を行う。必要に応じて、研究科外の非常勤講師が講義を行う。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
薬科学の各研究分野の最先端の研究内容に関して履修することによって、創薬研究者や教育者に求められる幅広い視点と素養を習得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>第1回～第5回 有機化学に関連する最先端の研究の紹介と討論（竹本、高須、大宮）</p> <p>第5回～第10回 物理化学に関連する最先端の研究の紹介と討論（松崎、加藤（博）、石濱）</p> <p>第11回～第15回 生物化学に関連する最先端の研究の紹介と討論（竹島、二木、木村、井垣、小柳、生田、伊藤（貴）、橋口、伊藤（能））</p>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
講義への出席状況、講義をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
必要に応じてプリントを配布する。					
<b>【参考書等】</b>					
<p>（参考書）</p> <p>講義内容に応じて指定する場合がある。</p>					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
研究課題ならびに関連学問領域の現状や課題を的確に把握しつつ受講すること。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
オフィスアワー：随時受け付ける。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-PHA02 67001 LJ86			
授業科目名 <英訳>	医薬創成研究プロジェクト特論 Advanced Drug Discovery & Development I		担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	医薬創成情報科学専攻教員
配当学年	博士後期1-3回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	集中	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>医薬品創成プロジェクトにおけるプロジェクト企画、プロジェクト管理、ならびに医薬ITビジネスに関連する情報科学技術全般に関するより高度で専門的な最新のトピックスに関して、担当教員や製薬企業等からの非常勤講師が講義を行う。さらに、国際性と英語でのコミュニケーション能力を養うために、外国人講師による講演会や外国人講師への研究プレゼンテーション・ディスカッションも不定期に開催する。</p> <p>本特論を通じて、生命科学系および情報科学系の学際融合領域における各系最先端研究に重要な知識を修得し、医薬品創成に必要な応用的基盤の確立を目指す。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
生命科学系および情報科学系の学際融合領域における各系最先端研究に重要な知識を修得し、医薬品創成に必要な応用的基盤の確立を行う。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
1課題あたり2週の授業をする予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院における薬学の研究と教育の現状・展望</li> <li>2. 有機化合物の最新の反応・合成</li> <li>3. 天然物化学・漢方薬・生薬に関する最新の話</li> <li>4. 創薬研究における最新のケミカルバイオロジー研究</li> <li>5. 最新のキラルテクノロジー・グリーンケミストリー</li> <li>6. 創薬研究における最新のプロセス化学</li> <li>7. 情報技術基礎</li> <li>8. 統計科学・知識科学に関連する医学・薬学での研究概要</li> <li>9. 知的財産・ビジネスモデルに関連する医学・薬学での研究概要</li> <li>10. 計算機演習によるITビジネスの医学・薬学での研究概要</li> <li>11. ゲノム創薬科学と薬理ゲノミクス</li> <li>12. ゲノム創薬科学とテーラーメイド医療</li> <li>13. 臨床研究の現状と医療現場におけるトピックス</li> <li>14. 製薬企業における医薬創成プロジェクト研究の現状・展望</li> <li>15. 総合討論</li> </ol>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
出席状況、講義内容をもとに課す課題に対するレポートなどを総合的に評価する。					
----- 医薬創成研究プロジェクト特論(2)へ続く -----					

医薬創成研究プロジェクト特論(2)

**[教科書]**

必要に応じてプリント等を配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

『インシリコ創薬科学-ゲノム情報から創薬へ-』(京都廣川書店)  
Nature, Cell, Science, J. Am. Chem. Soc. 等をはじめとする化学、生物学、情報科学を対象とした学術雑誌。  
その他、講義内容に応じて指定する場合がある。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

事前の予習、講義内容の復習を積極的に行い、最先端の知識の習得と研究活動スキルの基盤確立を目指すこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-PHA02 77005 SJ86					
授業科目名 <英訳>	システム生物学・医薬創成系研究 Research in Systems Biology & Drug Discovery			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	大野 浩章
					薬学研究科	教授	掛谷 秀昭
					薬学研究科	教授	土居 雅夫
					薬学研究科	准教授	平澤 明
配当学年	博士後期1-3回生	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
システム生物学・医薬創成系分野において研究を実施し博士研究論文を発表する							
<b>[到達目標]</b>							
薬理ゲノミクス分野、システムバイオロジー分野、システムケモセラピー分野、ケモゲノミクス分野の領域に関する研究を行い、その成果を研究論文として作成すること。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
以下の課題を1課題あたり2週の予定で授業を行う。							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬理ゲノミクス分野の領域に関する研究 1 序論（基礎と臨床）（平澤明）</li> <li>・ 薬理ゲノミクス分野の領域に関する研究 2 方法（基礎と臨床）（平澤明）</li> <li>・ 薬理ゲノミクス分野の領域に関する研究 3 結果（基礎と臨床）（平澤明）</li> <li>・ 薬理ゲノミクス分野の領域に関する研究 4 討論と最近の研究論文の紹介（基礎と臨床）（平澤明）</li> <li>・ システムバイオロジー分野の領域に関する研究 1 序論（基礎と臨床）（土居雅夫）</li> <li>・ システムバイオロジー分野の領域に関する研究 2 方法（基礎と臨床）（土居雅夫）</li> <li>・ システムバイオロジー分野の領域に関する研究 3 結果（基礎と臨床）（土居雅夫）</li> <li>・ システムバイオロジー分野の領域に関する研究 4 討論と最近の研究論文の紹介（基礎と臨床）（土居雅夫）</li> <li>・ システムケモセラピー分野の領域に関する研究 1 序論（基礎と臨床）（掛谷秀昭）</li> <li>・ システムケモセラピー分野の領域に関する研究 2 方法（基礎と臨床）（掛谷秀昭）</li> <li>・ システムケモセラピー分野の領域に関する研究 3 結果（基礎と臨床）（掛谷秀昭）</li> <li>・ システムケモセラピー分野の領域に関する研究 4 討論と最近の研究論文の紹介（基礎と臨床）（掛谷秀昭）</li> <li>・ ケモゲノミクス分野の領域に関する研究 1 序論（基礎と臨床）（大野浩章）</li> <li>・ ケモゲノミクス分野の領域に関する研究 2 方法（基礎と臨床）（大野浩章）</li> <li>・ ケモゲノミクス分野の領域に関する研究 3 結果、討論と最近の研究論文の紹介（基礎と臨床）（大野浩章）</li> </ul>							
<b>[履修要件]</b>							
特になし							
<b>[成績評価の方法・観点]</b>							
出席状況、演習内容をもとに課す場合がある。課題に対するレポートなどを総合的に評価する。							
<b>[教科書]</b>							
必要に応じてプリントを配布する。							
<b>[参考書等]</b>							
（参考書） 演習の内容に応じて指定する場合がある。							
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>							
薬理ゲノミクス分野、システムバイオロジー分野、システムケモセラピー分野、ケモゲノミクス分野の領域に関する、これまでの最先端の研究成果を調査を行い、理解して、研究に当たること。							
（その他（オフィスアワー等））							
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-PHA02 77007 SJ86						
授業科目名 <英訳>	システム生物学・医薬創成系コンテンツ制作 Advanced Methods in Systems Biology & Drug Discovery			担当者所属・ 職名・氏名	薬学研究科	教授	大野	浩章
					薬学研究科	教授	掛谷	秀昭
					薬学研究科	教授	土居	雅夫
					薬学研究科	准教授	平澤	明
配当学年	博士後期1-3回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定			
曜時限		授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語			
<b>[授業の概要・目的]</b>								
システム生物学・医薬創成系分野において、Webアプリケーションやプログラムなどのコンテンツを作成、公開する。								
<b>[到達目標]</b>								
システム生物学・医薬創成系分野に関する研究を調査し、統合的に理解した上で、コンテンツを作成する。								
<b>[授業計画と内容]</b>								
第1回－第7回 薬理ゲノミクス分野の研究領域に関するコンテンツ制作（設計、設計討論、作成、作成討議、設計改善、改善策の実施、まとめ）（平澤明）								
第8回－第14回 システムバイオロジー分野の研究領域に関するコンテンツ制作（設計、設計討論、作成、作成討議、設計改善、改善策の実施、まとめ）（土居雅夫）								
第15回－第21回 システムケモセラピー分野の研究領域に関するコンテンツ制作（設計、設計討論、作成、作成討議、設計改善、改善策の実施、まとめ）（掛谷秀昭）								
第22回－第28回 ケモゲノミクス分野の研究領域に関するコンテンツ制作（設計、設計討論、作成、作成討議、設計改善、改善策の実施、まとめ）（大野浩章）								
第29回－第30回 全体討論と作業総括（平澤明・土居雅夫・掛谷秀昭・大野浩章）								
<b>[履修要件]</b>								
特になし								
<b>[成績評価の方法・観点]</b>								
出席状況、演習内容をもとに課す場合がある。課題に対するレポートなどを総合的に評価する。								
<b>[教科書]</b>								
必要に応じてプリントを配布する。								
<b>[参考書等]</b>								
（参考書） 演習の内容に応じて指定する場合がある。								
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>								
コンテンツ課題に関する、過去から最新の報告まで、入念に調査しておくこと。								
（その他（オフィスアワー等））								
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。								